

# 自己点検・評価報告書

(平成30年度分)



# 目 次

## 序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	3

## 第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	5
第2節 大学組織	9
第3節 学生の状況	17

## 第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	21
第2節 学部の教育活動	25
第3節 研究科の教育活動	28
第4節 看護実践国際研究センターの活動	30

## 第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	31
第2節 研究活動	34
第3節 社会・地域貢献活動	44

## 第4章 社会貢献

第1節 公開講座	48
第2節 分野の活動	48

## 第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	50
第2節 広報・交流委員会	50
第3節 教務委員会	52
第4節 実習委員会	55
第5節 入試検討委員会	58
第6節 図書委員会	61
第7節 紀要委員会	63
第8節 学生委員会	64
第9節 ネットワーク推進委員会	67
第10節 FD・SD委員会	68
第11節 評価委員会	70
第12節 倫理委員会	72
第13節 ハラスメント防止委員会	73
第14節 動物実験委員会	76
第15節 感染症対策委員会	77
第16節 コンソーシアム信州運営	78
第17節 防災委員会	79

第 18 節	安全衛生委員会	8 3
第 19 節	研究科委員会教務部会	8 4
第 20 節	研究科委員会入試部会	8 6

## 第 6 章 学生生活及び学生への支援

第 1 節	学生支援活動	9 0
第 2 節	キャリア形成支援	9 3
第 3 節	保健厚生	9 7
第 4 節	修学資金等	9 9
第 5 節	サークル活動及び大学祭	1 0 0
第 6 節	関係団体の活動	1 0 2
第 7 節	学生生活アンケート	1 0 7

## 第 7 章 施設の管理運営

第 1 節	施設の状況	1 1 0
第 2 節	財政の状況	1 1 6

第 8 章	点検・評価総括	1 1 8
-------	---------	-------

## 自己点検・評価報告書（平成 30 年度）の刊行にあたって

平成 23 年度に、自己点検・評価報告書（報告書）が刊行されて以来、今回で 8 回目の発刊にあたります。大学の年間活動の概況をまとめることは大変な作業ですが、1 年間の取り組みを整理・点検することによって、社会のニーズを踏まえた自らの手による「教育の質の保証と向上」につながることから、報告書の刊行は自学の「自律」と「自治」の取り組みの証といえます。

今日、私たちは急激な社会変革の只中において、教育の分野においても同様の変革が求められています。「社会は本学に何を求めているのか？」この問い掛けを絶えず自問し誠実かつ的確に応えるためには、本学の教育理念や教育目標、いわゆる 3 P (Admission Policy, Curriculum Policy, Diploma Policy)、中期構想等に基づく教育活動に対する適切な評価基準・評価方法が求められます。すなわち、入学から卒業・修了までの、大学・大学院教育を充実させるために教育評価を行ない、教育研究、地域貢献活動や大学運営の PDCA サイクルを回し、その積み重ねが確かな歩みとなるよう努力しなければなりません。こうしたプラスのスパイラルを生起させるためには、PDCA サイクルの特に P(実施計画)と C(自己点検・評価)を結び付けることが必要不可欠です。2020 年には、看護学の認証評価がスタートする予定であることから、本学においても、教育科目の適切性並びに教育目的・目標に対する学生自身の到達評価を可能とする仕組みの構築と学習成果の可視化に向けた検討を進めていく必要があります。

本学は開学以来、学校教育法第 109 条の認証評価機関である大学基準協会の 2 回目の審査を平成 23 年に終え、平成 27 年 7 月末には、努力課題に対する報告を行い、基準協会から再度報告を求める事項はありませんでした。そして、平成 30 年 10 月に 3 回目の受審を終えましたが、その過程で、①教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備が不十分なこと、②内部質保証システムの整備が不十分なこと、が改善課題として指摘されました。今後、①については、教育理念や教育目標と教育科目との整合性・適切性の全学的な確認作業を行うこと、②については、内部質保証を推進する組織改革と権限や責任の範囲を明確化すること、に速やかに取り組んでいきたいと思います。

平成 30 年度は新学長として就任したことから、前学長の第 2 次中期構想の点検・評価を踏まえながら、第 3 次中期構想の策定にあたる年度となりました。激変する社会のニーズに応えるために、基礎看護学講座に新たに「看護管理学・看護教育学」分野を立ち上げ、本

庁からの委託により令和2年度に「看護教員養成事業」を引き受けることから、看護実践国際センターに「看護教員・看護管理者教育部門」を新たに創設することとし、令和元年度に認知症看護分野が終了することに伴い「認定看護師教育部門」廃止の決定、また学生・教職員にグローバルな視野(多様性)を涵養する必要性から海外の看護系大学との交流を促進すること等を実施・推進してきました。

現在、文部科学省は高大接続システム改革を推進しており、大学入学者選抜改革と大学教育改革が進められています。大学入学者選抜改革については、令和3年度入学者選抜から、過疎地域や長野県内の医療に従事しようとするものを対象とした「地域特別枠選抜」や「学校推薦型選抜B」を新たに設ける予定です。大学教育改革については、文科省の大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会の策定した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づいて教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備を進めていきたいと思えます。長野県内の看護職の需給見通しは地域の偏在はあるもののほぼ100%であるといわれています。加えて、平成31年度(2019年度)、新たに県内に2つの看護学部が開学したことから、本学のオリジナリティ・ブランド化の取り組みが一層求められています。

以上の観点から、今回、教職員が協働して報告書の作成に取り組むことを通して、本学の特長、現状と課題等を改めて認識し「社会は本学に何を求めているのか？」という根本的な問いに教職員一人一人が真摯に向き合うための貴重な機会となったことと思えます。引き続き本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指した看護人材育成や社会・地域貢献活動等を推進して、公立大学としての使命を果たしていきたいと思えます。

令和元年6月18日

長野県看護大学

学長 北山秋雄

## 長野県看護大学の概要

### 1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

### 2 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4年	入学定員 80名 編入学定員 (3年次10名) (128から募集停止)	340名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2年	16名	32名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3年	4名	12名	博士（看護学）

### 3 施 設

(1) 所在地 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地

(2) 敷地面積 75,733.00㎡

(3) 建物延床面積 19,144.54㎡

[建物等の面積及び主な施設・設備]

区 分	面 積 (㎡)	主 な 施 設 ・ 設 備
管 理 棟	2,242.13	学長室 事務室 保健室 会議室 食堂 売店
教育研究棟	9,079.39	講義室 演習室 実習室 実験室 情報処理教室 研究室
図 書 館	1,200.62	閲覧室68席 キャレール12席 グループ学習室 AVルーム
体 育 館	893.68	バスケットボール1面 バレーボール2面
屋内プール棟	1,131.64	25m6コース（内スロープコース1）健康増進研究室
講 堂	962.43	511席 AV設備 ピアノ
学 生 棟	802.21	学生ホール 自治会室 クラブ室
非常勤講師宿舎	328.00	1棟8室
学生寄宿舍	2,504.44	2棟80室
グラウンド	15,948.00	250mトラック テニスコート4面
有酸素運動研究コース	12,505.00	コース延長600m
語らいの並木		90m×2

### 4 沿 革

昭和60(1985)年	5月	・県行政審議会答申「看護婦養成体制の質的強化を図るため、看護専門学校は、将来一校体制(看護大学等)として充実すべきである。」
平成2(1990)年	10月	・県看護婦等養成確保対策研究会報告「高度な看護教育を行なうため4年生大学を設置する必要がある。」
平成3(1991)年	6月	・看護大学設置決定
	8月	・県立看護大学設置準備委員会の設置
平成5(1993)年	4月	・看護大学設立準備室の設置

平成6(1994)年	12月	・看護学部看護学科設置認可
*****		
平成7(1995)年	4月	・長野県看護大学開学(看護学部看護学科定員80名)
		・第1回入学式
	6月	・開学式
平成9(1997)年	4月	・3年次編入制度(定員10名)開始
平成10(1998)年	4月	・科目等履修生制度開始
	12月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士前期課程設置認可
平成11(1999)年	3月	・第1回卒業式
	4月	・大学院博士前期課程(定員16名)開設
	11月	・屋内プール棟完成
平成12(2000)年	12月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士後期課程設置認可
平成13(2001)年	3月	・第1回大学院修了式
	4月	・大学院博士後期課程(定員4名)開設
	7月	・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定の締結
平成15(2003)年	2月	・大学院小児看護分野 CNS コース認定申請承認
	4月	・社会人特別選抜制度開始
	7月	・長野県看護大学と放送大学との間における単位互換に関する協定の締結
	12月	・大学院老年看護分野 CNS コースの認定申請承認
平成16(2004)年	7月	・長野県看護大学とカリフォルニア大学サンフランシスコ校との相互協力に関する協定の締結
	11月	・創立10周年記念式典
平成17(2005)年	1月	・長野県内7大学単位互換に関する協定締結
平成18(2006)年	4月	・大学院に里山・遠隔看護学分野を開設
平成19(2007)年	4月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成19年4月1日～平成24年3月31日)
平成20(2008)年	4月	・長野県組織規則に看護実践国際研究センターを位置付け
平成22(2010)年	3月	・駒ヶ根市と災害時における協力体制に関する協定を締結
	11月	・健康センター開設
平成23(2011)年	2月	・大学院小児看護分野の CNS コースの更新申請承認
	4月	・講座の再編
	6月	・認定看護師教育課程開講(皮膚・排泄ケア分野、感染管理分野)
平成24(2012)年	3月	・大学院老年看護分野の CNS コースの更新申請承認
		・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成24年4月1日～平成31年3月31日)
	4月	・大学院長期履修制度開始
平成25(2013)年	6月	・認定看護師教育課程認知症看護分野開講、皮膚・排泄ケア分野休講
平成26(2014)年	2月	・駒ヶ根市と長野県看護大学との包括的連携に関する協定締結
	3月	・大学院精神看護分野 CNS コース(38単位)の認定申請承認
	11月	・創立20周年記念式典
	12月	・長野県立こころの医療センター駒ヶ根、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成28(2016)年	4月	・3年次編入生募集停止
平成29(2017)年	4月	・認定看護師教育課程感染管理分野休講
		・伊那神経科病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成30(2018)年	3月	・大学院小児看護分野の CNS コース(38単位)の認定申請承認
		・大学院老年看護分野の CNS コース(38単位)の認定申請承認
	9月	・長野県看護大学と中国揚州大学との相互協力に関する協定の締結
		・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する覚書の締結
平成31(2019)年	3月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成31年4月1日～平成38年3月31日)

## 第1章 学事と組織

### 第1節 教育理念・教育目標

#### (1) 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行った。教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

#### ○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

#### (2) 学部の教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い視野を養う。
  - (1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
  - (2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
  - (3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。
2. 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。
  - (1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
  - (2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
  - (3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
  - (4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
  - (5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
  - (6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
  - (7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
  - (8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。
3. 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。
  - (1) 看護実践における課題を見出すことができる多角的な視点を身につける。
  - (2) 課題解決にむけた創造的で論理的な思考能力を身につける。

### (3) 学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤となる豊かな人間性と幅広い視野を備え、深い人間理解にもとづいた看護を創造的に実践する能力を有すると認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

- 看護の対象となる人と援助関係を築くことができる
- 科学的なアセスメントに基づいて看護を実践することができる
- ケアに関わる人々と協働することができる
- 看護職者としての専門性を生涯にわたって高めていくことができる

### (4) 学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学生個々の可能性を最大限開花させるという教育理念のもと、深く人間を理解し豊かな人間性を持った看護専門職の育成のために、4年間のカリキュラムを以下のように構成しています。

#### 【 人間理解の基礎科目 】

看護を学ぶ上で必要不可欠である、人を深く知るための能力、幅広い視野と創造性を養うことを目的としています。

生物学的な存在としての「ヒト」のみならず、自然・文化・社会の中でさまざまな環境と深く関わりながら生活を営む「人」を総体として理解する能力を育むために、以下の2つの科目群で構成されます。

1. 生命を維持する仕組みと機能
2. 人と人を取り巻く環境

#### 【 看護専門科目 】

看護専門職者としての基盤となる力を育み、看護に関わる諸問題をとらえて論理的に説明し、問題解決に向けた実践・研究能力を養うことを目的としています。以下の4つの科目群で構成されます。

1. 人と健康
2. 看護の基本
3. 看護の実践
4. 看護の実践と統合

このようなカリキュラムをとおして、看護職者としての基礎的な能力を養うとともに、主体性と自律性をもった専門職として生涯にわたり学び続ける力を育みます。

また、長野県民の健康長寿を支える県内の豊かな健康資源について学生が理解し、多様な場で様々な健康レベルに合わせた看護実践能力を身に付けることができるよう、地域交流を積極的に取り入れています。

さらに、国際的な視野を持って地域社会に貢献できる看護実践者の育成を目指し、海外の大学との教育協定等により国際的に看護を学ぶ場を提供しています。

分類	科目群	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年	
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
人間理解の基礎科目	生命を維持する仕組みと機能	生物学 化学 運動実技・理論Ⅰ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 情報処理科学	生化学 薬理学 人体の構造と機能演習 <i>生命科学演習</i>		運動実技・理論Ⅱ	運動理論			
	人と人を取り巻く環境	統計学 英文読解の基礎 英会話の基礎 教育学 社会学 信州学 教の語と教養数学 仏語 コミュニケーション論 心理学	倫理学 医療英文読解演習Ⅰ 医療英会話の基礎Ⅰ	医療英文読解演習Ⅱ 医療英会話の基礎Ⅱ 哲学 文化人類学 経済学 人間工学	法学 生命倫理	保健統計学 英会話演習 英語文化研究 論理学	芸術と人間		仏語
看護専門科目	人と健康	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	病理学 病理学演習 保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	疾病学Ⅰ 疾病学Ⅱ 感染学 疫学	感染学演習	看護栄養学	遺伝と人間		
	看護の基本	看護学概論 基礎看護方法Ⅰ 基礎看護実習Ⅰ	公衆衛生学 フィジカルアセスメント 基礎看護方法Ⅱ	看護過程の理論と展開		症状マネジメント論	看護倫理		
	看護の実践			慢性期看護概論 老年看護概論 精神看護概論Ⅰ 母性看護概論 小児看護概論Ⅰ 地域看護概論 在宅ケア論	慢性期看護方法 急性期看護概論 老年看護方法Ⅰ 精神看護概論Ⅱ 母性看護方法Ⅰ 小児看護概論Ⅱ 小児看護方法Ⅰ 地域看護方法Ⅰ 在宅ケア方法Ⅰ 家族援助論 多文化共生看護学	急性期看護方法 老年看護方法Ⅱ 精神看護方法 母性看護方法Ⅱ 小児看護方法Ⅱ	成人看護実習 老年看護実習 精神看護実習 母性看護実習 小児看護実習 地域看護実習 在宅看護実習		
	看護の実践と統合					保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 国際看護学Ⅰ 国際看護学Ⅱ 国際看護実習	地域母子保健 助産方法Ⅰ 助産方法Ⅲ	助産方法Ⅱ	助産実習
	看護の実践と統合					看護研究方法 医事法学	看護管理論 看護統合実習	看護論 看護教育論 卒業研究	助産業務管理

### (5) 学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

#### 【求める学生像】

本学は、看護師、保健師、助産師として長野県をはじめ日本各地の医療・保健機関や自治体において、多様な文化を理解し地域社会の人々の健康と幸せを守ることに貢献できる看護実践者の育成を目指しています。

このような看護実践者の育成を目指す本学では、以下のような人を求めています。

- ①自然や人間の様々な現象に興味を持ち、積極的に学ぼうとする人
- ②相手の話に耳をよく傾け、自分の考えを適切に表現しようとする人
- ③人間の尊厳を重んじ、相手の個性を尊重して協調しようとする人
- ④問題に自ら進んで向き合い、柔軟な考え方で解決しようとする人
- ⑤看護専門職として社会に貢献しようとする人

#### 【選抜方法】

本学の教育理念、求める学生像に見合った人を選抜するため、一般選抜入試(前期日程、後期日程)と特別選抜入試(推薦、社会人)を実施しています。

一般選抜入試では、入学者の選抜は、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人を求めるため大学入試センター試験を課し、本学が実施する小論文及び面接並びに調査書の審査の結果を総合して行います。特別選抜入試(推薦)では、本学が実施する小論文(英語の課題文の読解を含む。)及び面接並びに調査書等の審査の結果を総合して行います。

## (6) 研究科の教育目標

### 1. 博士前期課程

- (1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。
- (2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。
- (3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

### 2. 博士後期課程

- (1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。
- (2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。
- (3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

## (7) 研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### 1. 博士前期課程

課程修了の要件を満たし、次に該当する者に修士（看護学）の学位を授与する。

広い視野を持ち看護学に関する専門分野の学識を深め、科学的な思考力を身に付け、保健医療福祉の現場において、研究成果を活用できる高度な専門知識と実践能力を有する者。

修士論文コースにおいては、看護の質向上に貢献できる研究能力を備えた者。

専門看護師コースにおいては、高度な専門知識と実践能力に基づき、多様な健康課題を解決でき、看護の質向上に貢献できる者。

### 2. 博士後期課程

学際的な視野を持ち、看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力ならびに優れた人材を育成する教育能力を有し、課程修了の要件を満たした者に博士（看護学）の学位を授与する。

## (8) 研究科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### 1. 博士前期課程

博士前期課程では、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探求することを目指し、修士論文コースと専門看護師コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 広い視野と創造性を養うための科目から編成される「共通選択科目」（8単位）、修士論文コース・専門看護師コースどちらのコースにおいても看護学の基礎的能力と倫理観を養うための「必修科目」（修士論文コース12単位、専門看護師コース8単位）を置いている。
- (2) 専門性を深め研究遂行能力を養う、または専門職の実践力を育てるための4領域11分野において、特論（4単位以上）、演習（6単位）を置いている。
- (3) 修士論文の作成にあたっては「修士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 修士論文コースにおいては、学際的な視野から教育を行うために主指導教員に加え副指導教員を配置し、「看護学課題研究」（6単位）を課している。
- (5) 専門看護師コースにおいては、卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うため、「専門科目」の特論、演習、実習を置いている。これに加え、実践者としての分析・考察力を養うため「看護実践課題研究」（2単位）を課している。

(6) 修士論文審査の透明性と客観性を確保するため「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

## 2. 博士後期課程

博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 学際的視野を広げるため、「共通選択科目」（4単位以上）を置いている。
- (2) 領域別専門科目9分野において、専門的な研究能力と倫理観を養うため、特論（2単位）、演習（4単位）を置いている。
- (3) 博士論文の作成にあたっては、「博士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、博士論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 博士論文審査の透明性と客観性を確保するために「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

## (9) 研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

### 【修士課程】

1. 臨床現場の課題を探求し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
2. 基礎的研究能力を培い、看護学の探求を目指す人
3. 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人

### 【博士課程】

1. 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
2. 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
3. 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

## 第2節 大学組織

### (1) 組織

#### 1) 組織図

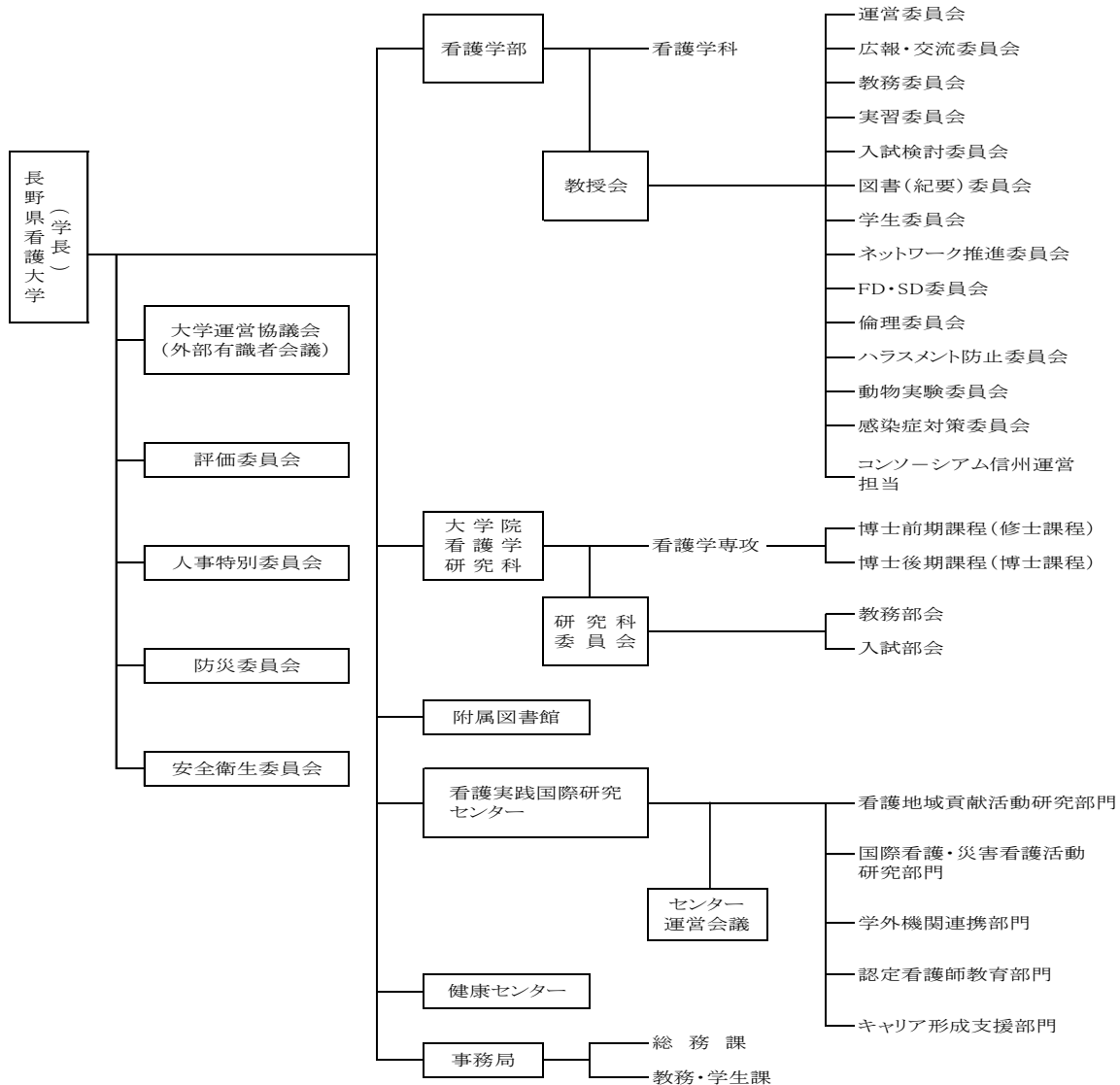
本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参画、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献活動研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

(表2-1)  
(平成30年4月1日現在)



2) 組織構成

①学部は、平成22年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成23年度から新たに4つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表2-2のとおりである。

②研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上のせる形で組織されているが、学部の講座を超えた5つで構成している。(表2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看護学分野は、

本学が立地する長野県の地域特性に配慮した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成18年度から開設している。

表2-2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学
基礎看護学講座	基礎医学・疾病学
	病態・治療学
基礎看護学講座	基礎看護学
発達看護学講座	母性・助産看護学
広域看護学講座	小児看護学
	成人看護学
	老年看護学
広域看護学講座	精神看護学
	地域・在宅看護学

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
発達看護学領域	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
	老年看護学分野
広域看護学領域	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
専門関連領域	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 13 年度に小児看護学分野・老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師（以後「CNS」と省略する。）コースを開設している。

### 3) 大学運営協議会

#### ① 概要

県立大学としてその運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月）

区分	職	氏名	所 属
地方公共団体	駒ヶ根市長	杉 本 幸 治	市長会
看護現場	看護部長	代 田 とみ子	飯田市立病院
〃	副院長 看護部長	斎 藤 依 子	長野県立こども病院
〃	顧問	川 口 寿賀糸	長野県訪問看護ステーション連絡協議会
保健現場	課長	中 村 杏 子	飯島町健康福祉課
教育研究機関	学部長	坂 江 千寿子	佐久大学看護学部
〃	特任教授	笠 原 悦 男	松本歯科大学
〃	学部長	川 島 良 雄	長野大学社会福祉学部
地域経済界	副会頭	福 澤 秀 宏	駒ヶ根商工会議所
学識経験者	小児科医	藪 原 明 彦	上伊那医師会
卒業生	看護師長	久保 貴三子	諏訪中央病院

（平成 30 年 11 月 9 日現在、敬称略）

#### ② 平成 30 年度の開催概要

開催日	開催場所	協 議 事 項 等
平成 30 年 11 月 9 日	看護大学 大会議室	(1)看護大学の概要について ・大学の概要 ・入学者、卒業生の状況 (2)平成 33 年度(2021 年度)入学者選抜について (3)第 2 期信州保健医療総合計画について (4)看護大学への期待・要望事項等について

## (2) 教職員

### 1) 教職員名簿

#### ① 学部専任教員

(平成30年5月1日現在)

講座	分野	職位	氏名	
		学長	北山秋雄	
		学部長	渡辺みどり	
人間基礎科学講座	哲学・倫理学	准教授	屋良朝彦	
	心理学	准教授	松本淳子	
	社会・経済学	准教授	座馬耕一郎	
	健康・保健学	講師	秋山剛	
	生物・化学	教授	太田克矢	
	英語・英米文化学	教授	西垣内磨留美	
		准教授	井村俊義	
	基礎医学・疾病学		教授	喬炎
			助教	三浦大志
			助教	島袋梢
病態・治療学		教授	坂田憲昭	
		助教	中畑千夏子	
基礎看護学講座	基礎看護学	教授	伊藤祐紀子	
		教授	金子さゆり	
		准教授	宮越幸代	
		助教	近藤恵子	
		助教	那須淳子	
		助教	上條こづえ	
		助教	田中真木	
		助教	田村かおり	
		助教	伊藤郁恵	
		助手	井本英津子	
発達看護学講座	母性・助産看護学	教授	藤原聡子	
		講師	西村理恵	
		助教	佐々木美果	
		助教	水主洋子	
		助手	井出彩織	
		助手	林陽子	
		助手	藤井あゆみ	

講座	分野	職位	氏名
発達看護学講座	小児看護学	准教授	竹内幸江
		講師	高橋百合子
		助教	白井史
		助教	足立美紀
		助手	久保知奈津
	成人看護学	教授	安東由佳子
		講師	江頭有夏
		講師	浦野理香
		助教	熊谷理恵
		助手	伊藤佑季
		助手	青木駿介
		助手	長谷川志保
広域看護学講座	老年看護学	教授	渡辺みどり
		准教授	千葉真弓
		講師	細田江美
		助教	曾根千賀子
		助教	有賀智也
	精神看護学	教授	岡田実
		准教授	有賀美恵子
		講師	東修
		助教	星幸江
		助教	森野貴輝
地域・在宅看護学	教授	安田貴恵子	
	講師	柄澤邦江	
	講師	御子柴裕子	
	助教	小野塚元子	
	助教	酒井久美子	
	助手	村井ふみ	
	助手	下村聡子	
	助手	富田美雪	
	助手	白川あゆみ	
	認定看護師教育課程	主任教員	高山陽子
	専任教員	吉澤理恵	

#### ② 大学院の領域別科目担当専任教員

(平成30年5月1日現在)

領域	分野	氏名等	領域	分野	氏名等	
	研究科長	安田貴恵子	広域看護学	老年看護学	教授 渡辺みどり※	
看護基礎科学	病態機能学	教授 喬炎※			准教授 千葉真弓	
		教授 太田克矢※			講師 細田江美	
基礎看護学	病態治療学	教授 坂田憲昭※			精神看護学	教授 岡田実※
		講師 中畑千夏子				准教授 有賀美恵子
基礎看護学	基礎看護学	教授 伊藤祐紀子※		講師 東修		
		准教授 宮越幸代※		地域・在宅看護学	教授 安田貴恵子※	
発達看護学	看護管理学	教授 金子さゆり※			講師 柄澤邦江	
		教授 藤原聡子※			講師 御子柴裕子	
発達看護学	母性・助産看護学	講師 西村理恵		講師 小野塚元子		
		小児看護学	教授 竹内幸江	教授 北山秋雄※		
講師 高橋百合子	准教授 座馬耕一郎※					
教授 安東由佳子※	講師 秋山剛※					
発達看護学	成人看護学	教授 江頭有夏	里山・遠隔看護学	教授 座馬耕一郎※		
		講師 浦野理香		講師 秋山剛※		
		講師 浦野理香		准教授 屋良朝彦※		
専門関連	倫理学・哲学	准教授 松本淳子※	英語・英米文学	教授 西垣内磨留美※		
	心理学	教授 西垣内磨留美※		准教授 井村俊義※		

※博士後期課程の科目担当専任教員

### ③非常勤講師

看護学部非常勤講師 (平成30年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
統計学	中村 寛志	信州大学農学部特任教授
保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	山本 京子	長野大学社会福祉学部客員教授
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
数の話と教養数学	二宮 晏	信州大学名誉教授
ドイツ語	浜 泰子	信州大学高等教育システムセンター非常勤講師
感染学演習	碓井 之雄	東京医療保健大学名誉教授
経済学	樋口 均	信州大学経済学部名誉教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部准教授
法学	成澤 孝人	信州大学経法学部教授
医療経済学	今野 広紀	日本大学スポーツ科学部准教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学教授
英会話演習	アダム・ソーヤー	マイルストーン英会話学校講師
	エドワードギャリティー	
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	鷺沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
	長江 朱夏	音楽療法士
運動実技・理論Ⅰ、Ⅱ 運動理論	杉本 光公	信州大学学術研究院教授総合人間科学系

大学院非常勤講師 (平成30年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
看護理論	阿保 順子	長野県看護大学名誉教授
小児病態・治療特論	藪原 明彦	前伊那中央病院小児科部長
老年医学特論	中土 幸男	丸の内病院長
精神看護学特論Ⅱ	樋掛 忠彦	長野県こども病院精神科部長
フィジカルアセスメント	山内 豊明	放送大学大学院教授
家族看護論	柳原 清子	金沢大学医薬保健学域保健学類准教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・ディベ ロップメント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長 純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢 秀男	高崎経済大学非常勤講師
コンサルテーション論	大石ふみ子	聖隷クリストファー大学看護学部教授

### ④事務局

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び嘱託職員3名が配置されている。平成22年までは事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書2名（1名嘱託職員）が配置されている。

事務局職員 (平成30年5月1日現在)

	事務局長	宮村 泰之
総務課	次長	刈間 俊也
	専門幹兼課長補佐	羽柴 永年
	主幹	小笠原 千寿子
	主査	小出 誠治
教務・学生課	課長	鮎澤 宏和
	課長補佐	佐々木 剛
	主事	栗岡 真理子
	担当係長保健師	熊谷 晶子
図書館	主幹学校司書	清水 満里子
	学校司書	堀内 みちよ
行政嘱託員	学生支援員	中村 康子
	学生支援員	小松 史枝
	就職支援員	米窪 伸一郎

#### 2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、欠員が生じた場合や新たに採用の必要が生じた場合に「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」及び「長野県看護大学教員選考基準細則」等に基づいて、適時実施している。

原則として公募により募集し、教員選考委員会（選考委員は委員会立ち上げの都度学長が指名）による選考審査を経て、教授会に諮り、採否を決定している。

平成30年度教職員採用状況

(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	認定看護師 教育部門	計	学内昇任
—	—	—	2	6	1	9	5

(注) 上段の ( ) は任期付職員で外書数である(臨任、育休任期付を除く)

### (3) 全学委員会

#### 1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 14、臨時の委員会 1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会等		(H30.4.1現在)					
委員会等	委員長等	委員等				事務局	
教	運営委員会	北山学長	渡辺学部長 坂田教授 安東教授	安田研究科長 伊藤教授 宮村事務局長	太田教授 金子教授	西垣内教授 藤原教授	刈間次長 鮎澤教学課長
	広報・交流委員会	太田教授	有賀准教授 那須助教 下村助手	高橋講師 森野助教	細田講師 林助手	小野塚講師 久保助手	佐々木課長補佐
	教務委員会	伊藤教授	西垣内教授 浦野講師	渡辺教授 御子柴講師	竹内准教授 井本助手	西村講師	栗岡主事
	実習委員会	安東教授	宮越准教授 東講師 井出助手	西村講師 小野塚講師 伊藤(佑)助手	高橋講師 田中助教 富田助手	細田講師 足立助教	栗岡主事
	入試検討委員会	坂田教授	座馬准教授 江頭講師	井村准教授	竹内准教授	有賀准教授	佐々木課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	西垣内教授	太田教授 柄澤講師 白川助手	藤原教授 伊藤(郁)助教	千葉准教授 村井助教	中畑講師 長谷川助手	清水主幹司書
	学生委員会	藤原教授	松本准教授 御子柴講師 田村助教	宮越准教授 島袋助教	江頭講師 星助教 (就職支援員、学生支援員出席)	細田講師 酒井助教	栗岡主事 熊谷保健技幹
	ネットワーク推進 委員会	秋山講師	座馬准教授 有賀助教	東講師 青木助手	三浦助教	白井助教	羽柴専門幹
	FD・SD委員会	喬教授	安東教授 佐々木助教	松本准教授 曾根助教	千葉准教授	西村講師	佐々木課長補佐
	倫理委員会	岡田教授	金子教授 中畑講師	屋良准教授 (外部委員)	千葉准教授	秋山講師	小笠原主幹
授	ハラスメント防止 委員会	屋良准教授	金子教授 熊谷助教	藤原教授 刈間次長	松本准教授 鮎澤教学課長	上条助教	
	動物実験委員会	井村准教授	喬教授	秋山講師	中畑講師	江頭講師	小笠原主幹
	感染症対策委員会	坂田教授	渡辺学部長 中畑講師	伊藤教授 宮村事務局長	藤原教授 鮎澤教学課長	安東教授 熊谷保健技幹	
	コンソーシアム信州 担当		屋良准教授	宮越准教授			鮎澤教学課長
	評価委員会	北山学長	渡辺学部長 喬教授 藤原教授 井村准教授	安田研究科長 坂田教授 安東教授 秋山講師	太田教授 伊藤教授 岡田教授 宮村事務局長	西垣内教授 金子教授 屋良准教授	鮎澤教学課長
人事特別委員会	北山学長	渡辺学部長 宮村事務局長	安田研究科長	伊藤教授	藤原教授		
防災委員会	宮越准教授	渡辺学部長 東講師 羽柴専門幹	藤原教授 近藤助教 小出主査	屋良准教授 水主助教	浦野講師 宮村事務局長		
安全衛生委員会	北山学長	東講師 羽柴専門幹	有賀助教 熊谷保健技幹	宮村事務局長	刈間次長		
図書館長	西垣内教授						
学年顧問	1 学年	井村准教授	浦野講師	2 学年	座馬准教授	御子柴講師	
	3 学年	高橋講師	小野塚講師	4 学年	有賀准教授	島袋助教	

#### 2 研究科委員会

部会	部会長	部会員				事務局
教務部会	安田研究科長	西垣内教授	坂田教授	安東教授	竹内准教授	鮎澤教学課長
入試部会	金子教授	太田教授	喬教授	伊藤教授	岡田教授	佐々木課長補佐

#### (4) 人事特別委員会

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、研究科長、教務委員長、学生委員長、事務局長の6名であり、該当案件が生じた場合に活動を行う。

平成30年度は、学内で発生したハラスメント相当事案に関して意見を聴取するために1回開催した。その後、学長が当事者に二度とハラスメント行為を行わないように厳重に注意・指導を行うとともに、教授会で事案の発生について報告し、改めてハラスメントのない職場をめざすための一人ひとりの自覚と取り組みを求めた。

#### (5) 教員業績評価

##### 1) 概要

平成23年度（対象：22年度）からスタートした教員の業績評価は、長野県看護大学教員として自らの仕事を点検し、よりよい仕事を実践していくために行い、その結果を翌年度の研究費に反映している。

評価は、「教育活動」、「研究活動」、「社会・地域貢献活動」、「大学運営」の4領域について行い、教員が活動実績を自己申告し点数化している。また、評価の最後の部分に記述式の自己評価欄を設けている。そして、自己評価の妥当性を高めるため、分野責任者、講座主任による他者評価を行っている。さらに平成24年度からは、分野や講座を横断する形で大学全体の仕事内容を評価するという観点から、学長による加点を行う仕組みを導入するとともに、平成28年度には、看護実践国際研究センターの体制整備などの状況の変化や教員からの意見・要望を踏まえ、大幅な見直しを行った。

また、平成30年度（対象：29年度）からは、結果数値を理解しやすくするため、学長加算後平均と授業時間平均に標準偏差（SD）を記載した。

##### <集計結果の概要（対象：29年度）>

区分	評価領域・職位別平均					学長加算後平均 (A) (SD)	最高値 (B)	指数 (B)/(A)	授業時間	
	教育	研究	地域	運営	小計				平均 (SD)	最高
教授(10名)	50.4	44.8	11.8	34.7	141.7	145.2 (37.2)	215.8	149	359.9 (166.6)	648
准教授(8名)	35.5	33.7	8.0	25.5	102.6	104.5 (34.3)	183.7	176	197.6 (64.9)	310
講師(7名)	33.0	17.1	6.0	18.2	74.3	76.5 (20.0)	107.8	141	373.6 (191.4)	596
助教(19名)	33.6	19.7	3.4	13.0	69.8	70.6 (18.4)	113.4	161	699.9 (324.7)	1,172
助手(9名)	28.7	4.7	2.1	6.9	42.3	44.0 (13.6)	66.2	150	613.3 (248.3)	967

##### 2) 平成30年度研究費への反映

各職位で、平均100に対する指数値が120以上となった者を研究費の増額対象とした。

(53名中12名が対象：22.6%)

教授：2名、准教授：1名、講師：2名、助教：4名、助手：3名

なお、増額対象12名中5名が増額を辞退し、大学運営への活用を希望した。

## (6) 教員人事評価

### 1) 概要

県が実施している人事評価制度について、地方公務員法等の一部改正に伴い大学教員も対象とすることになったため、平成28年度から新たに教員人事評価を開始し、30年度も引き続き実施した。この評価は、教員が教育・研究活動等を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた実績を把握し、主体的な業務の遂行及び人材の育成を行うとともに、能力・実績に基づく人事管理を行うことにより、教育研究等の向上につなげることを目的としている。

<制度の概要>

区分	人事評価	
	職務遂行力評価	業務評価
概要	教員に求められる能力や仕事に対する意欲や姿勢を、日常の行動に照らして評価	期首に自らが業務目標を設定し、中間及び期末にその目標の達成度により評価
評価方法	職務遂行力評価表により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価 3 二次評価	業務評価シート(目標設定・中間評価・年間評価)により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価(評価面談を実施) 3 二次評価

### 2) 評価結果の活用

評価結果は、査定昇給の際に重要な判断材料として活用した。また、業務評価の結果は勤勉手当に反映した。

## (7) 健康センター

### 1) 概要

精神的な問題や不調を抱える人々は増加し、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっていたため、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010年11月に学長直属の機関として「健康センター」を設置し、精神分野の専門看護師を1人配置して、学生や教職員に対する心の健康相談を実施してきた。その後、職場におけるメンタルヘルスが改善されたため、2015年7月から、相談員は常勤保健師と非常勤の臨床心理士が担当することとした。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- ① 学生・教職員からの相談・指導
- ② 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- ③ 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- ④ 学内外における心の健康づくりに関すること

## 2) 実績

＜教員及び学生に対する心の健康相談実績（延べ件数）＞

年度	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)
学生	79	52	40	84	171
教員	16	0	0	0	6
合計	95	52	40	90	177

### ① 学生の相談状況

- ・29年度から、件数が大幅に増加している。年間を通して継続的に関わる学生が増えた事にもよる。
- ・単科大学であるが故の人間関係の狭さに起因するものもあると感じられた。自分の悩みを表出できず、ストレスをためている例があった。
- ・こんなはずではなかった、やめたくなくなった、看護職としての自信の喪失等からくる「大学をやめたい気持ち」など、実習を機に、理想と現実のギャップなどがストレスになっている学生が見受けられた。中には、休学、退学を選択した学生もいた。
- ・一般的に発病が多いと思われる思春期世代であるが、生育歴や家庭・家族関係の問題が、精神面の不安定さなどに影響を及ぼしていると思われる学生も見受けられる。
- ・世間では発達障がい注目されているが、学内でもそれと思われる特徴で、悩んでいる学生が出てきている。
- ・年度始めに学生が提出する「健康質問票」のメンタル系の項目にチェックが入っている学生については、個別面接を実施した。

### ② 教職員の相談状況

センター開設以来、11人の教員の精神疾患に対応してきたが、現在、対応が必要な教員はほとんどおらず、30年度中の相談もほとんどなく、状況の確認や、傾聴する程度ですんでいる。

## 3) 課題及び今後の展開

健康センターは、本学関係者の精神疾患の改善に大きな成果をあげてきた。今後も引き続き、学生や教職員に対する相談機能を堅持する必要がある。

なお、相談者が減少したため、常勤の相談員の配置を終了し、外部機関から相談員（臨床心理士）を非常勤で雇うことで、必要に応じて心の健康相談が実施可能となるような新たな体制を整備して、対応しているところである。

## 第3節 学生の状況

### (1) 学部

#### 1) 入学試験の状況

##### 1. 状況

1995年の開学以来、学部入学定員は80名で、3年次に10名の編入生を受け入れていたが、2016年度入学から募集を停止している。選抜試験では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づく小論文や面接を課して、一般選抜試験、特別選抜試験を行っている。

入学試験の過去5年間の状況は、以下のとおりである。

項目／入試実施年度	H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)	
一般入試	志願者	161	263	213	172	338
	合格者	53	56	56	59	59
	入学者(A)	50	53	54	55	55
	入学定員(B)	50	50	50	50	50
	A/B	1.00	1.06	1.08	1.10	1.10

項目／入試実施年度		H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)
推薦入試	志願者	55	61	59	58	51
	合格者	28	29	31	30	29
	入学者(A)	28	29	31	30	29
	入学定員(B)	30	30	30	30	30
	A/B	0.93	0.97	1.03	1.00	0.97
社会人入試	志願者	7	8	3	2	4
	合格者	3	3	0	0	2
	入学者(A)	3	3	0	0	2
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	17	—	—	—	—
	合格者	5	—	—	—	—
	入学者(A)	4	—	—	—	—
	入学定員(B)	10	募集停止	募集停止	募集停止	募集停止
	A/B	0.40	—	—	—	—
合計	志願者	240	332	275	232	338
	合格者	89	88	87	89	90
	入学者(A)	85	85	85	85	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	90
	A/B	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94

(1) 特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて30名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

- ① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が4.0以上。推薦枠は各校2名（分校は1名）以内。
- ② 社会人（平成15年度から受け入れ）：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を3年以上有する者。

(2) 一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程42名、後期日程8名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

(3) 編入学試験

専門科目（基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っていたが、編入生の定員割れが続いたこと等から、平成27年度試験（平成28年度入学）から募集を停止した。

2. 課題及び方策

編入学試験制度の廃止と、それに代わる入学者選抜（募集定員の配分等含む。）について、入試検討委員会等で検討していく。

2) 学年別学生数

1. 状況

在校生数は、定数の340名に対し同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、近年男子学生が各学年10%程度であったが、平成29年度は2人であった。

県内出身者は全体の70.4%で、年により増減しているが、従前に比べその率は、高まってきている。

平成30年5月1日 現在

(単位：人)

学 部	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
1年生	85	5	80	60	25
2年生	85	2	83	52	33
3年生	84	7	77	56	28
4年生	79	9	70	58	21
編入1年生	0	0	0	0	0
編入2年生	0	0	0	0	0
卒業延期生	12	2	10	6	6
計	345	25	320	232	113

## (2) 研究科

### 1) 入学試験の状況

項目/入試実施年度		H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)
(博士前期) 看護学専攻	志願者	5	9	9	7	6
	合格者	2	6	8	6	6
	入学者(A)	2	6	8	6	5
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	13%	38%	50%	38%	31%
(博士後期) 看護学専攻	志願者	2	3	4	1	3
	合格者	2	1	3	1	3
	入学者(A)	2	1	3	1	2
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	50%	25%	75%	25%	50%
合 計	志願者	7	12	13	8	9
	合格者	4	7	11	7	9
	入学者(A)	4	7	11	7	7
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率(A/B)	20%	35%	55%	35%	35%

### 2) 学年別院生数

在学生数は、博士前期課程が定数の32名に対し、定員割れが続いている。近年の傾向として、入学者が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数(12名)を満たしているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

平成30年5月1日 現在

(単位:人)

大学院	総数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
修士課程	16	2	14	16	0
博士課程	12	1	11	4	8
計	28	3	25	20	8

## (3) 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

休学の理由は、学部では体調不良、研究科では、仕事の都合が主なものである。

### 1 学部・研究科の退学者数

	平成28年度					平成29年度					平成30年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	0	1	1	0	2	0	0	0	3	3	0	0	1	2	3
研究科	修士課程	0	1		1	0	0			0	0	0			0
	博士課程	0	0	1	1	0	0	0		0	0	0	1		1
	小計	0	1	1		2	0	0	0		0	0	0	1	1
合計	0	2	2	0	4	0	0	0	3	3	0	0	2	2	4

※ 研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

## 2 学部・研究科の休学者数

	平成28年度					平成29年度					平成30年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	0	1	2	2	5	0	1	0	3	4	0	2	2	7	11
研究科	修士課程	0	2		2	0	2			2	0	4			4
	博士課程	0	0	5		5	0	1	7		8	1	0	7	
	小計	0	2	5		7	0	3	7		10	1	4	7	
合計	0	3	7	2	12	0	4	7	3	14	1	6	9	7	23

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は各年度毎に計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

## 第2章 年間の活動状況

### 第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

#### (1) 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月3日 (水)	入学式	11月9日 (金)	大学運営協議会
4月4日 (水)	新入生オリエンテーション	11月17日 (土)	特別選抜入学試験
4月5日 (木) ～6日 (金)	教務ガイダンス 健康診断	12月5日 (木)	※認定看護師教育課程選抜試験
4月5日 (木) ～12日 (木)	履修登録期間	12月24日 (月) ～1月4日 (金)	冬季休業
4月9日 (月)	前期授業開始	1月7日 (月)	後期授業再開
5月1日 (月)	創立記念日	1月19日 (土) 20日 (日)	大学入試センター試験
6月1日 (金)	※認定看護師教育課程開講式	1月26日 (土)	博士前期・後期課程二次募集 入学試験
8月4日 (土)	オープンキャンパス	1月28日 (月)	※認定看護師教育課程修了式
8月11日 (土) ～9月30日 (日)	夏季休業	2月16日 (土) ～3月31日 (日)	春季休業
9月8日 (土) 9日 (日)	鈴風祭	2月20日 (水)	※認定看護師教育課程二次募集 選抜試験
9月28日 (金)	学位記授与式	2月25日 (月)	一般選抜入学試験 (前期)
10月1日 (月)	後期授業開始	3月9日 (土)	卒業式・修了式
10月20日 (土)	博士後期課程入学試験 博士前期課程入学試験	3月12日 (火)	一般選抜入学試験 (後期)

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

#### (2) 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月10日	1 客員研究員の研究期間延長について
2	4月24日	1 退学願について 2 平成30年度学生校費予算(案)について 3 平成30年度一般研究費配分(案)について 4 平成30年度特別研究費配分(案)について
3	5月15日	1 平成31年度入学者選抜に関する要項(案)について 2 教員の平成29年度の業績評価について 3 教員の平成30年度の人事評価について 4 平成30年度長野県看護大学臨床教授(案)について 5 長野県看護大学名誉教授の称号授与に関する規程改正について 6 名誉教授の授与について
4	6月5日	1 基礎看護学の臨時的任用教員(欠員補充)の採用について 2 揚州大学看護学院との相互協力に関する覚書について 3 長野県看護大学外国人客員教授及び客員研究員受入れ規程の改正について
5	6月19日	1 国際看護実習の見直しについて 2 助産養成に関するワーキング報告と2019年度助産選抜の検討について 3 学部における基礎看護学講座体制の見直しについて 4 教員の公募について 5 平成30年度からのB型肝炎予防事業実施手順について
6	7月3日	(協議事項なし)
7	7月17日	1 基礎看護学の臨時的任用教員(欠員補充)の採用について 2 休学願について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>3 平成 31 年度学生募集要項《一般選抜入学試験》について</li> <li>4 平成 31 年度学生募集要項《推薦入学試験》について</li> <li>5 平成 31 年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》について</li> </ul>
8	8 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 長野県看護大学動物実験規程の改正について</li> <li>2 客員研究員の承認について</li> <li>3 揚州大学との学生交流について</li> <li>4 平成 33 年度入学者選抜の予告について</li> <li>5 認定看護師部門の現状と今後の方向性について</li> </ul>
9	9 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 基礎看護学の教員（准教授又は講師）の採用について（審査結果報告）</li> <li>2 看護管理学・看護教育学の教員（准教授又は講師）の採用について（審査結果報告）</li> <li>3 休学願について</li> <li>4 復学願について</li> <li>5 年度途中で卒業する学生の卒業認定について</li> <li>6 教員の退職について</li> <li>7 教員の公募について</li> <li>（教授のみ）学長の業績評価について</li> </ul>
10	10 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 基礎看護学の教員（准教授又は講師）の採用について</li> <li>2 看護管理学・看護教育学の教員（准教授又は講師）の採用について</li> <li>3 臨地実習中の事故対応に関する規程の改正について</li> <li>4 教員の昇任に関する日程について</li> </ul>
11	10 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 教員の退職について</li> <li>2 母性・助産看護学教員の募集について</li> <li>3 休学願について</li> <li>4 平成 31 年度学年歴（案）について</li> <li>5 平成 31 年度シラバス作成要領について</li> <li>6 平成 31 年度非常勤講師の委嘱について</li> </ul>
12	11 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 小児看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> </ul>
13	11 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 推薦・社会人入学試験結果について</li> <li>2 成人看護学【急性期・がん看護学】教員（教授又は准教授）の公募について</li> <li>3 平成 31 年度スタートアップセミナーの実施について</li> </ul>
14	12 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 母性・助産看護学の教員（准教授又は講師）の採用について（審査結果報告）</li> <li>2 母性・助産看護学の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告）</li> <li>3 教員の職位昇任申請について（学長提案）</li> <li>4 教員の職位昇任申請について</li> <li>5 卒業研究の評価基準について</li> <li>（教授のみ）学長の職務遂行力評価について</li> </ul>
15	12 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 母性・助産看護学の教員（准教授）の採用について</li> <li>2 母性・助産看護学の教員（助手）の採用について</li> <li>3 精神看護学分野の教員（教授）の採用について</li> <li>4 小児看護学分野の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告）</li> <li>5 休学願について</li> <li>6 退学願について</li> <li>7 平成 31 年度「運動実技・理論Ⅰ・Ⅱ」「運動理論」非常勤講師について</li> <li>8 卒業研究シラバスについて</li> <li>9 臨地実習中の事故対応に関する規程の改正について</li> </ul>
16	1 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 助産師コース選考結果について</li> <li>（教授のみ）国際看護学・災害看護学の教員（教授又は准教授）の採用について（審査結果報告）</li> </ul>
17	1 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 2019 年度科目等履修生募集要項について</li> <li>2 2019 年度県内大学単位互換履修生募集要項について</li> <li>3 2019 年度非常勤講師について</li> <li>4 母性・助産看護学の育休代替教員の採用について</li> <li>（教授のみ）国際看護学・災害看護学の教員（教授又は准教授）の採用について（投票）</li> </ul>
臨時	1 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 人間基礎科学講座の分野名称変更について</li> <li>2 職位の昇任申請について（審査結果報告）</li> </ul>
18	2 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 職位の承認申請について（投票）</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>2 看護管理学・看護教育学（臨床看護師等研修部門）の教員採用について</li> <li>3 成人看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> <li>4 精神看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> <li>5 2019年度卒業研究の学生配置について</li> <li>6 2019年度教務ガイダンス日程（案）について</li> <li>7 2019年度教授会等の日程（案）について</li> </ul>
19	2月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度卒業認定について</li> <li>2 2020年度学部入学試験関係日程について</li> </ul>
臨時	2月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度一般選抜入学試験（前期日程）の試験結果について</li> <li>2 基礎看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> </ul>
20	3月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 看護管理学・看護教育学（臨床看護師等研修部門）の教員採用について（審査結果報告）</li> <li>2 精神看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について（審査結果報告）</li> <li>3 長野県看護大学学生生活規程の改正について</li> <li>4 平成31年度教授会等の日程（案）について</li> <li>5 平成31年度教授会委員会等の委員選任等について</li> </ul>
臨時	3月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度一般選抜入学試験（後期日程）の試験結果について</li> </ul>
21	3月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 看護管理学・看護教育学（看護教員・看護管理者教育部門（仮称））の教員採用について（投票）</li> <li>2 基礎看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について（審査結果報告）</li> <li>3 退学願について</li> <li>4 休学願について</li> <li>5 平成30年度単位認定について</li> <li>6 看護実践国際研究センター新部門設置に伴う規約改正等について（教授のみ）学長の業務評価について</li> </ul>

### (3) 研究科委員会の活動

回	開催月日	協議事項
1	4月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> <li>2 博士論文指導教員について</li> <li>3 平成30年度前期博士論文研究計画書審査体制（案）について</li> <li>4 平成30年度論文指導に係る学外指導教員願について</li> </ul>
2	5月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度大学院博士前期（修士）課程学生募集要項（案）について</li> <li>2 平成31年度大学院博士後期（博士）課程学生募集要項（案）について</li> <li>3 平成30年度修士論文研究テーマ・論文指導教員（案）について</li> </ul>
3	6月19日	(協議事項なし)
4	7月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 復学願について</li> </ul>
5	9月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> </ul>
6	10月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> <li>2 平成30年度後期博士論文研究計画書等指導審査体制（案）について</li> </ul>
7	10月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度大学院シラバスについて</li> </ul>
8	10月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度博士前期課程入学試験結果について</li> <li>2 平成31年度博士前期課程（修士課程）学生2次募集要項（案）について</li> <li>3 平成31年度博士後期課程（博士課程）学生2次募集要項（案）について</li> </ul>
9	11月9日	(教授のみ) 平成30年度後期博士論文研究計画書の審査について（審査結果報告及び投票）
10	11月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> </ul>
11	12月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 長野県看護大学論文博士内規について</li> </ul>

12	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> <li>2 平成30年度修士論文指導・審査体制(案)について</li> <li>3 平成31年度(2019年度)大学院学年暦について</li> </ul>
13	1月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度博士前期課程二次募集入学試験結果について</li> <li>2 平成31年度博士後期課程二次募集入学試験結果について</li> </ul>
14	2月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 2019年度大学院科目等履修生募集要項(案)について</li> <li>2 2019年度研究生募集要項(案)について</li> <li>3 2019年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項(案)について</li> <li>4 博士論文の様式について</li> <li>5 長野県看護大学論文博士内規について</li> <li>6 2020年度大学院入学試験関係日程について</li> <li>7 大学院博士前期課程(修士課程)特別選抜の廃止について</li> </ul>
15	2月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度修士論文審査結果について</li> <li>2 平成30年度博士前期(修士)課程の学位授与について(投票)</li> <li>3 平成30年度博士前期(修士)課程修得単位認定について</li> <li>4 長期履修在学期間の短縮について</li> <li>5 休学願について</li> <li>6 平成31年度(2019年度)大学院非常勤講師について</li> <li>7 博士論文の提出書類について</li> </ul>
16	3月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 休学願について</li> <li>3 博士前期課程の修得単位認定について</li> <li>4 博士後期課程の修得単位認定について</li> <li>5 研究生の選考について</li> <li>6 科目等履修生の選考について</li> <li>(教授のみ) 研究科教員の学内審査結果について</li> </ul>

## 第2節 学部の教育活動

### (1) カリキュラム

<必修科目>

平成30年度入学生

	科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
1 学 年	生 物 学	前学期	1	30	倫 理 学	後学期	1	15
	化 学	前学期	1	30	家 族 社 会 学	後学期	1	15
	運 動 実 技 ・ 理 論 I	前学期	1	30	医 療 英 文 読 解 演 習 I	後学期	1	30
	統 計 学	前学期	1	15	医 療 英 会 話 の 基 礎 I	後学期	1	30
	英 文 読 解 の 基 礎	前学期	1	15	生 化 学	後学期	1	30
	英 会 話 の 基 礎	前学期	1	30	人 体 の 構 造 と 機 能 演 習	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 I	前学期	2	30	フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 II	前学期	1	30	病 理 学	後学期	1	15
	看 護 学 概 論	前学期	2	30	薬 理 学	後学期	2	30
	基 礎 看 護 方 法 I	前学期	1	30	病 理 学 演 習	後学期	1	30
	基 礎 看 護 実 習 I	前学期	1	45	基 礎 看 護 方 法 II	後学期	2	60
	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 I	前学期	1	15	人 間 発 達 論	後学期	1	15
	情 報 処 理 科 学	前学期	1	30	人 間 関 係 論	後学期	1	30
					公 衆 衛 生 学	後学期	1	30
					保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 II	後学期	1	15
				小 計 (28科目)			32	765
2 学 年	臨 床 心 理 学	前学期	1	30	運 動 実 技 ・ 理 論 II	後学期	1	30
	医 療 英 文 読 解 演 習 II	前学期	1	30	感 染 学 演 習	後学期	1	30
	医 療 英 会 話 の 基 礎 II	前学期	1	30	慢 性 期 看 護 方 法	後学期	2	60
	疾 病 学 I	前学期	1	30	急 性 期 看 護 概 論	後学期	1	15
	疾 病 学 II	前学期	1	30	老 年 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	感 染 学	前学期	1	30	精 神 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	看 護 過 程 の 理 論 と 展 開	前学期	1	15	母 性 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	慢 性 期 看 護 概 論	前学期	1	15	小 児 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	老 年 看 護 概 論	前学期	2	30	小 児 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	精 神 看 護 概 論 I	前学期	1	15	地 域 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	母 性 看 護 概 論	前学期	1	15	家 族 援 助 論	後学期	1	15
	小 児 看 護 概 論 I	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 I	後学期	1	30
	地 域 看 護 概 論	前学期	1	15	多 文 化 共 生 看 護 学	後学期	2	30
	在 宅 ケ ア 論	前学期	1	15	基 礎 看 護 実 習 II	後学期	2	90
	疫 学	前学期	1	30				
				小 計 (29科目)			33	795
3 学 年	医 療 経 済 学	前学期	1	15	災 害 看 護 論	前学期	1	30
	看 護 栄 養 学	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 II	前学期	1	30
	症 状 マ ネ ジ メ ン ト 論	前学期	1	15	保 健 統 計 学	前学期	1	15
	急 性 期 看 護 方 法	前学期	2	60	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 III	前学期	1	15
	老 年 看 護 方 法 II	前学期	1	30	遺 伝 と 人 間	後学期	1	15
	精 神 看 護 方 法	前学期	2	60	看 護 倫 理	後学期	1	15
	母 性 看 護 方 法 II	前学期	1	30	看 護 研 究 方 法	後学期	1	30
	小 児 看 護 方 法 II	前学期	1	30				
地 域 看 護 方 法 II	前学期	1	30	小 計 (16科目)			18	435
4 学 年	看 護 管 理 論	前学期	1	15	卒 業 研 究	全 期	4	180
	看 護 統 合 実 習	前学期	2	90	小 計 (3科目)			7
3 4 学 年	成 人 看 護 実 習		4	180	小 児 看 護 実 習		3	135
	老 年 看 護 実 習		4	180	地 域 看 護 実 習		4	180
	精 神 看 護 実 習		3	135	在 宅 看 護 実 習		2	90
	母 性 看 護 実 習		2	90	小 計 (7科目)			22

必修科目合計

科 目	単位数	時間数
83 科 目	112	3,270

<選択必修科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教 育 学	1年前学期	2	30	英 会 話 演 習	3年前学期	1	30
教 育 心 理 学	1年後学期	2	30	英 語 文 化 研 究	3年前学期	1	30

<選択科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	1年前学期	1	15	論 理 学	3年前学期	1	15
心 理 学	1年前学期	2	30	運 動 理 論	3年前学期	1	15
社 会 学	1年前学期	2	30	助 産 概 論	3年前学期	1	15
信 州 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 I	3年前学期	2	30
教 の 話 と 教 養 数 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 II	3年前学期	1	15
独 語	1年前学期	1	15	医 事 法 学	3年前学期	1	15
生 命 科 学 演 習	1年後学期	1	30	国 際 看 護 実 習	3年後学期	2	90
哲 学	2年前学期	2	30	芸 術 と 人 間	3年後学期	2	30
文 化 人 類 学	2年前学期	2	30	地 域 母 子 保 健	3年後学期	1	15
経 済 学	2年前学期	2	30	仏 語	4年後学期	1	15
人 間 工 学	2年前学期	2	30	看 護 論	4年後学期	1	15
生 命 倫 理	2年後学期	1	15	看 護 教 育 論	4年後学期	2	30
法 学	2年後学期	2	30	エ ン カ ウ ン タ ー	4年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単 位
1	基礎看護実習Ⅰ	6月18日 ~ 6月22日	1
2	基礎看護実習Ⅱ	9月25日 ~ 10月5日 10月9日 ~ 10月19日	2
3	成人看護実習	9月24日 ~ 12月15日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習(選択)	2月26日 ~ 3月8日	2
	助産実習実習(選択)	2月20日 ~ 3月29日	10
4	成人看護実習	5月7日 ~ 7月27日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	看護統合実習	7月31日 ~ 8月9日	2
	助産実習実習(選択)	9月3日 ~ 11月13日	10

### (3) 臨地実習施設

#### ① 病院

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、在宅看護、看護統合	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、母性看護、小児看護、看護統合、助産	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	飯田市立病院	飯田市	基礎Ⅰ・看護統合
飯田病院	飯田市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	基礎Ⅰ・Ⅱ、看護統合、助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護			
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護			

#### ② 保健・福祉施設

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護	はびろの里	伊那市	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	センテナリアン	高森町	老年看護
はなみずきの郷	飯田市	精神看護	すずたけ	伊那市	老年看護
信濃医療福祉センター	下諏訪町	在宅看護			

#### ③ 助産所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
おひさま助産院	駒ヶ根市	助産	明生助産院	伊那市	助産
野ノ花助産院	駒ヶ根市	助産	助産所ドゥーラえむあい	伊那市	助産

#### ④ 保健福祉事務所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

#### ⑤ 市町村

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那市役所	伊那市	地域看護	南木曾町役場	南木曾町	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護、母性看護	木曾町役場	木曾町	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護	南箕輪村役場	南箕輪村	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護			

#### ⑥ 訪問看護ステーション

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	訪問看護ステーションふれあい	箕輪町	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護
伊那中央病院訪問看護ステーション	伊那市	在宅看護			

#### ⑦ 学校

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
美篤小学校	伊那市	地域看護	箕輪東小学校	箕輪町	地域看護
富県小学校	伊那市	地域看護	箕輪中部小学校	箕輪町	地域看護
東春近小学校	伊那市	地域看護	飯島小学校	飯島町	地域看護
手良小学校	伊那市	地域看護	七久保小学校	飯島町	地域看護
伊那小学校	伊那市	地域看護	南箕輪小学校	南箕輪村	地域看護
西春近北小学校	伊那市	地域看護	高遠中学校	伊那市	地域看護
中沢小学校	駒ヶ根市	地域看護	辰野中学校	辰野町	地域看護
赤穂小学校	駒ヶ根市	地域看護	飯島中学校	飯島町	地域看護
辰野西小学校	辰野町	地域看護			

#### ⑧ 保育園

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	桜ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北割保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
経塚保育園	駒ヶ根市	小児看護			

### 第3節 研究科の教育活動

#### (1) カリキュラム

##### 1) 授業科目

博士前期(修士)課程授業科目 (平成30年度入学生)

別分野専門科目(10単位)	領域	授業科目	科目番号	単位数	学年別時間数				計	
					1年		2年			
					前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目		★ ○ 看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)				30	
		★ ○ 看護理論	3101	2	30(一部集中講義)				30	
		★ ○ 看護研究法	3102	2	30				30	
看護基礎領域	病態機能学分野	★ ○ 病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30				30	
		★ ○ 病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30				30	
		★ ○ 病態機能学演習	3403	6		90			90	
	病態治療学分野	○ 病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30	
		○ 病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30				30	
		○ 病態治療学演習	3406	6		90			90	
	基礎看護学	基礎看護学分野	★ ○ 基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30
			○ 基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30			30
			○ 基礎看護学演習Ⅰ	3413	6		90			90
	看護管理学	看護管理学分野	○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30
			○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30
			○ 看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90			180
発達看護学領域	母性・助産看護学分野	★ ○ 母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30	
		★ ○ 母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30	
		★ ○ 母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90			90	
	小児看護学分野	★ ○ 小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30	
		★ ○ 小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30	
		★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30	
		★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30				30	
		★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		30			30	
		小児看護学実習	3250	6				270	270	
	成人看護学分野	○ 成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30	
		○ 成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30			30	
		○ 成人看護学演習Ⅰ	3235	6		90			90	
広域看護学領域	老年看護学分野	★ ○ 老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30	
		★ ○ 老年看護学特論Ⅱ	3226	2		30			30	
		★ ○ 老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30				30	
		○ 老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2		60			60	
		○ 老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2		60			60	
		○ 老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2		60			60	
	老年看護学実習	3233	6				270	270		
	精神看護学分野	★ ○ 精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30				30	
		★ ○ 精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30				30	
		★ ○ 精神看護学特論Ⅲ	3421	2		30			30	
		★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2		60			60	
		★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2			60		60	
★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・C		3424	2				60	60		
精神看護学実習	3425	10				450	450			
地域・在宅看護学分野	★ ○ 地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30				30		
	★ ○ 地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30				30		
	○ 地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90				90		
	○ 地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3		90			90		
里山・遠隔看護学分野	★ ○ 里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30		
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30		
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30		
	★ ○ 里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180		
共通選択科目(8単位以上)	選択必修科目	○ 看護学課題研究(論文コース)	3103	6			90	90	180	
		看護実践課題研究(専門看護師コース)	3104	2			30	30	60	
		看護学原論	3501	1	15				15	
		フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)				30	
		家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)				30	
		★ 健康心理学特論	3510	2		30			30	
		★ 看護心理学	3511	2	30				30	
		★ 質的研究方法論	3505	1	15				15	
		★ 環境疫学特講	3304	1		15			15	
		★ 言語文化特講Ⅰ	3506	2		30			30	
		★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	30				30	
		★ 量的研究方法論	3507	1		15			15	
		★ コミュニティ・デベロップメント論特講	3311	2	30(集中講義)				30	
		語法特殊講義	3314	2	30				30	
		看護海外研修	3315	1		15			15	
		看護臨床薬理学	3508	2	30				30	
		★ 臨床病態学	3509	2	30				30	
		★ コンサルテーション論	3273	2		30			30	
		看護管理学	3262	2		30			30	
		看護教育・援助論	3261	2		30			30	
		★ 女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30	
		★ 遠隔看護論	3281	2		30			30	
		★ 国際看護論	3202	1	15				15	

★ 遠隔授業対応科目(一部対応科目を含む)

博士後期課程授業科目（平成30年度入学生）

授業科目			科目番号	単位数	時間数		計	
					1年			
					前学期	後学期		
領域別分野専門科目（6単位）	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4	120		120
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4	120		120
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4	120		120
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4	120		120
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4	120		120
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4	120		120
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4	120		120
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4	120		120
里山・遠隔看護学分野		★ 里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30	
		里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4	120		120	
共通選択科目（4単位以上）			★ ケアの哲学	BA01	2	30		30
			健康心理学特講	BA17	2		30	30
			人類学的研究方法論	BA12	2	30		30
			感染生物学特論	BA13	2		30	30
			★ 言語文化特講Ⅱ	BA05	2	30		30
			健康科学特講	BA06	2		30	30
			★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ	BA14	2	30		30
			国際看護援助論	BA10	2		30	30
			生命科学特論	BA08	2	30		30
			病理病態学特論	BA15	2	30		30
			★ 現象学的研究方法論	BA16	2	30		30

★遠隔授業対応科目

## 第4節 看護実践国際研究センターの活動

### (1) 概要

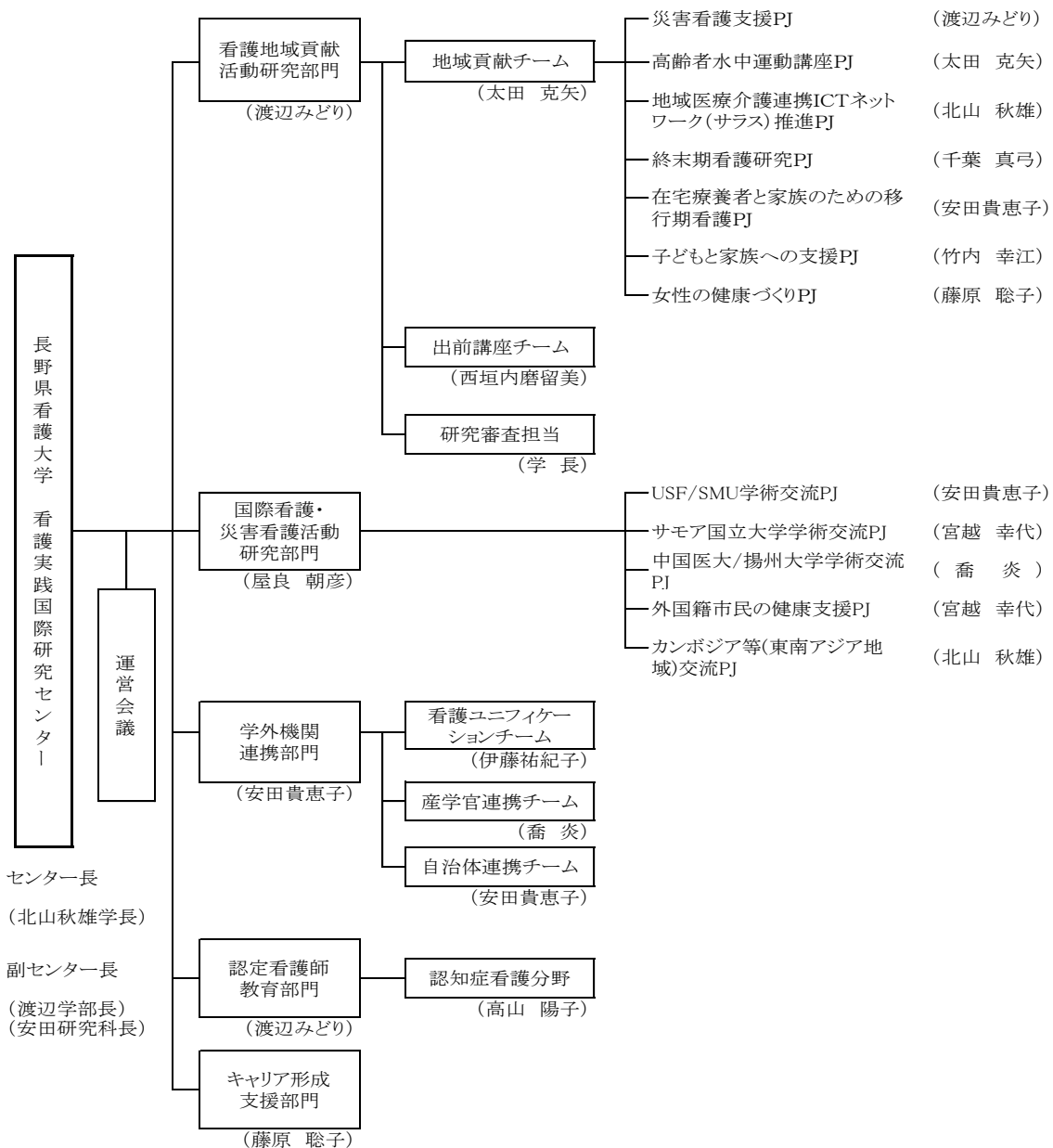
看護実践国際研究センターは国際的視野の涵養を背景に置き、講座や分野などの専門的な枠を超えた研究実践活動部門として平成14年度に設置された。

活動を推進するため、部門の名称・内容・運営等の見直しを行い、28年度より5つの部門とした。

30年度の活動状況は、看護大学研究集会（平成31年3月20日）で報告された。各部門の活動の詳細については、別に作成する「看護実践国際研究センター実績報告書」に記載する。

### 長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図

平成30年4月1日現在 ( )内は代表者



### 第3章 教員の研修・研究、社会活動

#### 第1節 研修

##### (1) 国内研修

平成30年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ90件であった(表1-1)。  
また、この他にCITI Japan e-Learningを51名が受講し修了した。

(表1-1) 本学教員が受けた国内研修(五十音順)

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
青木駿介	平成31年2月	第34回日本静脈経腸栄養学会	東京都
	平成31年3月	第46回日本集中治療医学会	京都府
東 修	平成30年6月	精神医療誌編集委員会	東京都
	平成30年9月	精神医療誌編集委員会	東京都
	平成30年9月	第1回PASセルフセラピー看護学会	東京都
足立美紀	平成30年6月	小児救急電話相談スキルアップ研修会(基礎コース)	東京都
	平成30年7月	第35回日本小児臨床アレルギー学会 ワークショップ3「アレルギー教室立ち上げプロジェクト」	福岡市
	平成30年12月	看護師基礎教育を考える会 in 長野	佐久市
有賀智也	平成31年2月	第17回日本フットケア学会年次学術集会	愛知県
有賀美恵子	平成30年7月	IBM SPSS Statistics 分類のための主成分・因子・クラスター分析	東京都
	平成30年7月	IBM SPSS Statistics 予測のための回帰・ロジスティック回帰分析	東京都
	平成30年8月	IBM SPSS Statistics によるアンケート調査：多変量解析	東京都
	平成30年9月	IBM SPSS Amos 操作入門	東京都
	平成30年9月	IBM SPSS Statistics 医療従事者のための分析3	東京都
伊藤佑季	平成31年2月	家族看護学研究セミナー	東京都
浦野理香	平成31年3月	第46回日本集中治療医学会学術集会	京都市
小野塚元子	平成30年6月	日本認知症ケア学会第19回大会	新潟市
	平成30年7月	第23回日本在宅ケア学会学術集会	大阪市
	平成30年8月	日本行動分析学会自主公開講座「認知症をよく理解し認知症とともに豊かに生活するための明日から使えるツールとは？」	京都市
	平成31年2月	第3回認知症予防への理解を深める講演会	木曽町
	平成31年2月	第33回日本がん看護学会学術集会	福岡市
上條こずえ	平成30年9月	ACP研究会	岩手県
	平成30年12月	日本生命倫理学会	京都市
	平成31年3月	実践の疑問からリサーチクエスションへ ー研究的思考を身につけようー	w e b
柄澤邦江	平成30年7月	第31回日本看護福祉学会学術大会	駒ヶ根市
	平成31年2月	飯田市立病院多職種連携ワークショップ	飯田市
熊谷理恵	平成30年8月	がん免疫細胞療法セミナー	名古屋市
	平成31年2月	日本がん看護学会学術集会「Advance Care Planning」	福岡市

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
近藤恵子	平成30年9月	看護教員のための教育力アップセミナー グループワークの達人になるための第1歩	東京都
	平成30年12月	看護師基礎教育を考える会	佐久市
	平成31年3月	カリキュラム評価&開発	東京都
	平成31年3月	日本地域看護学会第2回研究セミナー 質的研究の「カテゴリー化」を問い直す	東京都
島袋 梢	平成30年5月	第1回 環境DNA学会	東京都
	平成30年9月	第70回 日本衛生動物学会大会	北海道
下村聡子	平成31年3月	日本地域看護学会第2回研究セミナー 質的研究の「カテゴリー化」を問い直す カテゴリーを作る「方法」よりも大切なこと	東京都
白井 史	平成30年8月	小児がん看護研修会「小児がん患者の在宅移行～その暮らしさ、家族らしさを支えるために～」	東京都
	平成30年8月	保育士等キャリアアップ研修会	長野市
	平成30年9月	「後天性発達障害」の支援・具体的支援の方法	伊那市
水主洋子	平成30年8月	平成30年度信州大学FDカンファレンス	安曇野市
	平成31年1月	災害時の周産期医療体制のあり方と母子の安全を守るための備え	神戸市
	平成31年3月	第33回日本助産学会学術集会	福岡市
曾根千賀子	平成31年3月	【特別講演会】Dr. Patricia A. Gradyを迎えて看護研究者としての成長とキャリアパスを考えるあなたはどんな研究者になりたいか？	東京都
	平成31年3月	第4回エンドオブライフケア国際シンポジウム 高齢者施設のエンドオブライフケアにおける看護職のコンピテンシー	東京都
高橋百合子	平成30年6月	駒ヶ根市食育講演会	駒ヶ根市
	平成30年6月	高山恵子先生講演会「子どもの自立のために、それぞれのライフステージで大切なこと」	伊那市
	平成30年9月	松塩筑中学校教育課程研究協議会「健康教育」	松本市
	平成30年9月	伊那中央病院 倫理研修会	伊那市
高山陽子	平成30年6月	第19回日本認知症ケア学術学会	新潟県
	平成30年9月	第8回日本認知症予防学会学術集会	東京都
	平成31年3月	第6回認定看護師フォローアップセミナー	長野県
田中真木	平成30年5月	第11回日本看護倫理学会学術集会	東京都
	平成30年7月	第31回日本看護福祉学会学術集会	駒ヶ根市
	平成31年3月	第13回JANSセミナー「実践の疑問からリサーチクエスションへー 研究的思考を身につけようー」Web受講	東京都
千葉真弓	平成31年3月	第4回エンドオブライフケア国際シンポジウム 「高齢者施設のエンドオブライフケアにおける看護職のコンピテンシー」	東京都
富田美雪	平成31年2月	第53回人間ドック健診情報管理士ブラッシュアップ研修会	東京都
	平成31年3月	日本地域看護学会第2回研究セミナー 質的研究の「カテゴリー化」を問い直す カテゴリーを作る「方法」よりも大切なこと	東京都
那須淳子	平成30年12月	日本看護学教育学会主催 教育実践を研究にするためのワークショップ《実践編》	大阪市
西村理恵	平成30年7月	長野県助産師会研修 「べびいケアを学ぼう～赤ちゃんが気持ちのいい抱っこや授乳を知ろう～」	長野市
	平成30年9月	長野県助産師会研修会 「母子の災害支援」	松本市
	平成31年2月	日本家族計画協会主催「災害時の母子支援セミナー」	東京都
	平成31年3月	母性衛生研究会主催「母子保健シンポジウム～災害時における子どもと心と体のケア～」	東京都

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
林 陽子	平成 30 年 9 月	世界から見た日本の助産ケア再発見セミナー	駒ヶ根市
藤原聡子	平成 30 年 7 月	第 31 回 日本看護福祉学会学術大会	長野市
	平成 30 年 9 月	第 38 回日本性科学会総会・学術集会	名古屋市
細田江美	平成 30 年 7 月	第 31 回日本看護福祉学会学術大会	駒ヶ根市
	平成 30 年 9 月	高齢者ケア看護研究会「高齢者の『生きる』を支える意思決定支援」	駒ヶ根市
	平成 31 年 1 月	認知症を考える市民シンポジウム	駒ヶ根市
	平成 31 年 2 月	飯田市立病院ワークショップ	飯田市
松本淳子	平成 30 年 7 月	NHK 厚生文化事業団ハートフォーラム「自閉スペクトラム症の人たちが暮らしやすい社会をめざして」	生駒市
	平成 30 年 9 月	NHK 厚生文化事業団ハートフォーラム「『さみしい』『死にたい』と向き合う—今、求められる支援とは—」	東京都中央区
	平成 30 年 9 月	日本教育心理学会第 60 回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー「項目反応理論 (IRT) の考え方と実践—測定の質の高いテストや尺度を作成するための技術—」	横浜市
	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 回大会チュートリアルワークショップ「混合研究法 (Mixed Methods Research) を心理学の実践研究に活かすには」	仙台市
	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 回大会チュートリアルワークショップ「心拍変動の臨床応用」	仙台市
	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 回大会チュートリアルワークショップ「マインドフルネス瞑想の実践方法」	仙台市
	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 回大会チュートリアルワークショップ「被災者にとっての語ることの意味」	仙台市
	平成 30 年 12 月	日本生命財団第 32 回ニッセイ財団シンポジウム「高齢社会を共に生きる」	大阪市
	平成 31 年 2 月	国立長寿医療研究センター第 6 回認知症医療介護推進フォーラム「これからの認知症施策—本人、家族にとって、本当に必要なもの—」	大阪市
	平成 31 年 3 月	日本心理学会認定心理士会近畿支部会 2018 年度公開セミナー「心理学の基礎から社会への応用を考える」	茨木市
	平成 31 年 3 月	日本遠隔カウンセリング協会現任者講習会	京都市
三浦大志	平成 31 年 3 月	第 83 回日本循環器学会学術集会	横浜市
御子柴裕子	平成 30 年 6 月	第 12 回 JANS セミナー 学際的な研究プロセスと戦略的な組織づくり (Web 受講)	東京都
	平成 30 年 10 月	第 46 回長野県保健補導員等研究大会	松本市
	平成 30 年 11 月	第 50 回長野県食生活改善推進大会	長野市
	平成 31 年 3 月	第 13 回 JANS セミナー 実践の疑問からリサーチクエストへ (Web 受講)	東京都
安田貴恵子	平成 30 年 6 月	日本地域看護学会平成 30 年度第 1 回研究セミナー「学際的研究・国際共同研究を行うには」	東京都
	平成 30 年 7 月	アスクヒューマンケア TROUE COLORS 実践講座「チームづくりとコミュニケーション」	東京都
	平成 30 年 8 月	上伊那郡市保健師連絡協議会研修「高齢精神障害者への支援と家族支援について」	宮田村
	平成 30 年 9 月	高齢者ケア研究会研修「高齢者ケアと意思決定支援」	駒ヶ根市
	平成 31 年 1 月	認知症を考える市民シンポジウム	駒ヶ根市
平成 31 年 3 月	大学間連携による地域看護学教育 F D 戦略会議	東京都	

## (2) 国外研修

平成 30 年度に本学教員が国外で受けた研修は、1 件であった。

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
有賀智也	平成 31 年 2 月	2018 年度 USF/ SMU 看護海外研修／交流プロジェクト	カンフランス

## 第 2 節 研究活動

### (1) 助成金による研究活動

#### ① 文部科学省及び日本学術振興会が所管する科学研究費による研究

平成 30 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は 23 件であった。

継続研究は 18 件、新規の研究は 5 件であった。(表 2・3)

(表 2) 平成 30 年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新規・継続			左記のうち新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	39	23	59.0%	21	5	23.8%	25,900
転出分②		0			0		
転入分③		0			0		
本学執行分①－②＋③		23			5		25,900

(表 3) 平成 30 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成 28～31 年度	地方小都市における最先端ITを用いた認知症トータルケアネットワークシステムの構築
基盤研究(B)	渡辺みどり	平成 29～32 年度	認知症トータルケアプログラムを適用した地域横断的看護力向上システムの構築
基盤研究(C)	有賀美恵子	平成 29～32 年度	精神疾患が疑われる高校生への早期介入に向けた学校・専門多職種連携支援モデルの開発
	佐々木美果	平成 29～31 年度	未就学児を持つシングルマザーの育児および健康支援に向けた包括的アプローチの検討
	安田貴恵子	平成 29～31 年度	認知症ケア初動期の集中支援システムが予防機能を発揮するためのマネジメント指針
	安東由佳子	平成 29～32 年度	看護学生のキャリア教育につながるマインドフルネスを活用したストレス対処力育成
	田中真木	平成 29～32 年度	日本の基礎看護教育における倫理的感受性育成プログラム開発－アジア諸国の比較研究－
	西垣内磨留美	平成 28～30 年度	看護系大学院生のための英文要約作成支援アプリの検討と開発
	那須 裕	平成 28～31 年度	中山間地域において16年間継続してきた高齢者水中運動講座の効果の縦断的検証
	曾根千賀子	平成 28～30 年度	認知症看護の自己点検評価法の開発および活用法の検討
柄澤邦江	平成 28～31 年度	がん終末期独居高齢者の在宅看取りを可能とするための訪問看護の実践と医療・介護連携	

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(C)	金子さゆり	平成 28～30 年度	看護管理者のコンピテンシー獲得メカニズムの解明と組織的人材育成に関する研究
	屋良朝彦	平成 27～30 年度	応用倫理学における精神医療倫理と合意形成
	千葉真弓	平成 26～30 年度	認知症看護の質評価尺度の開発と臨床適用の検討
	伊藤祐紀子	平成 30～32 年度	「看護する身体」を育成する教育プログラムの開発～現状調査と学生の学びの質的研究～
	喬 炎	平成 30～32 年度	最先端高分子技術と遠隔通信手段の融合による在宅における褥瘡早期診断法の開発
	細田江美	平成 30～33 年度	認知症者のセルフマネジメント力を支えるケアプログラムの作成と有効性の検討
挑戦的萌芽研究	有賀智也	平成 27～30 年度	矯正施設で高齢受刑者に携わる看護師が抱える困難感の解明と対処方略の検討
若手研究(B)	足立美紀	平成 29～31 年度	食物アレルギーを有する学童・思春期の子どもの自己管理への支援の検討
	高橋百合子	平成 27～30 年度	慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる外来看護師への教育支援プログラムの作成と評価
	熊谷理恵	平成 26～31 年度	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援する看護プログラムの開発
	森野貴輝	平成 30～33 年度	精神科看護師の熟練形成プロセスと精神科看護スキルの継承に関する研究
スタートアップ 支援	伊藤郁恵	平成 30～31 年度	看護師の倫理観形成プロセスに関する研究—新人看護師の倫理観と倫理観を育む要因—

② 長野県看護大学特別研究費による研究

平成 30 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、3 件であった。(表 4)

継続研究は 2 件、新規の研究は 1 件であった。

(表 4) 平成 30 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
松本淳子	平成 29～30 年度	病棟における音楽療法の実践と効果
近藤恵子	平成 29～30 年度	主体的に行動できる学生を育成するための看護教員と実習指導者のあり方の検討
喬 炎	平成 30 年度	ブドウ糖液の創部塗布による皮膚虚血と圧迫性傷害の早期治療の試み

③ 県内看護職者との共同研究

平成 30 年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は 3 件であった。(表 5)

継続研究は 2 件、新規の研究は 1 件であった。

(表 5) 平成 30 年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員 (代表)
太田美緒 (昭和伊南総合病院)	平成 29～30 年度	外来看護職は要支援者を見つけ出せるか	高橋百合子
花岡佳子 (伊那中央病院)	平成 29～30 年度	中堅看護師から中間管理者への役割移行の明確化および中間管理者育成プログラムの開発	金子さゆり
池上敦子 (伊那中央病院)	平成 30～31 年度	高齢者への誤嚥予防ケアの実態と地域連携にむけての課題 ～地域中核病院と訪問看護ステーションとの連携に焦点をあてて～	伊藤祐紀子 那須淳子

- ④ その他助成金による研究  
平成 30 年度にその他の助成金を受けて行った研究は 3 件であった。(表 6)

(表 6) 平成 30 年度にその他の助成金を受けて行った研究

助成金名称	研究代表者	研究期間	研究課題名
共同研究費	喬 炎	平成 29～30 年度	幹細胞培養液の創部投与による早期褥瘡の早期治療の試み
共同研究費	喬 炎	平成 29～30 年度	セルロース誘導体液晶エラストマーを用いた褥瘡早期診断法と診断装置の開発
共同研究費	喬 炎	平成 30～31 年度	在宅看護介護用センシング技術の褥瘡診断装置の開発に関する共同研究

## (2) 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
基礎看護学分野	主体的に行動できる学生を育成するための看護教員と実習指導者のあり方の検討	平成 29 年度から平成 30 年度までの教員特別研究として行っている研究である。本研究は、臨地実習指導者と看護教員が看護学生の主体的な行動をどのような場面を通じて促進しようとしているのか、その指導の実際を明らかにし、主体的な行動のできる学生を育成するための看護教員と臨床指導者のあり方を検討することを目的としている。「主体性」および「主体的行動」の操作的定義、研究方法を検討し、現在データ取集中である。
看護性・助産分野	「女性の性の健康」の公開講座後の一般参加者へのアンケート調査	日頃の地域性教育に携わる方々へのブラッシュアップを目的として、大学生(2 年生 84 名)の他、駒ヶ根市内の小中の養護教諭複数名、性教育に携わる駒ヶ根市内在住の助産師複数名にも参加を呼びかけ、「女性の性の健康」に関する公開講座を開催した。参加者の内訳は、養護教員 1 名、開業助産師 2 名、その他助産師 4 名、母子保健教育者 1 名、JICA 母子保健プロジェクト関係者 1 名の計 9 名である。公開講座終了後に日本家族計画協会のアンケート調査および、分野独自の調査である、①授業への感想、②企画に対する感想、③今後の企画への要望をアンケートに記入してもらい、分野のメンバーとともに、フリートークを行った。アンケートを集計し、地域で性教育に携わる方々の意見をまとめた。
成人看護学分野	パーキンソン病患者におけるうつ発症のリスク要因に関する縦断研究	本研究の目的は、パーキンソン病患者のうつの実態およびうつ発症のリスク要因を縦断的に明らかにすることである。ベースライン調査(平成 26 年度)で、うつが発症していなかった患者を対象に、平成 30 年 2～5 月(平成 29 年度:ベースラインより 3 年後)に無記名の自己式質問紙調査を実施した。
老年看護学分野	病棟看護師が医療観察下にある高齢対象者に行っている対応とその困難	科学研究費助成を受けて「病棟看護師が医療観察下にある高齢対象者に行っている対応とその困難」の第 2 報として、医療観察法病棟で労働に従事する看護師へ行ったインタビュー調査を行い、質的帰納的に分析し、第 31 回日本看護福祉学会学術大会で発表した。
	認知症看護認定看護師の役割と機能に関する研究	科学研究費の助成を受けて認知症認定看護師の役割と機能に関する全国調査を行い、統計解析した。その結果の一部を第 31 回日本看護福祉学会学術大会において発表した。

分野	研究題名	研究内容
精神看護学分野	オンラインミーティングによるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを育成するプログラムの実施と評価	精神科病院の看護部長から推薦を受けた熟練看護師3～4名を対象に、8冊の文献を指定し、各自宅と大学間で年間16回のセッション(1回2時間)をオンラインミーティングで実施し、このプログラム修了者に修了証書とネームプレートを進呈した。昨年度は3名終了し、これまでの3カ年で9名が修了している。修了者は引き続き、オンラインミーティングによる年間12回のセッションを活用し、1冊の指定文献と一緒に熟読する文献抄読会に移行し、学習を継続しつつ人材育成を図り、職場において熟練看護師としての役割の発揮を促して現在に至る。
	オンラインミーティングを活用した医療機関へのコンサルテーションの提供と評価	人材育成セミナーや看護研究支援という定型的なセッションではなく、職場での看護実践上の課題や問題点について、勤務時間中の1時間をオンラインミーティングで繋いでディスカッションを行うことで、日々の看護実践の質を高めるいくつかのヒントを提供している。昨年度は、2施設と連携し、2つの看護師グループ(延4名)にコンサルテーションを実施して現在に至る。職場の課題や問題解決を期待されている
	オンラインミーティングによる大学-臨床現場間の抄読会を通じた相互学習の実施と評価	上記のリーダーシップ育成プログラム、看護研究支援、コンサルテーションを通じて得られた施設との繋がりを背景に、勤務時間内1時間あるいは勤務時間外の2時間を通じて、1冊の文献を年間12回のセッションを通じて熟読し、その内容に基づいてディスカッションを実施している。昨年度は2冊の文献毎に2グループ延8名の参加がした。教育現場と医療現場の最新情報交換の場でもあり、息長く活動を継続し現在に至る。
地域・在宅看護学分野	保健師活動を推進するモチベーション施策や体制の変化に対応する経験に着目して	これまでに取り組んできた行政分野に働く保健師の現任教育の方法開発に関する研究の一環として位置づくものである。近年の保健福祉施策の目まぐるしい変化の中で、保健師の役割を發揮できるための示唆を得るために、経験年数20年以上の保健師を対象に、聞き取り調査を行っている。2019年度も継続する課題としている。

### (3) その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

#### ① 著書・翻訳(五十音順)

氏名	内容
東 修	東修(2019): この国から看護が消滅してしまう-「特定行為に係る看護師の研修制度」がもたらすもの。太田順一郎, 中島直, 岡崎伸郎, 精神医療誌, 第94号, 83-88, 批評社, 東京。
井村俊義	井村俊義(2019): チカーノとは何か-境界線の詩学。1-240, 水声社, 東京
	井村俊義(2019): 近代への過渡期と多民族研究-島崎藤村『夜明け前』再読。松本昇監修, エスニシティと物語り, 138-148, 金星堂, 東京。
座馬耕一郎	座馬耕一郎(2019): 霊長類の1日の活動。時間学の構築編集委員会編, 時間学の構築IIIヒトの概日時計と時間, 65-83, 恒星社厚生閣, 東京。
西垣内磨留美	西垣内磨留美(2019): ゴラ・ニール・ハーストン——連邦作家計画をめぐって。西垣内磨留美, 君塚淳一, 中垣恒太郎, 馬場聡, エスニシティと物語り——複眼的文学論, 金星堂。
藤原聡子	藤原聡子, 阿部智恵子, 阿部芳江, 水主千鶴子, 竹村節子, 田尻后子, 堤かおり, 豊嶋三枝子, 樋口京子, 日隈ふみ子(2018): アイモジン・キング目標達成理論。城ヶ端初子, 新訂版 実践に生かす看護理論19 第2版, 213-230, 株式会社サイオ出版, 東京都。
細田江美	細田江美(2019): 第6章第1節老後の生活、第2節社会参加/生涯学習。奥野茂代、大西和子監修、百瀬由美子編、老年看護学 概論と看護の実践 第6班, 61-70, ヌーヴェルヒロカワ, 東京都。
安田貴恵子	田村須賀子, 安田貴恵子, 山崎洋子他(2019): 第3章地区活動f 地域/公衆衛生看護g の手段としての家庭訪問、第4章ワークブックの基礎となる考え方。牛尾裕子, 佐藤紀子, 田村須賀子, ワークブック 地域/公衆衛生看護活動事例演習, 100-103, 114-115, クオリティケア, 東京都。

② 論文 (五十音順)

氏名	内容
秋山 剛	Takeshi Akiyama, Ernesto R. Gregorio Jr., Jun Kobayashi (2018): Youth sports activity and young people's well-being after a disaster: a trial with the Mastery Approach to Coaching (MAC) in the Philippines. BMC BMC Research Notes, 11: 747 DOI:https://doi.org/10.1186/s13104-018-3860-1.
東 修	東修, 黒川めぐみ, 田中順子, 大蔵真理 (2019): 精神科における向精神薬の副作用を巡る患者一看護師の関係性. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 第 15(1), 27-32.
金子さゆり	Sayuri Kaneko and Mayumi Okada (2018): Medication Management Factors Associated With Medication Errors at Japanese Long-Term Care Facilities. Journal of Applied Medical Sciences, vol.7, no. 1, p 1-10.
	Hiroki Chiba, Tomoaki Ogata, Michiya Ito and Sayuri Kaneko (2018): Identification of Topics Explained by Home Doctors to Family Caregivers with Cancer Patients Died at Home: A Quantitative Text Analysis of Actual Speech in All Visits. Tohoku J. Exp. Med, 245, 251-261.
	井本 英津子, 金子 さゆり (2018): 我が国における看護教員の能力と職場サポートに関する現状と課題. 長野県看護大学紀要, 20, 13-24.
	Yoshioka Emi and Kaneko Sayuri (2019): The Current Status of Ethical Judgment Capacity and Ethical Training Regarding Continuous Nursing Education. International Journal of Nursing & Clinical Practice, Volume 6:305, 1-5.
	那須淳子, 金子さゆり (2019): 介護職員の抑うつ傾向および離職意図の実態と関連要因. 日本看護福祉学会, 24(2)215-226.
上條こずえ	上條こずえ (2018): 職場の新人看護師を取り巻く人間関係に関する組織上の課題についての文献研究. 長野県看護大学紀要, 25-31.
佐々木美果	佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 阿部正子 (2018): 未就学児をもつシングルマザーの背景による育児ストレスと蓄積疲労. 母性衛生, 59:416-423.
曾根千賀子	Chikako Ikegami, Katsumasa Ota (2018): Development of self-report checklist to assess dementia care by nurses in hospital settings. Research in Gerontological Nursing, 11(2):91-102.
那須淳子	那須淳子, 金子さゆり (2019): 介護職員の抑うつ傾向および離職意図の実態と関連要因. 日本看護福祉学会誌, Vol.24No.2:215-226.
西垣内磨留美	西垣内磨留美 (2019): Knocking about the State a Bit——ゾラ・ニール・ハーストンと連邦作家計画. 多民族研究.

③ 学会発表 (五十音順)

氏名	内容
青木駿介	青木駿介, 安東由佳子: 国内を対象とした DNAR に関する看護文献の検討. 第 23 回日本看護研究学会東海地方大会, 2019.3.17, 愛知県大府市.
有賀智也	有賀智也, 渡辺みどり, 曾根千賀子, 千葉真弓, 細田江美: 病棟看護師が医療観察下にある高齢対象者行っている対応とその困難(第 2 報). 日本看護福祉学会, 2018.7.28-7.29, 長野県駒ヶ根市.
有賀美恵子	有賀美恵子: 精神疾患が疑われる高校生と家族を支える養護教諭のかかわり-連携支援を困難にしている要因-. 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15, 松山市.
伊藤郁恵	唐澤秀明, 向村いつみ, 伊藤郁恵, 那須淳子: 一般病棟看護師の人工呼吸器装着患者への思い-ケアで大切にしていることに焦点を当てて-. 第 49 回日本看護学会-急性期看護-学術集会, 2018.9.7-8, 別府市.
伊藤佑季	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 熊谷理恵, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 長谷川志保: 一般病棟における看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感 外科系病棟と内科系病棟での違い. 第 31 回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	前田美香子, 曾根千賀子, 伊藤佑季: 慢性心不全患者の療養生活支援に向けた訪問看護師と病棟看護師が必要とする情報. 第 31 回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	伊藤佑季, 熊谷理恵, 土川睦子, 小林敏生, 安東由佳子: パーキンソン病患者における QOL と抑うつとの関連要因の検討. 第 31 回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.

氏名	内容
伊藤祐紀子	伊藤 祐紀子, 川村美紀: 臨地実習において看護大学生が体験するスピリチュアリティの揺らぎ. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15., 愛媛県松山市.
	池上敦子(研究代表者), 伊藤祐紀子, 那須淳子: 高齢者への誤嚥予防ケアの実態と地域連携にむけての課題～地域中核病院と訪問看護ステーションとの連携に焦点をあてて～. 第15回長野県看護大学研究集会, 2019.3.20., 駒ヶ根市.
浦野理香	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 熊谷理恵, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 長谷川志保: 一般病棟における看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感—外科系病棟と内科系病棟とでの違い. 日本看護福祉学会, 2018.7.29, 駒ヶ根市.
太田克矢	Marumi Nishigauchi, Katsuya Ota: Examining the Contents of an Educational Application to Support Japanese Graduate Students in English Abstracts Writing. The International Journal of Arts & Sciences' International Conference for Social Sciences and Humanities, 2018.5.25, Boston, U.S.A..
	御子柴裕子, 太田克矢, 柄澤邦江, 岩谷力: 介護予防を目指した筋力アップ教室による高齢者の下肢筋力の改善. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	小田切 俊一, 太田 克矢: 看護職の擦式手指消毒の現状について—手袋を着用したままの擦式手指消毒に着目して—. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	野口利香, 太田 克矢: 中年期介護職員のロコモ度. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	北澤智也, 太田 克矢: 尿定性検査の授業で使用する疑似尿の保存性と改良. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	御子柴裕子, 太田克矢, 柄澤邦江: 介護予防を目指した高齢者の筋力アップ教室の効果. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15-16, 愛媛県松山市.
	太田克矢: 材料に食品を用いた「尿試験紙用の疑似尿」の作成. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15-16, 愛媛県松山市.
小野塚元子	小野塚元子, 安田貴恵子: 大学と現場と共同で行う退院移行期の支援に関する研修の実践報告. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28, 駒ヶ根市.
	家根明子, 小野塚元子, 長瀬雅子: A市地域包括支援センターにおける初老期認知症への支援経験. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28, 駒ヶ根市.
	家根明子, 小野塚元子, 長瀬雅子: 認知症初期集中支援チームにおける意思決定支援に向けたかかわり. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15, 愛媛県松山市.
金子さゆり	金子さゆり, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 平岡翠, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子: 看護管理者のキーコンピテンシー尺度の開発と信頼性・妥当性の検証. 第22回日本看護管理学会学術集会, 2018.8, 神戸.
	平岡翠, 金子さゆり, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子: 看護管理者のキーコンピテンシーとリフレクションスタイルとの関連. 第22回日本看護管理学会学術集会, 2018.8, 神戸.
	那須淳子, 金子さゆり: 介護職員の抑うつ傾向および離職意図に影響を与える要因. 第22回日本看護管理学会学術集会, 2018.8, 神戸.
	那須淳子, 金子さゆり: 介護職員の組織コミットメントへ影響を与える要因. 第31回日本看護福祉学会学術集会, 2018.8, 長野.
	細田江美, 渡辺みどり, 安田貴恵子, 金子さゆり, 中畑千夏子, 曾根千賀子, 有賀智也: 認知症看護認定看護師の実践活動に関する実態調査. 第31回日本看護福祉学会学術集会, 2018.8, 長野.
	吉岡 詠美, 金子 さゆり: 看護学生および看護師の倫理的行動の概念分析. 第28回日本看護学教育学会学術集会, 2018.8, 横浜
柄澤邦江	御子柴裕子, 太田克矢, 柄澤邦江, 岩谷力: 介護予防を目指した筋力アップ教室による高齢者の下肢筋力の改善. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.29, 駒ヶ根市.
	柄澤邦江, 安田貴恵子: 独居がん療養者の看取りにおける訪問看護師の看護実践—エンド・オブ・ライフ・ケアの6つの焦点からの文献検討. 第13回日本ルーラルナース学会学術集会, 2018.11.3, 高松市.
	御子柴裕子, 太田克矢, 柄澤邦江: 介護予防を目指した高齢者の筋力アップ教室の効果. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15, 愛媛県松山市
熊谷理恵	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 熊谷理恵, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 長谷川志保: 一般病棟における看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.

氏名	内容
熊谷理恵	渡辺まゆみ, 熊谷理恵: 術後乳がん患者における放射線治療に伴う皮膚症状への感じ方と対処行動の関連性. 日本看護福祉学会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市
	伊藤佑季, 熊谷理恵, 土川睦子, 小林敏生, 安東由佳子: パーキンソン病患者におけるQOLと抑うつとの関連要因の検討. 日本看護福祉学会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	渡辺まゆみ, 熊谷理恵: 乳がん術後の放射線治療に伴う皮膚症状変化への対処行動と放射線治療に対する思いとの関連性. 日本がん看護学会, 2019.2.23-24, 福岡.
	熊谷理恵, 安東由佳子: がん臨床試験の参加継続における患者への看護師による意思決定支援に関する文献検討. 日本がん看護学会, 2019.2.23-24, 福岡.
酒井久美子	安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子, 山崎洋子, 田村須賀子: 小規模市における認知症の気づきから早期のケア資源充実にに向けたマネジメント. 第77回日本公衆衛生学会総会, 2018.10.26, 郡山市.
座馬耕一郎	座馬耕一郎, 竹ノ下祐二, 藤田志歩, 川添達朗, 浅井隆之: 大隅半島に生息するニホンザル集団の遊動域と群れのまとまり. 第34回日本霊長類学会大会, 2018.7.14, 東京.
	座馬耕一郎: 霊長類の睡眠の特徴と進化. 日本人類学会進化人類分科会第42回シンポジウム, 2018.10.21, 三島市.
下村聡子	安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子, 山崎洋子, 田村須賀子: 小規模市における認知症の気づきから早期のケア資源充実にに向けたマネジメント. 第77回日本公衆衛生学会総会, 2018.10.26, 郡山市
曾根千賀子	Yukari Niimi, Katsumasa Ota, Chikako Ikegami: Evaluation of nurses for screen display methods temporarily invisible for privacy protection. International Conference on Nursing Informatics, 2018.6.6-8, GUADALAJARA, MEXICO.
	前田美香子, 曾根千賀子, 伊藤佑季: 慢性心不全患者の療養生活支援に向けた訪問看護師と病棟看護師が必要とする情報. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	Eriko Otake, Katsumasa Ota, Chikako Ikegami, Yukari Niimi, Satoko Yamada, Jukai Maeda, Masami Matsuda: Methods for the Proxy Estimation of Dementia Patients' Thoughts on Dignity. 19th International Nursing Ethics Conference, 4th International Ethics in Care Conference, 2018.9.1, Cork.
喬 炎	王艶薇, 山岸定智, 三浦大志, 柄澤邦江, 北山秋雄, 喬 炎: 褥瘡早期診断に用いるガラス板圧診法の適正圧力の検証. 第20回日本褥瘡学会, 2018.9.28, 横浜市.
	En Takashi, Yanwei Wang, Daiji Miura, Ping Hou, HuiPing Xue, Akio Kitayama: Verification of optimal pressure of transparent interface used to distinguish stage 1 pressure injury from blanchable erythema. NPUAP 2019 Annual Conference, 2019.3.1, St. Louis USA.
	喬 炎, 三浦大志, 北山秋雄: ブドウ糖液の創部塗布による皮膚虚血と圧迫性傷害の早期治療の試み. 平成30年度 長野県看護大学研究集会, 2019.3.20, 駒ヶ根市.
那須淳子	那須淳子, 金子さゆり: 介護職員の組織コミットメントへ影響を与える要因. 第31回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.28, 駒ヶ根市.
	那須淳子, 金子さゆり: 介護職員の抑うつ傾向および離職意図に影響を与える要因. 第22回日本看護管理学会学術集会, 2018.8.24, 神戸市.
	唐澤秀明, 向村いつみ, 伊藤郁恵, 那須淳子: 一般病棟看護師の人工呼吸器装着患への思い. 日本看護学会-急性期看護-学術集会, 2018.9.7, 別府市.
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi, Katsuya Ota: Examining the Contents of an Educational Application to Support Japanese Graduate Students in English Abstracts Writing. The International Journal of Arts & Sciences' International Conference for Social Sciences and Humanities, 2018.5.25, Boston, U.S.A.
	西垣内磨留美: Knocking about the State a Bit——ゾラ・ニール・ハーストンと連邦作家計画. 多民族研究学会, 2018.7.28.
	Marumi Nishigauchi: Re-reading the Federal Writers' Project from an Ethnic Point of View. Zora Neale Hurston Festival of the Arts and Humanities, 2019.2.1, Eatonville, U.S.A.
藤原聡子	小川景子, 藤原聡子: 日本統治下において公布された台湾産婆規則の特徴. 第33回日本助産学会学術集会, 2019.3.3, 福岡市 国際会議場.
細田江美	細田江美, 渡辺みどり, 安田貴恵子, 金子さゆり, 中畑千夏子, 曾根千賀子, 有賀智也: 認知症看護認定看護師の実践活動に関する実態調査. 日本看護福祉学会, 2018.7.29, 駒ヶ根市.
	細田江美, 中村祐希, 吉田佐代, 福島一欽: 認知症の人々を支えるケア「交流集会」. 日本看護福祉学会第31回学術大会, 2018.7.28, 駒ヶ根市.

氏名	内容
松本淳子	Matsumoto, J.: How people perceive the sound environment in a rural town. 29th International Congress of Applied Psychology, 2018.6.26, Montreal
	松本じゅん子: ヒトカラで歌う音楽の特質と心理的効果. 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会, 2018.9.13, 大分市.
	松本じゅん子: 看護実習における教員によるフィードバックの効果. 日本教育心理学会第 60 回総会, 2018.9.15, 川崎市.
	松本じゅん子: 痛みに対する音楽の心理的作用. 日本心理学会第 82 回大会, 2018.9.26, 仙台市
	松本じゅん子: 幼稚園や保育園での音楽の使用についての調査. 日本音響学会 2019 年春季研究発表会, 2019.3.7, 調布市.
	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: 病棟における音楽の利用と効果. 第 15 回長野県看護大学研究集会, 2019.3.20, 駒ヶ根市.
	松本じゅん子: 病棟の音環境についての予備調査. 第 15 回長野県看護大学研究集会, 2019.3.20, 駒ヶ根市.
御子柴裕子	御子柴裕子, 太田克矢, 柄澤邦江, 岩谷力: 介護予防を目指した筋力アップ教室による高齢者の下肢筋力の改善. 第 31 回日本看護福祉学会学術大会, 2018.7.29, 駒ヶ根市.
	安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子, 山崎洋子, 田村須賀子: 小規模市における認知症の気づきから早期のケア資源充実に向けたマネジメント. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 2018.10.26, 福島県福島市.
	御子柴裕子, 太田克矢, 柄澤邦江: 介護予防を目指した高齢者の筋力アップ教室の効果. 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 2018.12.15, 愛媛県松山市.
村井ふみ	安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子, 山崎洋子, 田村須賀子: 小規模市における認知症の気づきから早期のケア資源充実に向けたマネジメント. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 2018.10.26, 郡山市.
安田貴恵子	細田江美, 渡辺みどり, 安田貴恵子, 金子さゆり, 中畑千賀子, 曾根千賀子, 有賀智也: 認知症看護認定看護師の実践活動に関する実態調査. 第 31 回看護福祉学会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市.
	小野塚元子, 安田貴恵子: 大学と現場と共同で行う退院移行期の支援に関する研修の実践報告. 第 31 回日本看護福祉学会, 2018.7.28-29, 駒ヶ根市
	川手弓枝, 安田貴恵子: グリーフサポートグループを立ち上げた運営者の思いと活動の実際. 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 2018.8-11-12, 岐阜市
	田村須賀子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 高倉恭子: 行政の保健師から福祉部門に配置された保健師による家庭訪問援助の特質. 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 2018.8.11-12, 岐阜市.
	安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子, 山崎洋子, 田村須賀子: 小規模市における認知症の気づきから早期のケア資源充実に向けたマネジメント. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 2018.10.26, 郡山市.
	田村須賀子, 高倉(須永)恭子, 安田貴恵子, 山崎洋子: 市町村行政の保健から福祉部門に配置された保健師が継承する家庭訪問援助. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 2018.10.25, 郡山市.
	柄澤邦江, 安田貴恵子: 独居がん療養者の看取りにおける訪問看護師の看護実践—エンド・オブ・ライフ・ケアの 6 つの視点からの文献検討. 第 13 回日本ルーラルナース学会学術集会, 2018.11.3, 高松市.
	本塚真弓, 安田貴恵子: 活動指針・人材育成ガイドライン策定を通じた統括保健師の実践—リーダー連絡会のマネジメントに焦点をあてて—. 第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2019.1.26-27, 山口県宇部市
	田村須賀子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 高倉恭子: 行政の保健から福祉部門に配置された保健師による生活困窮者への健康生活支援. 第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2019.1.26-27, 山口県宇部市.

④ 研究報告書（五十音順）

氏名	内容
松本淳子	松本じゅん子: 快適な病棟のための音環境デザイン. 2014～2017 年度科学研究費補助金基盤研究 (c)研究成果報告書. 2018.

⑤ 講演等（五十音順）

氏名	内容
東 修	東修、岡田実: Web 会議を活用した看護職者に対するコンサルテーション, 2018.5 月から 1 回/月, 伊那市(伊那神経科病院)、函館市(亀田北病院).
	東修: 看護人事・労務管理. 看護職の健康管理とストレスマネジメント. 平成 30 年度認定管理者教育課程, セカンドレベル研修, 2018.6.28, 松本市.
	東修、岡田実: 地域移行・行動制限の適正化・院内暴力の問題解決に糸口をつける看護実践の検証, 2018.11.3, 函館市.
秋山 剛	Takeshi Akiyama, Ernesto R. Gregorio, Jr., Jun Kobayashi : An application of the sports activity to support young people after a disaster. The 1st Mental Health Summit and Research Forum, Department of Health Region 8, 2018.10.10, Tacloban, Leyte, the Philippines.
有賀美恵子	有賀美恵子: 学校でのチーム支援における課題と公認心理師に期待すること. 日本精神衛生学会第 34 回大会シンポジウム「多職種チームにおける公認心理師への期待と課題」, 2019.2.17, 東京.
伊藤祐紀子	伊藤 祐紀子: 「やってみよう! 事例研究」. 長野県看護大学看護実践センター学外機関連携部門看護ユニフィケーション事業, 看護研究研修会, 2018.9.13., 駒ヶ根市.
井村俊義	井村俊義: 信州人たちの生と死. 伊那谷 生と死を考える会, 2018.9.15, 駒ヶ根市.
金子さゆり	金子さゆり: 看護部継続教育「看護過程」研修会(1 回目). 飯田市立病院, 2018.5, 飯田市
	金子さゆり: 看護部継続教育「看護過程」研修会(2 回目). 飯田市立病院, 2018.6, 飯田市.
	金子さゆり: 看護実践に活かす看護過程. 長野県看護協会, 2018.9.
	金子さゆり: コンピテンシーの概念を活用した目標管理. 飯田市立病院, 2018.12, 飯田市.
	金子さゆり: 看護管理者のキーコンピテンシーと獲得プロセス. 東京医科歯科大学病院, 2019.2, 東京.
	金子さゆり: 看護基礎教育と臨床現場との連携—現状と課題—. 長野県人材育成連絡協議会, 2019.3, 松本市.
座馬耕一郎	金子さゆり: 看護管理の実践方法(問題解決技法)について考えてみよう. 伊那中央病院, 2019.3, 伊那市.
	座馬耕一郎: ベッドで眠るアフリカのチンパンジー. 群馬県立自然史博物館、自然史講座, 2018.5.13, 富岡市.
	座馬耕一郎: 霊長類の睡眠. 第 13 回人類学関連学会協議会合同シンポジウム「眠りの人類学: 人は夜をどのように過ごしてきたか」, 2018.6.16, 福岡市.
	座馬耕一郎: “霊長類”から見る. 日本デザイン学会第 65 回春季研究発表大会オーガナイズドセッション「“デザイン”の時代 — QOL+(プラス)を考える」, 2018.6.24, 大阪市.
	座馬耕一郎: サルの生態から学ぶ中山間地域の暮らし. 伊那谷アグリイノベーション推進機構第 15 回シンポジウム, 2018.7.24, 駒ヶ根市.
座馬耕一郎: チンパンジーに学ぶ睡眠文化. 長野県看護大学平成 30 年度第 2 回公開講座, 2019.2.16, 駒ヶ根市.	
曾根千賀子	曾根千賀子: 統計の基本. 平成 30 年度民医連看護・介護研究講座指導者研修, 2018.9.14, 松本市.
	Chikako Sone: Home Health Nursing in Japan. 2019.3.25, Yangzhou University.
喬 炎	喬 炎: 褥瘡の早期診断と早期治療の新動向. 中国医科大学特別講演会, 2018.7.11, 中国 瀋陽市.
西垣内磨留美	西垣内磨留美(シンポジウム司会/座長): 連邦作家計画を読み解く——作家と民族の地平から. 多民族研究学会大会シンポジウム, 2018.7.28.
細田江美	細田江美: 研究を創り上げるために必要なこと. 長野県看護大学 FD 研修会, 2018.8.23, 駒ヶ根市.

氏名	内容
細田江美	細田江美: 介護を担っておられる皆様へ。宅老所はなうた 家族との交流会, 2018.11.26, 伊那市.
	細田江美: 認知症と共に生きる ～私の人生、わたしが決める～。「キャラバン・メイト フォローアップ研修」「認知症ケア研修会」, 2019.2.12, 駒ヶ根市.
	細田江美: Education and activities of advanced nurse for people with dementia. 揚州大学, 2019.3.12, 揚州市(中国).
松本淳子	松本じゅん子: 特別講演司会. 日本音楽知覚認知学会平成 30 年度春期研究発表会 / 日本音響学会音楽音響研究会(2018 年 5 月研究会), 2018.5.26, 佐渡市.
渡辺みどり	渡辺みどり: 伊那中央病院 メンバーシップ研修. メンバーシップとリーダーシップ, 2018.6.7, 伊那市.

### ⑥ 出版物等(五十音順)

氏名	内容
青木駿介	青木駿介, 太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 6 回) 拡散・浸透. クリニカルスタディ 2018 年 9 月号, メヂカルフレンド社
	青木駿介, 太田克矢 (2019): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 10 回) 圧力(気圧、水圧). クリニカルスタディ 2019 年 1 月号, メヂカルフレンド社.
	青木駿介, 太田克矢 (2019): 習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 12 回) 電気. クリニカルスタディ 2019 年 3 月号, メヂカルフレンド社.
太田克矢	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 1 回)原子の記号. クリニカルスタディ 2018 年 4 月号 2018 Vol.39 No.4 April, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 2 回)有機化合物と無機化合物. クリニカルスタディ 2018 年 5 月号 2018 Vol.39 No.5 May, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 3 回)イオンと電解質. クリニカルスタディ 2018 年 6 月号 2018 Vol.39 No.7 June, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 4 回)酸性・塩基性(アルカリ性)と pH. クリニカルスタディ 2018 年 7 月号 2018 Vol.39 No.8 July, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 5 回)化学反応、触媒と酵素. クリニカルスタディ 2018 年 8 月号 2018 Vol.39 No.9 August, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	執筆:青木駿介, 監修:太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 6 回)拡散・浸透. クリニカルスタディ 2018 年 9 月号 2018 Vol.39 No.10 September, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 7 回)力のベクトル. クリニカルスタディ 2018 年 10 月号 2018 Vol.39 No.11 October, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 8 回)力のモーメント. クリニカルスタディ 2018 年 11 月号 2018 Vol.39 No.12 November, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 9 回)運動の法則. クリニカルスタディ 2018 年 12 月号 2018 Vol.39 No.14 December, 68-70, メヂカルフレンド社, 東京.
	執筆:青木駿介, 監修:太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 10 回)圧力(気圧、水圧). クリニカルスタディ 2019 年 1 月号 2019 Vol.40 No.1 January, 52-54, メヂカルフレンド社, 東京.
	太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 11 回)熱とエネルギー. クリニカルスタディ 2019 年 2 月号 2019 Vol.40 No.2 February, 51-54, メヂカルフレンド社, 東京.
	執筆:青木駿介, 監修:太田克矢 (2018): 復習しながら看護の勉強につなげる やさしい理科教室(第 12 回)電気. 65-68, メヂカルフレンド社, 東京.
小野塚元子	小野塚元子、安田貴恵子、小林明子、大瀬木朋子 (2018): 特集 2 第 31 回日本看護福祉学会学術大会報告 交流集会 在宅における摂食・嚥下障害を持つ療養者の『食べること』への支援. 日本看護福祉学会誌 24(1), 96-98.
座馬耕一郎	座馬耕一郎 (2018): 知をみつめる図鑑: “Wanyama wa Mahale”の試み. フィールドプラス, 20, 4-15.
	座馬耕一郎 (2018): 新刊紹介:岩井雪乃著「ぼくの村がゾウに襲われるわけ。—野生動物と共存するってどんなこと?—」合同出版. アフリカ研究, 93, 23-24.
	座馬耕一郎 (2019): チンパンジーの眠りを感じる. デザイン学研究特集号第 26 巻 1 号「QOL+(プラス)」を考える, 32-39.

氏名	内 容
喬 炎	喬 炎, 北山秋雄, 張 嵐, 魯 健 (2019): 皮膚内検査装置、皮膚内検査システム 特許(特願2019-084112).
高橋百合子	穂高幸枝, 高橋百合子 (2018): 小児科外来における家族との適切な「かかわり方・支え方・寄り添い方」. 継続看護を担う体質強化外来看護, vol.23, no.1, 121-128, 日総研, 名古屋.
安田貴恵子	小野塚元子, 安田貴恵子, 小林明子, 大瀬木朋子 (2018): 特集2 第31回日本看護福祉学会学術大会報告 交流集会 在宅における摂食・嚥下障害を持つ療養者の『食べること』への支援. 日本看護福祉学会誌 24(1), 96-98.

### 第3節 社会・地域貢献活動

平成30年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会(第2節⑤講演等に記載の講演を除く)、学会等に関する活動は、延べ154件であった(表6)。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ17件であった(表7)。

(表6) 本学教員が行った社会・地域貢献活動(五十音順)

氏名	活 動 内 容
青木駿介	第31回日本看護福祉学会学術大会 実行委員会
有賀智也	上伊那医療生協 法人拡大倫理委員会 委員
有賀美恵子	日本学校メンタルヘルス学会誌 査読者
	日本看護教諭教育学会誌 査読者
伊藤郁恵	鍼灸師会上伊那地区 フィジカルアセスメント研修講師分担
伊藤佑季	第31回日本看護福祉学会学術大会 大会事務局員
伊藤祐紀子	中部 M-GTA 研究会世話人(研究発表会、講演会、ワークショップ、合同研究会の開催)
	M-GTA 研究会第5回合同研究会 分析ワークショップ スーパーバイザー
井村俊義	伊那谷 生と死を考える会 会員
井本英津子	伊那中央病院 リーダーシップ研修(2回コース) 講師
	伊那中央病院 リーダーシップレベルアップ研修(2回コース) 講師
	伊那中央病院 プリセプター研修 講師
	日本看護福祉学会 抄録担当 看護教員養成講習会 ワーキング委員
浦野理香	昭和伊南総合病院 事例検討会講評
	第31回日本看護福祉学会学術大会企画委員
太田克矢	第31回日本看護福祉学会学術大会 企画委員
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
小野塚元子	第31回日本看護福祉学会学術大会 企画委員
	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員長
	第39回長野県看護研究学会 抄録査読 第31回日本看護福祉学会学術大会 交流集会主催
金子さゆり	日本看護科学学会誌 査読委員
	日本医療・病院管理学会誌 査読委員
	日本学術振興会科学研究費補助金 審査委員
	第22回日本看護管理学会学術集会 抄録査読
	第38回日本看護科学学会学術集会 抄録査読
	長野県看護研究学会 査読委員
	看護人材育成連絡協議会ワーキング 飯田市立病院 専門職の目標管理と人材育成に関するコンサルタント
柄澤邦江	第50回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会抄録選考委員
	日本ルーラルナース学会 評議員
北山秋雄	南信里親里子交流支援の会 顧問
	日本ルーラルナース学会 評議員
	日本民族衛生学会 評議員
	日本思春期学会 査読委員

氏名	活動内容
北山秋雄	日本ルーラルナース学会誌 査読委員
	日本在宅ケア学会 査読委員
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	長野県公害審査会 委員
	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究S) 審査委員
熊谷理恵	第31回日本看護福祉学会学術大会 大会事務局員
近藤恵子	日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会：評議員・社会保険委員
	長野県ストーマリハビリテーション研究会：世話人
	日本褥瘡学会：評議員
	長野県褥瘡懇話会：世話人
	長野県看護協会：学会委員（第39回長野県看護研究学会開催運営）
	日本オストミー協会長野支部：顧問
	鍼灸師会上伊那地区 フィジカルアセスメント研修講師分担
	第6回長野県認定看護師フォローアップ研修会（企画運営）
坂田憲昭	愛知医科大学 非常勤講師
	川崎看護専門学校 非常勤講師
座馬耕一郎	日本霊長類学会 評議員・渉外担当幹事
	アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い 世話人
	マハレ野生動物保護協会 理事
	日本人類学会 進化人類分科会 幹事
	岐阜県立看護大学 非常勤講師
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
島袋 梢	平成30年度信州大学教員免許更新講習会 講師
白井 史	日本小児がん看護学会 ケア検討委員
水主洋子	Aコース新生児蘇生法「専門」コースインストラクターとして参加（名古屋市立大学）
	赤穂南小学校 いのちの授業 開催
曾根千賀子	高齢者ケア看護研究会 事務局運営
	長野県民主医療機関連合会「看介護研究講座」講師
	第31回日本看護福祉学会学術大会 実行委員
高橋百合子	日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修 講師
	日本小児看護学会 専任査読員
高山陽子	長野県介護支援専門員研修委員会：委員
	長野県健康福祉部主宰：平成30年度看護職員認知症対応力向上研修：講師
	第39回長野県看護研究学会：交流集会企画運営
	第31回日本看護福祉学会学術集会：交流集会企画運営
	長野県認知症看護認定看護師会：講師
竹内幸江	日本小児保健協会・代議員
	日本小児看護学会・評議員 専任査読員 災害対策委員
	日本看護倫理学会・評議員
	日本小児がん看護学会・専任査読員
	日本看護学教育学会・専任査読員
	千葉看護学会・査読員
	長野県小児保健協会・監事
	長野県看護実習指導者養成講習会 講師
田中真木	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師
千葉真弓	日本老年看護学会 査読員
	日本看護福祉学会 理事・査読員
	第31回日本看護福祉学会学術大会 事務局 シンポジウムコーディネーター
	第23回日本老年看護学会示説発表座長
	愛知県立大学大学院 非常勤講師

氏名	活動内容
千葉真弓	長野県伊那公衆衛生専門学校 非常勤講師
富田美雪	昭和伊南総合病院 事例検討会講評
中畑千夏子	長野県須坂看護専門学校 非常勤講師
那須淳子	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師 第31回日本看護福祉学会学術大会 実行委員
西垣内磨留美	多民族研究学会会長
	黒人研究学会役員
	アイリッシュ・アメリカン研究会副代表
	長野県赤穂高等学校評議員
	日本女子大学非常勤講師 長野県公衆衛生専門学校非常勤講師
西村理恵	長野県助産師会 副会長
	長野県助産師会 災害対策委員会 副委員長
	長野県助産師会 教育委員
	長野県立飯田高等学校 評議員
林 陽子	赤穂南小学校1年生「いのちの授業」講師
藤井あゆみ	JICA 草の根技術協力事業「ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修 国内調整員 研修計画立案実施メンバー
	駒ヶ根市子育て支援センター（まあるくなあれ）にて「母親向け命の誕生のお話会」講師
	中川村子育てひろば（バンビーニ）にて母親向け命の誕生のお話会」講師
	中川東小学校4年生 性教育「命の出前講座」講師 駒ヶ根市赤穂南小学校1年生「いのちの授業」アシスタント
藤原聡子	長野県母子衛生学会第1回理事会 常任理事・母子衛生学会誌編集委員)
	長野県母子衛生学会第2回理事会 常任理事・母子衛生学会誌編集委員)
	長野県母子衛生学会学術講演会 一般口演座長
	看護協会主催進路指導担当者会議 講師
松本淳子	日本音楽知覚認知学会理事
	日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会平成30年度春季研究発表会研究選奨選考委員
	日本音楽知覚認知学会平成30年度秋季研究発表会研究選奨選考委員
	日本音楽知覚認知学会創立30周年記念出版「音楽知覚認知ハンドブック」(北大路書房), 第12章「音楽と産業・社会」副編集委員
	日本心理学会心理学研究査読者
	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師
三浦大志	平成30年度 信州大学教員免許状更新講習会 講師
	日本生理学会アウトリーチ活動 登録講師
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	長野県須坂看護専門学校 非常勤講師
御子柴裕子	平成30年度信州大学免許状更新講習(子どものライフスタイルと健康ー小児のメタボリックシンドローム予防と地域との連携ー) 講師
	平成30年度大町保健福祉事務所新任期保健師研修会(全4回) 企画・運営、講師
	日本ルーラルナーシング学会 編集委員会 事務局 第50回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会 抄録選考委員
宮越幸代	駒ヶ根市「生活者としての外国人」のための日本語学習事業 運営委員
	日本災害看護学会 ネットワーク活動・調査調整部 委員
	信州木曽看護専門学校 「国際看護・災害看護」非常勤講師
	駒ヶ根市総合防災訓練町4区第4町内および上穂町区第5町内 平成30年度合同防災訓練 企画・実施(防災委員会委員長)
	駒ヶ根市日赤奉仕団活動 団員 県立飯田高校出前講座「生命を守る技術、いまむかし、そして世界のあちこち」講師

氏名	活動内容
安田貴恵子	日本地域看護学会 代議員、日本地域看護学会誌 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会 理事、日本ルーラルナーシング学会誌 編集委員長
	日本在宅ケア学会 評議員
	千葉看護学会誌 査読委員
	信州公衆衛生学会誌 編集委員
	信州木曽看護専門学校 非常勤講師
	長野県医療費適正化推進検討会委員
	大町保健所管内研修会講師「保健師に求められる看護管理とは～公衆衛生看護管理を学ぶ～」
	医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会 退院支援・退院調整基礎研修講師（全2回）
	長野県中堅期保健師研修グループコンサルタント、講師「保健事業の枠組みを確認しよう」「実践プロセスの意義と育成する能力」
	長野県新人保健師研修企画運営（全4回）
	日本地域看護学会第21回学術集会 企画委員、教育講演座長
	第31回日本看護福祉学会学術大会 交流集会コーディネーター
渡辺みどり	日本老年看護学会 代議員・査読委員
	日本老年看護学会災害支援検討委員
	日本老年看護学会生涯学習支援委員
	日本看護福祉学会 理事・査読委員
	日本看護科学学会 代議員
	第31回日本看護福祉学会学術大会 事務局長
	伊那中央病院 メンバーシップ研修講師（ラダーレベルⅡ）
	中華人民共和国揚州大学 招聘講演講師 Terminal Care of Elderly People with Dementia : Through the Research Findings, March/25/2019
	佐久大学外部評価委員会委員

(表7) 本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏名	病院等施設名	支援内容
有賀智也	長野県民主医療機関連合会	研究発表会での助言
有賀美恵子	諏訪赤十字病院	院内研究指導1題
伊藤郁恵	長野県立木曽病院	院内研究指導1件、報告会講評
	伊那中央病院	共同研究に向けた研究計画書の支援1件
	伊那中央病院	共同研究の学会発表支援1件
伊藤祐紀子	伊那中央病院	共同研究1件
小野塚元子	長野県立木曽病院	院内研究指導2件
	長野県立木曽病院	看護研究計画書発表会での講評
金子さゆり	伊那中央病院	研究指導1件
上條こずえ	伊那中央病院	院内研究指導3題
高橋百合子	日本重症心身障害福祉協会	研究指導5題
	伊那中央病院	院内研究指導3題、発表会での助言
	昭和伊南総合病院	共同研究1題
竹内幸江	岡谷市民病院	研究指導12題
藤原聡子	伊那中央病院	看護職員研究指導（アドバイザー）面談指導と論文指導2回 研究課題数4件担当
	長野県立木曽病院	看護職員の研究指導、メールによる研究計画書作成指導、研究課題数1件、面談指導、院内看護研究発表会の講評
渡辺みどり	安曇野赤十字病院	「社会人経験を有する新人看護師の職場適応を促す看護師長の支援」の研究を共同研究者として行い、研究成果を日本看護福祉学会学術大会で発表し、同学会誌に論文として発表した。

## 第4章 社会貢献

### 第1節 公開講座

平成30年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	9月22日(土)	『『里山看護・遠隔看護学』を解剖するー里山の創成を目指してー』	長野県看護大学 北山 秋雄 学長	73名
2	平成31年 2月16日(土)	「チンパンジーに学ぶ睡眠文化」	長野県看護大学 座馬 耕一郎 准教授	112名
合計				185名

### 第2節 分野の活動

平成30年度に行った分野としての活動は、以下のとおりである。

分野	活動内容
基礎看護学分野	産学連携協定している伊那市タカノ株式会社(福祉機器製造開発)の開発製品を用いての「床ずれ防止に関する体圧分散」の特別講義・演習を平成30年10月22日(月)13:00~14:30本学にて実施した。1年生 必修科目基礎看護方法Ⅱのポジショニングの講義・演習の一部とし担当教員と協働にて実施した。
	長野県鍼灸師会フィジカルセサメント講習会を平成30年9月2日(日)9:00~16:00本学にて開催した。長野県内鍼灸師を対象に患者の状態を的確に把握する手法を身につけ、実践に活かすことができる、実践において医療連携に繋げることができることを目的にフィジカルアセスメントの講義および演習を実施した。
	長野県鍼灸師会フィジカルセサメント講習会を平成30年9月2日(日)9:00~16:00本学にて開催した。長野県内鍼灸師を対象に患者の状態を的確に把握する手法を身につけ、実践に活かすことができる、実践において医療連携に繋げることができることを目的にフィジカルアセスメントの講義および演習を実施した。
	平成29年度からの継続として伊那中央病院の研究指導を行なった。
	伊那中央病院にて下記の研修講師を務めた。 平成30年7月3日、10月31日開催のリーダーシップ研修 平成30年9月21日、11月14日開催のリーダーシップレベルアップ研修 平成31年3月14日開催プリセプター準備研修
	飯田市立病院にて下記の研修講師を務めた。 平成30年5月23日、6月20日 看護過程に関する研修 平成30年12月9日 看護管理者研修

分 野	活 動 内 容
小児看護学分野	<p>駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぽぽの会」の活動を支援し、学内で月1回を目途に9回の定例会を実施した。定例会では、アレルギーに関する新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、親同士の情報交換の場となるよう支援した。アレルギーに関して電話やメールによる相談にも対応し、平成30年度は4件の相談に応じた。また、飯島町からの要請により健康福祉大会で相談ブースを開設し、約20名の来訪者に対応した。平成30年12月15日には、「アレルギーを持つ子どもと家族が楽しく、安全に安心して生活するために」をテーマとした講演会を実施した。内容は(1)「たんぽぽの会」の母親からのメッセージと(2)小児看護専門看護師による講演で、参加者は23名であった。</p>
成人看護学分野	<p>病院の看護研究1件を支援し、学会発表2件を行った。</p>
老年看護学分野	<p>中華人民共和国揚州大学の招聘講演として以下の3講演を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Terminal care of elderly people with dementia --through the research findings--,</li> <li>・Education and activities of advanced nurse for people with dementia,</li> <li>・Home care nursing in Japan</li> </ul>
	<p>第31回日本看護福祉学会学術大会において、認知症高齢者が身体疾患により入院加療が必要になったとしても、その人らしい生活を継続できることを目指し実践活動をしている認知症看護認定看護師とともに、「認知症の人々を支えるケア」をテーマに交流集会を企画運営した。</p>
	<p>高齢者看護ケア研究会において「高齢者の『生きる』を支える意思決定支援」をテーマに2018年9月1日に老人看護専門看護師を講師に研修会を開催し、企画・運営のサポートを行った。</p>
	<p>介護老人保健施設「センテナリアン」「すずたけ」の行事である「かない原祭」および「すずたけ祭り」にボランティアとして学生とともに参加した。</p>
	<p>水中運動講座骨密度測定大会(2019年3月6日開催)における企画運営に参加し、地域在住高齢者へ自らの健康状態を知る機会を提供するとともに健康相談を行った。</p>
	<p>「認知症の人と家族の会」主催の「ラン伴」に認知症看護認定看護師教育課程受講生とともに参加し、認知症の啓発活動を行った。</p>

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第3章「教員の研修・研究、社会活動」第3節に掲載しています。

## 第5章 学内委員会等の活動及び検証

### 第1節 運営委員会

#### 1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

#### 2 活動と成果

##### (1) 委員会活動

###### 【開催日】

第1回	30年 4月 6日	第11回	30年 11月 2日
第2回	30年 4月 20日	第12回	30年 11月 16日
第3回	30年 5月 15日	第13回	30年 11月 30日
第4回	30年 6月 1日	第14回	30年 12月 14日
第5回	30年 6月 15日	第15回	31年 1月 10日
第6回	30年 7月 12日	第16回	31年 2月 1日
第7回	30年 8月 3日	第17回	31年 2月 15日
第8回	30年 9月 13日	第18回	31年 3月 1日
第9回	30年 10月 2日	第19回	31年 3月 15日
第10回	30年 10月 12日		

###### 【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

##### (2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

#### 3 今後の課題

##### (1) 喫緊の課題

ア 評価委員会における大学の自己点検・評価の課題について、運営委員会で検討し改善改革につなげていく。

イ 大学が取り組むべき主な課題の検討スケジュールに基づき、本委員会において取り組んだ内容について教授会等における審議に資する議論を行う。

##### (2) 将来的な課題

ア 今後の法人化議論に備えた準備をする。

イ 運営委員会のあり方等を検討する必要がある。

### 第2節 広報・交流委員会

#### 1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通りであった。(行事の事前準備活動などの記載は省略)

○会議：全9回(4/9、5/11、6/18、7/13、9/11、11/22、12/11、1/17、3/7)

主な議題：PATHWAY・オープンキャンパス(OC)・公開講座・進路説明会・大学見学・  
模擬授業・学報・その他広報活動・活動費用

○開催行事：オープンキャンパス(8/4)、公開講座(9/22、2/16)、大学見学(複数日)、  
進路説明会(複数日)、模擬授業・講義形式の進学説明(複数日)

### (2) 成果

#### 1) 進路説明会(進学相談)・模擬授業・大学見学

外部からの依頼28件のうち19件に対応し(対応延べ教員数は30名)、これに加えてOC及び学祭時に個別進学相談会を実施した(対応延べ教員数は15名)。このうち相談者数は、OC時73件、学祭時13件であった。外部での講義形式の進学説明に3件、模擬授業は1件に対応した。高校生の本学の見学に5件(計188名)に対応した。

#### 2) 大学案内PATHWAY発行

構成の主軸の1つである「学部の学生生活が伝わる大学案内」を維持しつつ、表紙のイメージの修飾による変更をはじめ、適宜、時間が経過した記事や写真などを更新した。

#### ◆オープンキャンパスの参加者数

年度	高校生	保護者等	合計
H30	353	308	661
H29	414	366	780
H28	384	319	703
H27	357	300	657
H26	355	247	602
H25	377	255	632
H24	377	179	556
H23	183	90	273
H22	244	160	404
H21	205	80	285
H20	205	190	395

#### 3) 学報の発行と大学院だより

読みやすく充実した紙面の学報(No.46、47)を2回発行し、関係各所に配布した。この際、入試部会の依頼による大学院だより(No.6)も作成し学報に挟み込む形で配布した(学報No.41より実施)。

#### 4) 大学説明会(オープンキャンパス)

本年度より、午前と午後の2部制の開催とし、各受付の定員を400名とした。この際の受付には行政回線で作成できる受付システムを導入

した。各コーナーは、講堂で実施した「全体説明会」の他に「看護(実験)体験コーナー、個別進学相談、模擬授業、学食体験」など例年と同様としたが、午前と午後の2部制に対応できるようにそれぞれのスケジュールを大幅に変更した。それに伴い、チラシやパンフレットの内容を見直し、改訂した。これらの導入により前年度までの課題であった各コーナーの混雑が大幅に軽減できた。今年度の参加者は661名であった。参加者アンケートからもおおむね好評を得ていた。

#### 5) 公開講座開催

地域貢献の一環として、下記のとおり、公開講座を2回開催した。公開講座の参加者アンケートの結果は良好であった。

##### ○1回目

日時：平成30年9月22日(土)

タイトル：『里山看護・遠隔看護学』を解剖する-里山の創生を目指して-

講師：北山 秋雄（長野県看護大学 学長）

参加者：73名

#### ○2回目

日時：平成31年2月16日（土）

タイトル：「チンパンジーに学ぶ睡眠文化」

講師：座馬 耕一郎（長野県看護大学 准教授）

参加者：112名

#### 6) 学外掲示板の更新

公開講座のポスター他を更新した。（昭和伊南総合病院、こころの医療センター駒ヶ根）

#### 7) 在学生を対象に大学の広報に関するアンケート調査の実施

2018年度入学生を対象に、入学前の時点での大学の広報などに関連する項目について調査（長野県民新聞、オープンキャンパス、パスウェイ、本学受験の意思決定など）を行った。その結果、オープンキャンパスへの参加率は、推薦入試による入学生が87%（30名中26名）であったのに対し、一般入試の前期での入学生38%（42名中16名）、後期で18%（11名中2名）であった。

#### 8) 県や業者による広報誌やパンフレットの内容の作成と確認

#### 9) 大学院案内パンフレットの発行

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

上記恒例事業のより円滑な運営と実施が最重要課題である。特にオープンキャンパスでは2部制として混雑を緩和するなどの大きな改善ができたものの、参加者数が減少したり夕刻に利用が少ないコーナーが有った為、これらの見直しが必要である。また、各事業の目的が明確となっていない部分があり、委員会内外でその内容と得られる成果をよく吟味していく必要がある。

#### (2) 将来的な課題

少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施の変更の必要性が大学執行部から意見として出でている。大学教員の業務量の増大と多様化の中でより効率的な広報活動を行うには、最も重要な対象者の1つである「学部入学志願者」への効率的な広報活動のありかたについて検討していく必要がある。

## 第3節 教務委員会

### 1 所掌事項

#### (1) カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討

- ・学生便覧・シラバスに関すること
- ・時間割の作成
- ・非常勤講師の任用
- ・卒業研究シラバスの検討
- ・教務ガイダンスの計画
- ・教務ガイダンス・担当教員の調整

#### (2) 履修に関すること

- ・履修登録の確認（重複登録、未登録等、特に再履修の科目の多い学生、復学生について）

- ・必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談
  - ・卒業判定・単位認定資料の確認作業
- (3) カリキュラムの改善に関する検討

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

#### 1) 平成30年度の活動方針

①入学者の受け入れから学士(看護学)の学位授与に至る一貫した教育プログラムの整備

- ・カリキュラム進行にあたって必要な事項の検討
- ・3年目を向かえるスタートアップセミナーの評価
- ・卒業研究における学生配置方法、評価基準についての検討

②その他必要な事項を検討する

(看護学教育モデル・コア・カリキュラム、看護学学士課程におけるコンピテンシーと卒業時到達目標、看護学教育質保証など動向を踏まえて随時検討)

#### 2) 委員会開催実績

回/開催日	審議事項	報告事項
第1回 4月16日	活動方針、活動内容と役割分担 退学願1件 助産師コース履修生辞退届1件	前年度 教務委員会活動報告書 教務ガイダンス実施報告 選択科目履修登録、未開講科目の報告
第2回 5月7日	復学、単位未修得学生の履修計画の確認 卒業研究評価基準の検討	スタートアップセミナー経過報告
第3回 6月11日	スタートアップセミナー報告会の検討	未修得単位のある学生の履修計画 看護師等養成所教務主任会議の報告
第4回 7月13日	休学願3件 慢性期看護方法のシラバス修正について 助産師コース履修生の選抜について 看護統合実習先修条件に係る学生の履修可否 卒業研究学生配属方法の検討① シラバス作成要領について①	土砂災害特別警戒情報による休講分の時間割変更について
第5回 9月3日	休学願1件 復学願1件 年度途中で卒業する学生の卒業認定 スタートアップセミナーの実施評価 卒業研究学生配属方法の検討②	文科省への変更承認申請確認状況 助産師コース履修生の単位履修状況 前学期成績評価提出状況
第6回 10月11日	休学願1件 領域別看護実習先行条件に係る学生の履修の可否 次年度 学年暦 次年度 卒業研究ガイダンス① 次年度 シラバス作成要領 次年度 非常勤講師委託	高等教育の負担軽減の具体策について 後学期未開講となる選択科目(医事法学)について スタートアップセミナー各分野の意見

第7回 11月6日	次年度 卒業研究ガイダンス② スタートアップセミナーの評価および次 年度の開催について	次年度 非常勤講師意向確認状況
第8回 12月11日	休学願1件 退学願1件 次年度 非常勤講師について 次年度 科目履修生募集要項 次年度 県内大学単位互換履修生募 集 次年度 学生便覧について① 次年度 卒業研究ガイダンス③ 次年度 卒業研究シラバス	次年度 シラバス原稿提出状況 助産師コース履修生の選抜について
第9回 1月10日	次年度 非常勤講師について 次年度 教務ガイダンス 次年度 学生便覧「卒業研究」の記載 事項修正について 次年度 一次救命法の演習について	助産師コース履修生選抜結果
第10回 2月8日	卒業予定者単位認定資料確認 次年度 時間割 次年度 スタートアップセミナー日程 教務ガイダンス分担	
第11回 3月13日	退学願1件 休学願2件 在学生単位認定資料確認	

### 3) スタートアップセミナーの実施

スタートアップセミナーのプログラム概要を表に示す。

表. 平成30年度 スタートアップセミナーの概要

回数	内容	日程
1	大学での学習方法を学ぶ(講義、屋良准教授)	4月10日(火)
2	学習の助けとなる情報の調べ方を学ぶ (講義と演習、附属図書館 司書 清水さん)	4月17日(火)
3~5	グループ単位で活動目標(テーマ)を定めて主体的に取り組む(グループ活動)	4月~6月
6	グループでの取り組みについて口述発表し共有	7月10日(火) 参加者: 教員27名 職員2名

初年次教育の試みとして3年目を迎える。グループワークのメインテーマを「たのしむ」とし、7月10日(火)報告会を開催した。グループ活動は、前年度同様、学生を14のグループに分け、各グループ1~2名の教員が関わった。終了後の学生アンケートでは、各目標の達成度について「できた」という回答が70~90%であった。

その一方でグループワーク及び報告会については、学生、教員ともに負担が大きいという意見も見られた。

#### (2) 成果

- 1) 委員会のメンバー、委員長が改変され、本委員会の所轄事項及び役割などを1つ1つ確認しながらの活動となった。

- 2) 3年目を迎えた初年次教育「スタートアップセミナー」は、学生、教員アンケートだけではなく、他大学の取り組みも含めて評価した。、今後のあり方として、科目とすることが望ましいが、カリキュラム検討と合わせて実施した方が良いため、次年度に向けては暫定的に講義・演習のみの方法を検討した。、
- 3) 大学設置基準および大学基準協会評価基準に照らして、本学シラバスの記載項目、内容の見直しを行い、記載要領を作成し、次年度シラバスに反映させた。
- 4) 平成 29 年度喫緊の課題とされていた卒業研究の指導担当講座・分野の決定方法については、学生の第 1 希望を重視し、調整を要する場合は、学生間で協議して決定する方法とした。希望者人数の調整を要したの分野は、3 分野あり、その分野の学生間で協議・調整し、第 2 希望分野を選択してもらった。
- 5) 平成 29 年度に実態調査した卒業研究の評価基準は、各講座・分野で実施方法、実施項目・内容にばらつきがあることが明らかになった。一科目の評価基準として共通したものである必要があり、作成、検討した。教授会に諮り次年度より全講座・分野で使用する予定となった。
- 6) 学習上個別支援を要する学生に関しては、学年顧問、事務局教務課、学生支援員、保健室保健師と連携、協働して情報共有し、対応した。(具体的には、未履修科目のある学生、実習科目の履修が遅れている学生など)

### 3. 今後の課題

- (1) 喫緊の課題 なし
- (2) 将来的な課題

文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が報告され、日本看護系大学協議会からもコンピテンシーに基づいた卒業時到達内容の見直しがなされ、説明会が開かれている。さらに、日本学術会議でも看護学教育の基準が提示されている。このように、学士課程教育の参照基準が新たに作成されていることを受け、これら参照基準の学習を行うことや本学の学部教育の自己点検に活用していくことが望まれる。学長方針、組織運営に従って必要な活動を実施する。

## 第 4 節 実習委員会

### 1 所掌事項

- (1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること
  - 1) 実習要項（共通部分）の作成
  - 2) 専門領域実習の学生グループ分けおよび実習ローテーション表の作成
  - 3) 実習記録等に関する調整事項
  - 4) 実習の実施に関する調整事項
  - 5) 実習の教育評価に関する事項
- (2) 実習施設との連絡調整に関すること
  - 1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート
  - 2) 実習指導者会議に関すること
  - 3) その他実習施設との連絡調整に関すること
- (3) 実習中における安全と事故防止に関すること

- 1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応
- 2) 事故発生時の対処方法
- 3) 災害発生時の対処方法
- (4) その他実習に関すること
  - 1) 実習に関わる交通機関の調整に関すること
  - 2) 実習用学生ユニフォームに関すること
  - 3) 実習期間中に使用するバス，共用の学内の部屋，携帯電話の調整

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

- 1) 第1回委員会：平成30年4月11日（水）
  - ①実習委員会の任務/スケジュール等の確認
  - ②実習ガイダンスの報告
  - ③平成30年度前期の実習オリエンテーション
  - ④実習期間中の共用部屋の使用および携帯電話の使用
  - ⑤実習要項等の作成
  - ⑥実習バスの運行
  - ⑦前年度実習FD研修会のアンケート結果
  - ⑧平成30-31年度看護専門領域実習配置表確認
- 2) 第2回委員会：平成30年5月31日（木）
  - ①今年度前期実習に関する準備状況（実習バス，実習病院ロッカー，実習要項等）
  - ②実習FD研修会の検討
  - ③平成29年度実習委員会活動報告（案）
- 3) 第3回委員会：平成30年6月26日（火）
  - ①国際看護実習に伴う「誓約書・健康管理関連書類」
  - ②各実習報告（インシデント・アクシデント含む）
  - ③各担当者からの報告（実習要項，バス他）
  - ④後期領域別実習（3年生）の実習要項
- 4) 第4回委員会：平成30年7月24日（火）
  - ①各実習報告（インシデント・アクシデント含む）
  - ②後期からの実習について，各担当者からの準備状況（実習要項，バス，携帯・共用室の使用他，平成30年度からの実習開始と終了時期）
  - ③国際看護実習の履修生選抜
  - ④実習期間中の土砂災害警報発令の確認
- 5) 第5回委員会：平成30年9月7日（金）
  - ①各実習報告（インシデント・アクシデント含む）
  - ②後期実習の準備状況（実習ローテーション，実習中の事故対応に関する規程，各担当者からの準備状況：実習要項，バス，オリエンテーション等）
  - ③伊那中央病院実習生控室，ロッカー，キーカード
  - ④実習中の学生に関する保健室との連携について
  - ⑤事故報告書の修正に伴う臨地実習中の事故対応に関する規程の一部修正
- 6) 第6回実習委員会：平成30年10月16日（火）
  - ①平成30年度後期からの実習報告（学生に関する情報交換）

- ②各担当者からの準備状況
- ③平成 31 年度実習日程案
- ④平成 31 年度実習配置表案
- ⑤土砂災害警戒情報発令時（10/1）の実習状況の振り返り
- 7) 第 7 回委員会：平成 30 年 11 月 12 日（月）
  - ①平成 30 年度後期からの実習報告（学生に関する情報交換）
  - ②各担当者からの報告
  - ③土砂災害警戒情報発令時の実習バスの運行について
- 8) 第 8 回委員会：平成 30 年 12 月 11 日（火）
  - ①各実習報告
  - ②各担当者からの報告
  - ③実習委員会 FD 研修会の企画
  - ④拡大実習委員会開催の検討
  - ⑤准看護学院との病院実習調整
- 9) 第 9 回委員会：平成 31 年 1 月 18 日（金）
  - ①次年度へ向けての各担当準備状況（実習バス，要項，オリエンテーション，ガイダンス分担，ユニフォームの注文）
  - ②H31 年度前期の実習配置一部変更（母性実習・在宅実習の一部の学生の入替）
  - ③土砂災害警戒情報発令時の実習バスの運行について
- 10) 第 10 回委員会：平成 31 年 3 月 18 日（月）
  - ①次年度へ向けての各担当準備状況
  - ②今年度の実習に関する事故分析報告
  - ③平成 30 年度実習委員会活動報告（案）
  - ④拡大実習委員会の資料確認

## （2）成果

### 1) 学生の実習に関する課題

実習に課題を抱えている学生の情報交換を行い，学生理解を深めることで，個々の学生へのより適切な実習指導に繋がった．また，実習中の学生の健康について，保健室の熊谷保健師との情報交換を密に行っていくことをあらためて周知していくことにより，保健室と連携していくことができた．

### 2) 実習 FD

平成 31 年 3 月 18 日（月），蒲郡市立ソフィア看護専門学校の学校長小林佐知子先生をお招きし「看護学生を育てるための『つながり』と『つなぐ』を考える」をテーマとした研修会を開催した．参加者は 47 名（学内 33 名，学外 14 名）で，講義と一部グループワークを加えた研修内容であった．研修会終了後のアンケートでは，90.2%の参加者が「内容を理解できた」，78%の参加者が「今後を活かせそうだ」と回答しており，有意義な研修会を開催することができた．

### 3) 実習中の教員の携帯電話

昨年度より，課題として挙がっていた携帯電話の台数を，今年度，1 台増数することができた．それによって，教員間の煩雑な携帯電話の受け渡しがなくなった．

## 3 今後の課題

### （1）喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 土砂災害警戒情報等発令時の実習バスの運行について  
発令時の実習バスの運行について、細かな決まりが明文化されていなかったため、検討中であり、次年度早めに周知できるようにする。
- (2) 将来的な課題
  - 1) 実習環境の改善  
分野教員と臨地実習指導者との学生教育に関する連携をさらに促進し、よりよい実習環境の実現を図っていく必要がある。カンファレンスの場所の確保などに関しても引き続き実習場との協議を重ね、よりよい実習環境を確保していく。
  - 2) 実習の学習成果測定方法の検討  
学位授与方針に示した学習成果を測定するための方法について：実習は、講義ともリンクしていくため、教務委員会との協議も合わせて今後、検討していく必要がある。

## 第5節 入試検討委員会

### 1 所掌事項

委員会は、次の事項について調査及び審議する。

- ①大学入試に関すること
- ②入試科目及び期日の選定に関すること
- ③合否判定の基礎資料に関すること
- ④入試の追跡調査に関すること
- ⑤入試のあり方に関すること
- ⑥その他入試に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	平成 30 年 4 月 9 日 (月)	①委員会における人事と役割分担について ②平成 31 年度における委員会の活動計画について ③各入学試験における業務の役割分担について ④平成 31 年度入学者選抜に関する要項 (案) について ⑤大学入試制度改革について
2	5 月 8 日 (月)	①平成 31 年度入学者選抜に関する要項の確認 ②県内高等学校への訪問について
3	6 月 19 日 (火)	①平成 31 年度学生募集要項 (案) について ②平成 30 年度の入試業務配置 (案) について ③平成 30 年度の県内高校訪問について ④平成 33 年度入学者選抜に係る説明会について ⑤「平成 33 年度 (2021 年度) 長野県看護大学入学者選抜についての予告 (案)」について ⑥平成 30 年度入学者 (推薦) に係る大学入試センター試験の成績について ⑦学研への入試問題の使用許可について

4	7月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度学生募集要項(推薦・社会人・一般選抜)(修正案)の検討</li> <li>②大学入学共通テストの導入に伴う平成30年度試行調査(プレテスト)について</li> <li>③平成33年度入学者選抜に係る説明会について</li> <li>④「平成33年度(2021年度)長野県看護大学入学者選抜についての予告(修正案)」について</li> <li>⑤平成31年度大学入試センター試験にかかる長野県地区連絡会議の協議内容について</li> </ul>
5	8月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「平成33年度(2021年度)長野県看護大学入学者選抜についての予告(案)」における教科・科目の確認</li> <li>②平成33年度入学者選抜に係る説明会会場について(松本会場)</li> <li>③平成30年度入試検討委員会の開催日程(後期分)</li> <li>④新しい入学者選抜における英語科目の基準点について</li> </ul>
6	9月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(第1回)の報告について</li> <li>②大学入学共通テストの導入に向けた試行調査(プレテスト)について</li> <li>③平成33年度入学者選抜に係る説明会会場について(長野会場)</li> </ul>
7	10月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成30年度11月試行調査(プレテスト)業務処理要領案について</li> <li>②平成31年度推薦・社会人入学試験業務処理要領について</li> <li>③平成31年度入学試験(推薦・社会人、前期日程、後期日程)における面接試験の共通質問項目について</li> <li>④平成33年度(2021年度)長野県看護大学入学者選抜に関する説明会について</li> </ul>
8	11月17日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度推薦・社会人入学試験の合否判定案について</li> </ul>
9	12月12日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験 試験実施・業務処理要領(案)について</li> <li>②大学入試センター試験監督者説明会について</li> <li>③平成31年度大学入試センター試験の準備日程(問題冊子等の搬入および仕分け)について</li> <li>④長野県看護大学入学者選抜試験の問題及び得点の公表について</li> </ul>
10	平成31年 2月13日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度一般入学試験(前期日程)業務処理要領について</li> <li>②平成31年度一般入学試験(後期日程)について</li> <li>③平成32年度入学者選抜の日程(案)について</li> <li>④2021年度入学者選抜の会場について</li> </ul>
11	2月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度一般選抜入学試験(前期日程)の合否判定案について</li> </ul>
12	2月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度一般選抜入学試験(後期日程)業務処理要領(案)について</li> </ul>

13	3月12日(月)	①平成31年度一般選抜入学試験(後期日程)の合否判定案について ②平成31年度一般選抜入学試験の追加合格候補者案について
----	----------	---

## (2) 成果

### 1) 入学者選抜試験の円滑な実施

特別選抜試験(推薦・社会人入学)及び一般選抜試験(前期日程・後期日程)を通して、滞りのない入学試験業務を遂行した。

### 2) 大学入試センター試験及び大学入学共通テストの導入に向けた試行調査(プレテスト)の円滑な実施

大学入試センター試験については、例年通り事前に2回の監督者説明会を開催し、滞りなく試験を実施した。また、11月の「大学入学共通テストの導入に向けた試行調査(プレテスト)」についても、監督者説明会の実施や「試験実施・業務処理要領」の作成等、事前の準備も含めて問題なく試験を実施した。

### 3) 入学志願者の確保

今年度の入学志願者は推薦入試で51名と、昨年度の58名よりは若干減少した。一般選抜前期日程においては90名で、ここ数年では平成27年度以来の少なさではあったが、志願倍率はとりあえずの目標である2倍以上を維持することができた。一般選抜後期日程の志願者についてはこのところ減少する傾向にあったが、今年度は193名と大幅に増加し開学時に次ぐ志願者数となった。このように、今年度は推薦入試及び前期日程において減少したものの、選抜試験全体では総計338名と数多くの入学志願者を確保することができた。

### 4) 大学入学者選抜方法の見直しについて

平成32年度の実施に向け、昨年度に引き続いて大学入学者選抜の見直しを行い次の成果を得た。

①大学入学者選抜の見直しに関して、平成33年度(2021年度)大学入学者選抜の予告・公表を行なった。

②新たな大学入学者選抜について、本県内及び近隣県の高等学校を対象とした説明会を、本学をはじめとして松本市と長野市の、合わせて3つの会場で実施した。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

#### 1) 高大接続システム改革会議「最終報告書」を受けての大学入学者選抜試験改革

高大接続システム改革会議の「最終報告書」を受け、本学においても大学入学者選抜の改革を行う。これにより新たに導入される入学者選抜は平成32年度から実施することが求められており、今年度の9月には具体的な選抜方法等、その概略についての予告・公表を行なった。来年度はさらに具体的な実施案を取りまとめ、教授会での協議を経て、その実施に向けた準備を始める必要がある。

#### 2) 編入学試験制度の廃止とそれに代わる入学者選抜の検討

本学では編入学試験を平成26年度まで行ってきたが、現在はその試験区分による学生の募集を停止している。これに代わる新たな選抜試験、並びに各選抜試験にかかる募集

定員数の配分見直し等についての検討を行なって、なるべく早期に編入学試験を廃止することになる。これに伴い新たに導入する選抜試験については、前述した大学入学者選抜試験改革のスケジュールに合わせての実施を目指し、9月に公表した入学者選抜実施案にすでに組み入れた。したがって、編入学試験の廃止に向けた準備と手続きを、来年度には開始する必要がある。

### 3) 入学志願者の確保について

本県の医療に貢献していく看護職者を輩出していくためには、如何にして優れた学生を多く確保するかが重要となるが、このためにはより多くの入学志願者を集め、試験の倍率を高く維持することが必要である。このところ本県はもとより全国的に看護学部の新設が相次いでおり、その傾向は今後も続くことが予想される。長期的には本学においても今後志願者数の減少が懸念されることから、対応策を引き続き検討していくべきであると考えられる。

## (2) 将来的な課題

### 1) 看護学部の新設を見据えた志願者確保のための対応策

来年度4月には、長野市内に2つの看護学部の開学が予定されている。このことは、本学の入学志願者数へも少なからぬ影響を与えるであろう。来年度からの入学試験状況を注視しつつ、志願者確保のための対応策を今後も模索していく必要がある。

### 2) 選抜試験成績と入学後の学業成績との相関（各選抜試験別の追跡調査）

現在実施している入学者選抜の適確性を評価し、その改善点等を探っていくためにも、入学後の学業成績と選抜試験成績との相関を検証すべきであると考えられる。

### 3) 面接試験における評価の点数化

本学の入学者選抜で行なわれている面接試験においては、その評価の明確な点数化が行われておらず、合否を総合的に判断するための一つとして採用されている。評価を点数化し、合否の判定に関わる総合点に加えることを考慮しても良いのではないか。

### 4) 推薦入学者の質を確保するための方策

推薦入学試験で実施されている評価は、英語試験を含む小論試験と面接試験とによる。出願の際の要件として一定以上の「評定平均値」を求めているが、志願者の有する基礎学力を測るための指標として、これらの試験科目や「評定平均値」が果たして適当であり得るのか。一般選抜の合否判定では大学入試センター試験の成績も利用しており、入学者の基礎学力はこうした客観的な指標によって評価されている。一般選抜の合格者と同程度の基礎学力を身につけた入学者を確保するためには、推薦入試において何らかの方策を新たに導入する必要があるのかもしれない。

## 第6節 図書委員会

### 1 所掌事項

- ① 図書の整備及び購入計画に関すること
- ② 図書館の運営に関すること
- ③ 学内情報処理に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

委員会で審議、報告された議題は以下のとおりである。

期日	主な審議事項	
4月23日(月)	1. 新規購入図書について 2. 図書館活動報告について 3. AV機器について	4. 受付のシステム更新について 5. 閉架庫の操作機器について
5月29日(火)	1. 図書館予算について 2. 新規購入図書について	3. 指定図書について
6月27日(水)	1. 新規購入図書について	
7月23日(月)	1. 新規購入図書について	2. 図書館AV機器について
10月9日(火)	1. 図書館AV機器について 2. 文献複写依頼について	3. 新規購入図書について
11月6日(火)	1. 購入図書希望について 2. 除籍図書について	3. e Nurse Trainer(eナーストレーナー)について
12月11日(火)	1. 新規購入図書について	2. 除籍候補からの除外について
1月15日(水)	1. メディカルオンラインによる文献のダウンロード(DL)数について 2. 購入図書希望について 3. 蔵書の除籍について	4. 2019年度図書開館案について 5. 2019年度和雑誌購入について 6. 2019年度電子ジャーナル・データベースの契約について
2月13日(水)	1. 新規購入図書について 2. 蔵書の除籍について 3. 2019年度和雑誌購入について 4. メディカルオンラインによる文献のダウンロード(DL)数について	5. 国立国会図書館のデジタル資料送信サービス(図書館送信)の申請について 6. 医学書院デジタル教科書について
3月26日(火)	1. 新規購入図書について 2. 2019年度図書館カレンダーについて	3. 国立国会図書館デジタルコレクションについて

## (2) 成果

- 1) 図書館開館計画の策定と図書館所蔵資料の廃棄・除籍など、円滑な図書館の運営を行った。
- 2) 書籍、購読雑誌及び電子ジャーナルの選定など、図書館予算の適正な執行を行った。
- 3) 国立国会図書館のデジタル資料送信サービスの申請に向け、準備に入った。
- 4) 図書館の雨漏りの対処について働きかけ、事務局で適切な対応がなされた。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

- 1) メディカルオンラインによる文献のダウンロード数が増加し、年間の契約数に加え、これまでの持ち越し分も消費し、来年度は不足する可能性がある。今年度2回にわたり、注意喚起を行ったが、今後契約数を増やすことは見込めないため、館内蔵書を確認の上、利用するよう引き続き注意喚起を行う。
- 2) 利用規定などを整備し、国立国会図書館のデジタル資料送信サービスの申請を行い、実施することで、図書館サービスの充実を図る。

- 3) 蔵書が増加し、保管の継続が困難な状況が続いている。除籍資料について検討し、状況の改善に努めたが、引き続き対応が必要である。
  - 4) 館内の AV 機器が老朽化し、稼働数が減少している。更新に向け、引き続き大学に対応を求める。
  - 5) 雨漏りは図書館にとって重大な問題である。図書館の天井の保守、点検、補修が引き続き必要であるため、大学に対応を求める。
  - 6) 閉架庫の操作機器も老朽化し、操作中に事故が発生しかねない状況であるため、大学に対応を求める。
- (2) 将来的な課題

PsycINFO の契約を 28 年度に中止し、図書館経費の大幅な削減を実現して以降は大幅な削減が難しい状況ではあるが、少額であっても図書館経費の削減に向け、今後も努力していく。限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能をいかに維持していくかについて、引き続き検討が求められる。

## 第7節 紀要委員会

### 1 所掌事項

- ① 紀要に関する事項について調査及び審議すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

委員会開催日は以下のとおりであった。

- 1) 第1回：平成30年4月23日（月）
- 2) 第2回：平成30年5月29日（火）
- 3) 第3回：平成30年6月27日（水）
- 4) 第4回：平成30年7月23日（月）
- 5) 第5回：平成30年10月9日（火）
- 6) 第6回：平成30年11月6日（火）
- 7) 第7回：平成30年12月11日（火）
- 8) 第8回：平成31年1月15日（火）
- 9) 第9回：平成31年2月13日（水）
- 10) 第10回：平成31年3月7日（木）
- 11) 第11回：平成31年3月26日（火）

委員会においては次の事項を実施した。

- ① 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリスト・原稿テンプレートの見直し
- ② 編集担当マニュアルの検討
- ③ 平成30年度紀要原稿の募集日程の決定
- ④ 平成30年度紀要編集・発行日程の調整
- ⑤ 紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ⑥ 紀要原稿の査読結果の取り纏めと修正論文等の進捗状況の確認
- ⑦ 採否決定
- ⑧ 編集作業（原稿確認、校正等）

### ⑨ 紀要の入稿・発行作業

#### (2) 成果

- 1) 長野県看護大学紀要の発行
- 2) 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリスト・原稿テンプレートの改訂。今年度は特に、利益相反についての項目を立て、執筆要領を時代の要請に合致するものとした。
- 3) 編集担当マニュアルの更新

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

紀要の編集、および、発行を円滑に行うこと。

執筆要領・チェックリストと提出ファイルの整合性が取れるように、また、投稿者にわかりやすい文言となるように、改訂を行ったが、大変細かく、かつ関連項目の多い点検作業であるため、まだ齟齬が残っている可能性がある。引き続き確認、修正を行い、適正かつわかりやすい内容へ改善して、投稿者への浸透を図り、より円滑な編集作業が進められるよう、検討を要する。

#### (2) 将来的な課題

近年、論文執筆においても、研究者倫理規範を修得し遵守することが求められるようになってきている。従来、論文執筆における倫理的な不文律は当然存在するが、編集作業時に参照できるような一定の基準の整備を視野に入れておくことが、より質の高い紀要の発行に繋がると考えられる。

## 第8節 学生委員会

### 1 所掌事項

- ①学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーションに関することを含む）
- ②学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- ③学部及び大学院の学生の健康管理、健康相談及びカウンセリングに関すること
- ④寄宿舎及び寄宿生に関すること
- ⑤奨学生に関すること
- ⑥学部及び大学院の学生の就職に関すること
- ⑦その他学部及び大学院の学生の厚生に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

開催日	活動内容
第1回 4月9日	・第107回看/第104回保/第101回助国家試験合格状況,平成30年度新入生オリ実施状況,キャリア・進路の支援体制について・平成30年度学生委員会活動の役割分担/平成30年度前期の委員会開催日の決定
第2回 5月14日	第1回進路希望調査(3年生)・平成30年度卒業予定者の進路情報・平成30年度新入生オリアンケート及び聞き取り結果(新入生・在学生・教職員)・平成29年度保健室年報・国試問題集の配布・キャリアガイダンスⅠとⅡの企画内容,講師について・学生へのボランティア保険紹介について

第3回 6月5日	・平成30年度キャリアガイダンスⅠ報告・キャリアガイダンスⅡの実施計画報告・平成30年度団体/サークル届の報告・新入生オリエンテーションの決算報告・鈴風祭の進行状況・大学構内における声かけ事案発生の報告と対応について
第4回 7月2日	平成30年度卒業予定者の就職内定状況・平成30年度長野県内市町村保健師採用合同説明会準備状況・キャリアガイダンスⅡ準備状況/キャリアガイダンスⅢの講師の提案・平成30年度鈴風祭の準備状況及び検討課題・サークルから部への昇格について・防犯に関する啓蒙ポスターの作成について
第5回 9月3日	・卒業予定者内定状況/キャリアガイダンスⅡの実施状況・鈴風祭実施計画・保健師採用合同説明会の実施計画・平成30年度第1回看護師模試自己採点結果報告・平成30年度公務員試験対策ガイダンス実施計画・国試特別補講の開講希望調査・学生生活に関する調査の実施計画・後学期学生委員会開催日程の協議
第6回 10月18日	・卒業予定者内定状況/公務員試験ガイダンスの状況・平成31年度新入生オリエンテーション実施計画・学生生活に関する調査の修正と配布・保健センターへの情報提供に関する報告・学生生活アンケートの内容検討
第7回 11月15日	・国試模試(看護師2回目,保健師1回目)の自己採点結果・新入生オリエンテーションに関する学長提案の協議・国試特別補講開講希望調査結果・学生生活に関する調査の配布日の修正
第8回 12月13日	・国試模試看護師2回目,保健師1回目の最終結果・平成31年度新入生オリエンテーションの学長提案の経緯報告・H27-30年度の新入生オリエンテーションの目的/日程/内容/開催場所の変遷に関する報告・2019年度新入生オリエンテーションの実施内容の検討・キャリアガイダンスⅢの実施予定・平成30年度国試特別補講案の日程の最終決定
第9回 1月10日	国試補講スケジュール再確認・保健師模試受験状況報告・第3回看護師模試の自己採点結果報告・国試合否対策会議のメンバー決定・平成31年度新入生オリエンテーションのプログラム・平成30年度キャリアガイダンスⅢ実施計画
第10回 2月7日	平成30年度キャリアガイダンスⅢ実施状況・平成31年度新入生オリエンテーションの教員へのプログラム概要説明について(メールによる)・平成31年度学生定期健康診断・教務/学生ガイダンスにおけるメンバーの役割確認
第11回 3月14日	H30年度アルバイト/ボランティア求人情報について・学生生活アンケート結果の検討・平成31年度新入生オリエンテーションおよび企画運営資料の最終検討・平成31年度教務ガイダンス「学生生活」担当の最終確認・ハラスメント相談員の任命に関する報告・ボンボヤージュの内容検討・平成31年度4/1~4/5ガイダンス関係・オリ準備の学生委員会の担当について

(2) 定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議・活動等

学生生活ガイダンス	平成30年4月5・6日 各学年に学生生活ガイダンスを実施 防犯講習会(1~4年生)
新入生オリエンテーション	平成30年4月4日(於:本学学内) 参加者:新入生,在学生,教職員
就職・キャリア支援関係	第6章第2節参照
市町村保健師採用合同説明会	平成30年9月8日実施
看・保 国家試験特別補講	1/22 計算問題対策:太田先生 1/22 疾病の成り立ちと回復の促進:喬先生 1/22 感染学:中畑先生 1/25 疫学・保健統計学:秋山先生 1/25 人体の構造と機能:三浦先生 1/29 薬理学:坂田先生 1/31 薬理学:坂田先生 1/31 公衆衛生看護学:御子柴先生

### (3) 成果

- ・ 学生生活ガイダンスを学年顧問と協力し、各学年に対して実施できた。
- ・ 平成 30 年度新入生オリエンテーションは学内実施に転換してから 3 年目を迎える。前学期のワーキングセミナーや防災ガイダンス等学務行事の開催のため、H30 年度新入生オリエンテーションのプログラムは 1 日間とした。学内（おもに体育館）でのプログラムを滞りなく実施し、新入生オリエンテーションの目的である新入生どうし、新入生と在学生および教職員の交流を図り、新たな学生生活への移行と適応を支援することができた。
- ・ キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲは、医療機関や自治体から管理者や本学卒業生を招いて計画通り学年毎にほぼ全員の参加を得て実施することができた。
- ・ ワーキングセミナーには新入生全員と、入学式に参加した殆どの保護者の参加があった。
- ・ 第 4 回 H30 年度市町村保健師採用合同説明会を実施できた。長野県を含めて 10 自治体、19 名の自治体職員が参加した。鈴風祭初日にもかかわらず、在学生 55 名・本学卒業生 2 名が各県市町村のブースで相談を受けた。また本学卒業予定生の保健師採用の内定にも繋がった。
- ・ 自治体のみならず、県内企業からの「産業保健師」採用枠の情報提供から、2 件の内定に繋がった。
- ・ 平成 30 年度卒業生の国家試験合否状況は、看護師 98.7%（1 名不合格）・助産師 100%、保健師 87.3%（10 名不合格）であった。看護師の 1 名の不合格については、国家試験受験勉強そのものに対するモチベーションが最後まで維持できなかったことが理由と考える。また保健師の不合格者については、当該学生が基礎学力のなさから看護師国家試験の受験対策に迫られ、最後まで保健師国家試験に取り組む余力がなかったことが原因と考える。今年度の看護師国家試験受験の取り組みとしては、必修問題に特化した看護師模試の受験対策、国家試験特別補講の日程と内容を吟味し講義の質を深めてきた。次年度も継続していきたいと考える。
- ・ 平成 30 年度卒業生の長野県内への定着率は 60.5%であり、県内保健医療福祉分野に従事する専門職を輩出する県立大学としての役割は達成することができた。
- ・ 鈴風祭や新入生オリエンテーション、国試激励会などの機会を通じて、学生自治会と連携することができた。
- ・ 進路指導室では学生が利用しやすい環境づくりを継続して配慮した結果、とくに 3 年生からの情報収集のための活用が活発となっていた。
- ・ 公務員ガイダンスは、土曜日開催にも関わらず 1, 2, 3 年生を中心として、50 名程度が参加し、盛況となった。講師（業者）からは「長野県内の保健師採用状況、本学の合否状況、採用試験実施状況」、「公務員試験対策心得」、また、4 年生で保健師内定者からのアドバイスを受けた。本学主催による公務員試験ガイダンスとして効果的であったので、今後も継続する必要がある。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・ 次年度の市町村保健師採用合同説明会は、自治体のニーズを検討しつつ継続する必要がある。また、「公務員試験ガイダンス」を継続させ、行政保健師を志望する学生に対する進路指導環境を整え、行政保健師の内定者をより多く確保する必要がある。
- ・ 新入生オリに関する学長提案を受け、「H27-30 年度の新入生オリエンテーションの目的・日程・内容・開催場所の変遷」について、H30 年 12 月 18 日の教授会で報告した。学長提案は、「学生の地域との交流の現状」を危惧して発案されたものであるため、今後地域ボランティア等に関与する学生数や活動内容についても、学生委員会として把握し調査していく

必要がある。まずは 2019 年度 4 月の新入生オリエンテーションの実施とそのアンケート調査等をしっかり行いたい。新歓行事として「教職員と在学生在がともに新入生を歓迎する」形を維持できるよう模索していきたい。

- ・看護師・保健師・助産師の 100%合格を目指して、細やかな受験指導を継続する必要がある。
- ・県外の就職活動の出足の速さに連動して、長野県内の病院（長野市民病院、伊那中央病院、昭和伊南病院、信州大学付属病院）も採用の内定が早くなりつつある。就職活動中の学生への支援等も考慮していく必要がある。

## (2) 将来的な課題

- ・中山間地域において行政保健師確保に困難な市町村に、市町村保健師採用合同説明会を通じて、保健師確保支援の場を継続して提供していくこと。
- ・卒業予定者が国家試験に 100%合格でき、長野県内への定着率がこれまで以上に高まるように、引き続き各種の支援策を工夫し実行していくこと。

## 第9節 ネットワーク推進委員会

### 1 所掌事項

#### (1) ネットワーク環境維持・管理に関すること

- ①コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
- ②ネットワークにかかわる予算策定と折衝
- ③ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
- ④ネットワークのセキュリティ対策
- ⑤ネットワーク関連機器の監視
- ⑥ネットワークに関するクレーム対応
- ⑦アウトソーシング業者の窓口
- ⑧メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
- ⑨メールアドレス管理

#### (2) 情報公開・広報に係ること

- ア 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務  
イ 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

#### (3) IT 啓発に係ること

- ア 学内教職員、また学生向けの啓発活動

#### (4) その他委員会が必要と認める事項

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

- ・委員会の開催 6 回と下記の活動を行った
- ・Google Apps の管理
- ・サイボウズの管理
- ・SSLVPN の管理
- ・人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ・ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの管理
- ・Firewall の機器管理
- ・バーチャルサーバー（インフォバレーと GMO の 2 台）の管理
- ・ドメインの管理（nagano-nurs.ac.jp および.com）
- ・大学ホームページの管理

- ・ホームページによる広報
- ・DHCP サーバー（L 2、L 3）等の機器の管理
- ・新任教職員へのメール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ・新入生等へのメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ・領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信状況確認
- ・大会義室と図書館の無線 LAN の管理
- ・大学院生室 1 から 4 の無線 LAN の管理
- ・大学院生室 1 から 4 のネットワークプリンターへの接続サポート
- ・上記以外の各種個別ガイダンスやサポート

○委員会構成の変更や離職などにもなう異動により、継続して委員会内に在籍する委員に集中して負担がかかる仕組みとなっていたが、本年度は、作業内容の見直しを行い、簡素化したことで、さらに無駄な作業を減らすことに成功した。これまで委員長が行っていたホームページのバックアップ作業を委員に移行させる等、委員会内役割配分の前進があった。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

近年、教育機関への標的型の攻撃等、インターネット関連の脅威が増大しており、管理・運用にセキュリティ対策の充実と、高度な技術が求められている。平成 30 年度の大学評価でも保守に精通した実務的処理担当者または委託先の選任が求められることとなった。まずは状況把握から進める必要があると考えている。機器によっては稼働して年数がたっており、ソフト面、ハード面での旧式化が懸念されるため、バージョンアップの必要性等についても点検の必要がある。

#### (2) 将来的な課題

グループウェアとしてサイボウズを運用しているが、レンタルサーバーでのバックアップ体制の構築が課題である。しかし実際のところ、講義室などの施設予約と、ファイル共有サービスのみが運用中であるため、オーバースペックとなっており、費用対効果の面での問題もある。また新サービスへの移行は使用者である教職員に、データ移動や操作方法の習得等の負担を生じさせることが障害となっている。慎重に情報を収集し未だ検討中である。民間の無料サービスの採用は、セキュリティ面の問題があり、保留している。

また、ホームページについても、今後、デザイン、機能面で刷新が必要と考えられる。なお、ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。しかしながら短期間の異動の多い事務職員では難しい現状が続いている。

## 第 10 節 FD・SD委員会

### 1 所掌事項

- ①教員の教育能力開発に関すること
- ②研究能力の開発に関すること
- ③カリキュラム開発への協力に関すること
- ④授業改善に関すること
- ⑤教職員の職務遂行能力の開発に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

第1回／平成30年4月19日(木)

- ① 今年度から新委員会としての活動計画および役割分担
- ② 副委員長の指名(千葉先生)

第2回／平成30年5月16日(木)

- ① 研究集会の企画
- ② 若手教員の研究支援の企画検討：若手を中心とした研究集会での発表
- ③ 教員相互による授業参観の企画検討：1コマを途中退室も可とする
- ④ 職員(特に新任)のSDについての検討

第3回／平成30年6月20日(木)

- ① 研究集会の企画：今年度から若手教員の研究交流の場を設ける
- ② FD・SD研修会の企画：若手研究支援を中心に講師選任した  
講師：高橋先生、小児；細田先生、老年
- ③ 教員相互による授業参観の企画検討
- ④ 新任職員もSDの意味から、年度初めのオリエンテーションに参加する。

第4回／平成31年1月8日(火)

- ① 研究集会の企画・運営の準備  
運営計画(案)の確認、演題登録のご案内用紙確認、演題分類、案内の発送先等の検討
- ② 教員相互による授業参観の実施状況の確認、未参加教員の対策(教授会再度案内など)
- ③ 新任教職員へのオリエンテーションの企画

第5回／平成31年2月6日(水)

- ① 研究集会の運営の準備：プログラム、発表者への案内文、アンケート等の確認等
- ② 新任教職員へのオリエンテーション
- ③ 教員相互による授業参観

第6回／平成31年3月14日(水)

- ① 研究集会の運営の準備  
・運営マニュアルの確認  
・当日の役割分担の最終確認
- ② 次年度新任教職員オリエンテーションの準備状況報告
- ③ 教員相互の授業参観の参観者報告書のまとめ、次回結果報告

### (2) 成果

平成30年度は、以下の活動に取り組んだ。

#### ① 長野県看護大学研究集会

開催日時：平成31年3月20日(水)

会場：長野県看護大学 教育研究棟

参加者：77名(学外者23名、学内教職員54名)

概要：本学の教員特別研究、県内看護職者との共同研究、県内看護職による院内研究、産学官関係者による研究や看護実践国際研究センターの各部門から、計30演題が発表された。各会場では、看護実践や教育・研究の意見交換が活発に行われ、有意義な会となった。特に今年度の研究集会から新しく取り入れた研究交流・意見交換コーナーは若手を中心に発表して、今後の若手研究者の研究にいい刺激になるかと思われる。

#### ② 平成30年度 新任教職員オリエンテーション

開催日時：平成31年4月1日（月）、2日（火）、4日（木）

会場：長野県看護大学 管理棟 小会議室2

対象者：新任教員5名，新任事務局職員5名

概要：本学の理念，カリキュラム，システム，事務書類の手続き方法等について，各担当部署より説明を実施した。新任教職員が本学の一員であることを自覚し，新生活にスムーズに適応できることを目指して円滑に実施することができた。

③ 教員相互による授業参観

概要：今年度からは，各教員，年間最低1回を目標に大学全体で取り組んで来た。結果として全教員58名中，54名が参加された。アンケート調査では役に立ったというポジティブな評価が多かったが，日程調整の困難や座席不足などの意見もあった。

④ 若手教員への研究支援

今年度からの，若手教員への研究支援を行うために，研修会や研究集会への参加を通じて，研究への意欲を喚起するように努力した。

⑤ SDの一環として新任事務局職員5名がオリエンテーションに参加したことで，今後継続していく。

### 3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

若手教員への研究支援について，前年度のアンケート調査結果を参考に，今後，上司からの研究支援につなげられるよう，研究の環境作りなどに活動していく。

(2) 将来的な課題

大学の中期構想の若手教員への研究支援を中期に及ぶ課題で，更に検討する。

## 第11節 評価委員会

### 1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下、「大学評価」という。）に関し，次の事項について審議し，取り組んでいる。

ア 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項

イ 第三者評価への対応に関する事項

ウ 自己点検・評価の結果の公表に関する事項

エ 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項

オ その他本学の大学評価に関する事項

### 2 活動と成果

(1) 委員会活動

ア 評価委員会

開催日	審議事項
4月17日	・大学評価 点検・評価報告書について ・今後の予定について ・各委員会の自己点検・評価を踏まえた課題について
10月2日	・大学評価結果（分科会案）及び質問事項への対応について ・調査日における対応について ・今後の予定について

10月23日	・大学評価 実地調査日の対応について
11月20日	・大学評価 実地調査概要について ・今後の日程、対応について
1月8日	・大学評価評価結果（委員会案）について ・今後の対応について

#### イ 内部質保証小委員会

開催日	審議事項
10月12日	・大学評価 質問事項の回答について ・今後のスケジュールについて
10月16日	・大学評価 質問事項への回答確認 ・大学評価当日の対応について

#### ウ 授業評価小委員会

開催日	審議事項
11月20日	・H29 後学期分の閲覧状況について ・学生による授業評価結果（H30 前学期分） ・教員コメントについて ・H31 年度に向けた授業評価について
平成31年 4月9日	・H30 前学期分の閲覧状況について ・学生による授業評価結果（H31 後期分） ・教員コメントについて

#### (2) 成果

- ① 大学評価受審年度にあたり、点検・評価報告書等必要な書類を完成させ、認証評価機関に提出した。実地調査では、関係教職員、学生が出席し、評価委員と真摯な議論を行った。その結果、改善課題が示されたものの基準に適合しているとの認証を得た。（2019年4月1日から2025年3月31日まで）
- ② 平成29年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として本学ホームページに報告内容を掲載した。併せて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。
- ③ 平成27年度から設置した「授業評価小委員会」を開催し、学生による授業評価結果や教員のコメント等について確認した。また、効果的な閲覧方法について検討し、ホームページへの掲載、学生掲示板に設置といった取り組みを実施した。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

大学評価で示された改善課題については、2022年7月末までに改善状況を報告する必要がある。そのため、改善課題に対応する担当組織、期限等を決め、各組織で検討を行い、その検討状況・結果を評価委員会に報告し、委員会で確認・検討した上で、教授会に報告し、改善報告書を作成する必要がある。

#### (2) 将来的な課題

大学評価でも指摘のあった、内部質保証を推進していくため組織の見直し等を行う必要がある。

## 第12節 倫理委員会

### 1 所掌事項

- ① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- ② 実施後の報告書の審査
- ③ 研究倫理教育に関すること
- ④ 公的研究費内部監査に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

- 1) 毎月第4火曜日に定例審査及び、倫理審査申請書の改訂や研究倫理教育研修の検討などの会議を計11回開催した。
- 2) 再申請1件を含む計25件の研究計画について、定例会議において審査を行った。
- 3) 「条件つき承認」となった21件の研究計画の修正再提出に対し、随時審査を行った。
- 4) 研究報告書の提出状況について、審査を受け研究実施中の40件のうち、9件の「研究実施後の報告書」が提出された。
- 5) 研究倫理教育の研修会を実施した。(平成30年9月6日(木)、15:30~17:00)
- 6) 内部監査チームによる公的研究費内部監査を実施した。(平成30年12月19日、13:30~、小会議室3、倫理委員会委員長、副委員長、教務・学生課長の3名)

#### (2) 成果

- 1) 申請の受付および審査を適正に行い、本学における教育、研究が倫理に沿って適正に遂行される条件を提供した。平成30年度の定例審査に申請された案件の審査結果を表1に示す。申請件数は25件であり、条件つき承認の21件については修正された研究計画の再提出があり、随時審査を行ない21件が承認となった。研究の取り下げは1件あり、決定延期の2件については再申請があった。

表1 倫理審査申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	備考
			承認	未確定	取下げ		
4	2	1	1			1	
5	1	0			1		
6	4	4	4				
7	1	1	1				
8	3	3	3				
9	4	4	4				
10	1	0				1	
11	1	1	1				
12	1	1	1				
1	5	5	5				
2	1	1	1				
3	1						
合計	25	21	21		1	2	

(平成30年3月14日現在)

- 2) 研究倫理教育の研修会を平成 30 年 9 月 6 日に実施した。教員と大学院生を対象に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、倫理審査研究計画書(資料 1)を作成する上で注意すべき研究倫理上の観点を解説し、周知徹底をはかった。研修会参加者は 53 名(教員 44 名+院生 9 名)あり、研修会未参加の教員へは研修会を録画した USB を用意し閲覧できるようにした。
- 3) 学内向けの倫理審査に関するサイトを見直し、審査において指摘事項が多い「依頼文」について、その作成方法を「記書き」とした「依頼文書」のテンプレートを掲載した。掲載後、10 月以後の倫理審査ではテンプレートに基づいて申請が行われるようになった。
- 4) CITI Japan による e-Learning の受講状況を調査したところ、教員 62 名中 51 名の CITI Japan プロジェクト研修修了を確認した(平成 31 年 3 月 14 日現在)。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

- 1) 教職員および大学院生を対象に、研究倫理教育研修会をどのような内容で開催すべきか検討する必要がある。倫理指針ガイダンスには「少なくとも年に 1 回程度は教育・研修を受けていくことが望ましい」とあり、科研申請においては研究機関が実施する研究倫理教育の受講が義務付けられている。したがって、倫理審査の過程で研究倫理において課題とすべきことを見極め、倫理研修のテーマに取り上げて定期的に開催する必要がある。
- 2) 倫理委員会の構成メンバーは、外部委員を除いて現在 5 名を数えるが、倫理審査の審査件数が今後増加することを考えれば、他に 2 名程度構成員を増やすことを検討する必要がある。4~5 件の申請があれば、土日返上で研究計画書に目を通さなければ追いつかない現状があるため、構成員の負担を減ずるには構成員の増員が望まれる。

#### (2) 将来的な課題

- 1) 平成 29 年度から持ち越された課題であるが、CITI Japan e-Learning の効力期限について、現時点では期限を設けていないが、再受講時期を検討する必要がある。倫理審査の申請時および審査結果に基づいて研究計画書を再提出する過程で、共同研究者の役割の不明確さが窺われる申請が一部に見られたため、今後、この傾向が続くようであれば、申請書内に共同研究者の研究上の役割を明記する方法も検討する必要がある。

## 第 13 節 ハラスメント防止委員会

### 1 所掌事項

- ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- ハラスメントの相談に関すること
- ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- その他ハラスメントの防止等に関すること

## 2 活動と成果

### 1) 委員会活動

- (1) 第1回ハラスメント防止委員会：平成30年4月23日（月）
  - ① 新規採用者及び学生へのガイダンスの実施報告
  - ② 新任相談員（高橋講師、中村支援員）の教育について（DVD視聴）
  - ③ 前委員会からの引継ぎ事情の報告
  - ④ 今年度の委員会活動方針についてフリーディスカッション（潜在的なハラスメントに対する対策として、研修会、懇親会、コミュニケーション月間などの活動内容の再検討）
- (2) 第2回ハラスメント防止委員会：平成30年5月22日（火）
  - ① 熊谷保健師による保健室での心の相談状況に関する報告
  - ② 今後の活動方針についてのフリーディスカッション
- (3) 第3回ハラスメント防止委員会：平成30年6月26日（火）
  - ① ハラスメント防止研修会について、コンフリクト・マネジメントにおけるメディアーションをテーマにした。時期は講師と打ち合わせをした後に決める。
  - ② 教職員懇親会は12月に忘年会として行うことを決めた。
  - ③ ハラスメント防止のためのリーフレット用の標語とイラストを7-9月に募集する。鈴風祭で表彰式を行うことを決めた。
  - ④ 表彰式の後で、学生、教職員を対象とした対話集会（おしゃべりカフェ）を行うことを決めた。
- (4) 第4回ハラスメント防止委員会：平成30年7月19日（木）
  - ① ハラスメント防止の標語・イラストに関し、鈴風祭での表彰式の詳細を決定した。
  - ② 鈴風祭での対話集会（おしゃべりカフェ）の詳細を決定した。
  - ③ 忘年会の打ち合わせ（12月18日生協食堂で行う）。
- (5) 第5回ハラスメント防止委員会：平成30年9月6日（木）
  - ① 標語・イラストの入賞作品を決定した。
  - ② 鈴風祭での授賞式・おしゃべりカフェの打ち合わせ
- (6) 第6回ハラスメント防止委員会：平成30年10月25日（木）
  - ① 授賞式・おしゃべりカフェのアンケート報告
  - ② 忘年会実施の詳細について決定。
  - ③ ハラスメント研修会を平成31年2月22日に、パワーハラスメントをテーマに、鈴木有香講師を招いて行うことに決めた。
- (7) 第7回ハラスメント防止委員会：平成31年1月23日（水）
  - ① 松本委員による忘年会収支報告
  - ② 研修会の計画。研修会および、本年度委員会の活動に関するアンケートの実施
- (8) 第8回ハラスメント防止委員会：平成31年3月14日（木）
  - ① 研修会および、本年度委員会の活動に関するアンケートの結果報告と検討
  - ② 新年度ガイダンス・オリエンテーションの割り当て
- (9) そのほか 平成30年度 相談員との連絡を行った。

### 2) 成果

- (1) 新規採用者及び学生へのガイダンス  
平成30年度の新規採用教職員及び新入生を含めた学生を対象とし、年度始めのガイダンスにおいて、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。何か問題が生じたときの相談窓口が複数あることを説明できた。
- (2) 保健師による保健室での心の相談状況に関する報告

現在の学生の心の状態や生活状態を知るために、5月に熊谷保健師に現状報告をしていただいた。1年間の活動内容を検討するための参考となった。

- (3) ハラスメントの防止のためのリーフレット等に用いる標語・イラストの募集  
教職員や学生からリーフレットに使用する標語とイラストを募集し、19件の応募があり、6件に対して鈴風祭で授賞式を行った。啓蒙活動として一定の効果が得られたと捉えている。

- (4) おしゃべりカフェの実施

鈴風祭での標語・イラストの授賞式の後、学生と教職員でハラスメントに関するDVDを観て、自由に対話するおしゃべりカフェを行った。アンケートでは「多方面からの意見があつて、新たな気づきがあつた」などの意見があり、参加者間でハラスメントに関する情報交換が出来た。

- (5) 忘年会の実施

教員のみでなく職員の方も含めて忘年会を実施し、よりいっそうの親睦を図った。今年は教職員の参加をしやすいするために、学内生協食堂で行った。この催しには32名が参加し、相互の理解を深めるための一助になった。

- (6) ハラスメント防止研修会の実施

教職員へ、パワーハラスメントをテーマとした研修会を2月22日に実施した。講師はハラスメント問題の専門家である鈴木有香講師。参加者46名。パワーハラスメントとは何か、どのように避けるのかを、講師の実体験を交えながら、講義した。アンケート結果では、次年度も同じ先生が良いなど、おおむね好評であった。

- (7) 委員会の本年度活動に関するアンケートの実施

本年度の委員会活動に関して、教職員の意見を頂いた。おしゃべりカフェに関しては、鈴風祭だと教職員は参加しにくいという意見があつた。懇親会に関しては、行内ではなく学外が良い、イベント等があつても良いなどの意見があつた。アンケートは今後も機会を見つけて行い、教職員や学生の意見を常に確認する方が良いと思われる。

- 3) ハラスメント事案の対応 なし

※ハラスメント防止委員会に報告された事案は無かつたが、他のルートからの情報でハラスメント事案が複数存在したことが分つた。委員会としての機能が果たせていないことは大きな反省点である。この件により、ハラスメント防止委員会や相談員が、学生・教職員にとって安心して相談できる存在であることを、周知する必要がある。

### 3 今後の課題

- 1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の更なる整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、マニュアルでは対応できない場合の対策を準備する必要がある。

ハラスメント防止に関し、教職員および学生の意識を更に高めていくためにどうすべきか。従来の研修会や懇親会等だけではなく、おしゃべりカフェや委員会活動への直接的なアンケートなど、新しい方策を試行錯誤しながら検討していく必要がある。

- 2) 将来的な課題

ハラスメント防止のための効果的な活動内容を再検討する。ここ数年、ハラスメント相談員への相談件数が数件程度の状況が続いている。しかしながら、表面化しにくい潜在的なハラスメント、あるいは本人に自覚のないハラスメントがあることが疑われる。そのことを問題意識として、教職員・学生の間で共有し合い、相互に理解を深め合うためにどうすべきか、そして委員会とし

ては、問題を予防するために、あるいは問題が起こった場合にどのように効果的に対応するべきか、具体的な方法論を検討しなければならない。

## 第14節 動物実験委員会

### 1 所掌事項

- ① 動物実験計画書の申請及び審査に関すること
- ② 動物実験の適正な実施及び結果に関すること
- ③ 動物実験の施設及び飼養に関すること
- ④ 実験動物慰霊祭の実施に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

- 1) 動物実験に係る教育訓練：平成30年4月25日  
信州大学基盤研究支援センターの松本清司先生を講師としてお招きし行われた（参加者10名）。
- 2) 第1回動物実験委員会：平成30年5月29日
  - ① 動物実験に係る教育訓練についての打ち合わせを行った。講師の選定および当日の受講記録と資料の提出が喬委員に依頼された。
  - ② 新年度にともなう「研究倫理」（自己点検・評価報告書等）と「サイボウズ」（議事録等）の更新を、秋山副委員長を中心に行うことを確認した。
  - ③ 第6回動物慰霊祭の実施について話し合い、当日の業務を確認した。また、委員長は学長に日程を照会することとした。
  - ④ 動物実験計画書の審査（4件）を行った。
- 3) 動物実験に係る教育訓練：平成30年8月16日  
喬委員により3名の客員研究生に対して行われた。
- 4) 第2回動物実験委員会：平成30年8月30日
  - ① 動物慰霊祭について、役割分担など最終確認を行った。
  - ② 外部審査で指摘された「苦痛度の集計」「動物実験室環境記録」の作成を年度中に行うことを確認した。
  - ③ 動物実験計画書の審査（1件）を行った。
  - ④ 動物実験計画書の審査結果に関する連絡は別紙を用いて行われるため、動物実験計画書記入欄および学長記入欄は削除されることを確認した。
- 5) 第6回実験動物慰霊祭：平成30年11月22日  
学生89人、教職員10名が参加した。
- 6) 第3回動物実験委員会：平成31年1月18日
  - ① 動物実験計画書の審査（2件）
  - ② 当該年度における最後の委員会で提出すべき書類について確認を行った。
- 7) 第4回動物実験委員会：平成31年3月19日  
年度末に係る書類（苦痛度の集計表、動物実験室環境記録、飼養実験動物数・動物実験等の成果についての報告書、実験動物の飼養及び保管に関する記録、動物実験報告書、動物実験の自己点検票、動物実験に関する自己点検評価報告書、動物実験委員会活動報告など）の確認を行った。

#### (2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会による承認
- 2) 動物実験に係る教育訓練の実施

- 3) 実験動物慰霊祭の実施
- 4) 動物実験に関する環境の整備及び各種情報のホームページでの公表

### 3 今後の課題

- (1) 喫緊の課題（懸案事項）
- (2) 将来的な課題  
動物実験の成果をさらに公表していくように努める。

## 第15節 感染症対策委員会

### 1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

##### 1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年月	内 容
30. 4	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
30. 5	国内での感染情報に基づき、麻疹について啓発
30. 5	第1回感染症委員会にて、B型肝炎の予防接種の手順変更について検討 認定教育課程受講者の対応について検討
30. 7	夏休みを前に、海外感染症（ジカ熱、デング熱）について啓発 実習にむけて、風疹、麻疹、B型肝炎などの抗体価陰性者への注意喚起
30. 9	結核週間に合わせ、啓発
30.10	インフルエンザ予防策（予防接種）について情報提供（掲示）
30.11	インフルエンザ予防対策指導（掲示）
30.12	世界エイズデーにあわせエイズ・性感染症啓発（掲示）
30.12 ～31. 2	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（掲示とメールにて実施）

##### 2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年月	内 容
30. 4	インフルエンザの学生3名に保健指導
30. 6	感染性胃腸炎を疑う学生2名に保健指導
30. 7	溶連菌感染症の学生1名に保健指導
30.10	インフルエンザの学生1名に保健指導
30.11	感染性胃腸炎を疑う学生1名に保健指導
30.12	感染性胃腸炎を疑う学生1名に保健指導
31. 1	インフルエンザの学生7名に保健指導
31. 2	インフルエンザの学生1名に保健指導
【出席停止件数】感染性胃腸炎疑い：4件、インフルエンザ：12件、溶連菌感染症：1件	

## (2) 成果

- 1) インフルエンザ・感染性胃腸炎疑いと診断された学生に対し、保健指導を行った。特に感染性胃腸炎疑いの学生には、具体的な助言を行った。また、学内で嘔吐が発生した事例では、消毒対応を実施し、その結果、新たな感染の拡大はなかった。
- 2) 新年度入学者に対する小児ウイルス感染症の入学前の抗体価検査勧奨が3年目となった。新しい進め方が、学内全体に定着してきた。
- 3) B型肝炎の予防接種について、医療者のためのガイドラインや、実習病院の手順が変更されており、学内でも、今年度から変更した手順で実施している。

## 3 今後の課題

- ・学部学生及び大学院生・教職員に対して、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知徹底していく。
- ・B型肝炎予防接種の手順を変更したが、過渡期なので、経過を確認し、手順を見直していく。
- ・新興感染症等が出現した時には、長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継続計画の応用や新たな対応の検討が必要である。

## 第16節 コンソーシアム信州運営

### 1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「高等教育コンソーシアム信州（事務局信州大学）に加盟している本学が、加盟大学としてコンソーシアムが連携して行う企画・活動に参加し、それらが円滑に行われる様、運営にも携わること」とし、事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目を挙げる。

- (1) 高等教育コンソーシアム信州の教育部会に関すること
  - ア 教育部会への出席と、本学窓口としての協議
  - イ 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
  - ウ 遠隔授業等の発信及び受信（受講）に関する事項
  - エ 10大学合同キャンプの運営・学生勧誘に関する事項
  - オ 長野県内大学単位互換制度の本学窓口としての事項
  - カ その他、高等教育コンソーシアム信州の活動に関すること
- (2) 高等教育コンソーシアム信州の学生支援部会に関すること
  - ア 学生支援部会への出席を本学学生委員会に要請
- (3) 高等教育コンソーシアム信州の推進チーム会議に関すること
  - ア 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
- (4) その他必要と認める事項

### 2 活動と成果

#### 1) 推進チーム会議および担当者会議

- (1) 第1回：平成30年4月24日（火）13：30～14：30

推進チーム会議後の担当者会議の主な内容

- ・ 担当者会議および記録に関する申し合わせ
- ・ 推進チーム会議出席者の確認
- ・ 県内10大学合同学生キャンプの学内準備状況と募集方法
- ・ 平成30年度教員免許更新講習担当者・予定日時等の確認

- 今年度の遠隔授業履修状況の確認、機器不具合の調整
- (2) 第2回：平成30年6月19日（火）10：40～11：30 推進チーム会議のみ出席
- (3) 第3回：平成30年10月16日（火）10：40～11：45 推進チーム会議のみ出席
- (4) 第4回：平成30年12月18日（火）中止
- (5) 第5回：平成31年2月19日（火）10：40～
  - 平成31年度県内10大学合同学生キャンプの学内準備
  - 平成31年度教員免許更新講習担当者・予定日時等の確認
  - 平成31年度遠隔授業および高等教育コンソーシアム信州ガイダンス実施案
  - 平成31年度遠隔授業に向けた機器接続試験の申し合わせ

## 2) 成果

- (1) 本学から発信される遠隔授業「国際看護学Ⅰ」（前期科目：宮越准教授）を今年も実施し、合計19名（本学13名、信州大学6名）の履修生を得た。
- (2) コンソーシアム信州主催の県内10大学合同学生キャンプに、今年も本学の学生8名（2年生7名、3年生1名）が参加し、3年生は準備段階から学生会議での運営を担当してきた。
- (3) 本学内での教員免許更新講習会が今年も開催され、8月1日（屋良准教授）、8月6日（喬教授）、8月9日（御子柴講師）の3つの講座を開設、それぞれ38名、25名、27名、計90名の小、中、高等学校の教員が受講された。
- (4) 教務ガイダンスで全学生への遠隔授業を案内し、前期開講科目で2名の履修生があった。
- (5) コンソーシアム主催の学生共同募集PR事業を行った。

## 3 今後の課題

### 1) 喫緊の課題（懸案事項）

遠隔授業については、授業開講希望者に方法や利点等の十分な理解のもとに、効果的な授業方法の一つとして選択できるようにする。その際、他大学学生の履修生をより多く得られるようにするためには、双方の時間割等の調整を要する。また、本学学生の履修においては開講年度当初に案内するとともに、個別の相談にも対応できるようにするようして、受講者の獲得に努める必要がある。

### 2) 将来的な課題

高等教育コンソーシアム信州が組織化以降、遠隔授業は平成31年度で10年目となるが、コンソーシアム加盟大学は増加した一方、遠隔授業の開講科目は減少し、履修生の獲得も伸び悩んでいる。一方、インターンシップ成果報告会や10大学合同学生キャンプなど、実際の参加型の企画は勧誘方法次第で学生の関心を引き起こしているため、コンソーシアムの利点を活かした連携活動が存続の鍵となる。

## 第17節 防災委員会

### 1. 所掌事項

「本学防災委員会規程：平成26年4月1日」に基づき、次の事項について調査および審議する。

- 1) 学生及び教職員の防災及び減災意識の向上に関すること
- 2) 災害発生時の対応策に関すること
- 3) 大学施設の防災及び減災に関すること

- 4) 地域との防災及び減災の連携等に関すること
- 5) その他防災及び減災に関すること

## 2. 活動と成果

- 1) 平成 30 年度の活動目標と実施状況
  - (1) 防災/減災上の問題に対する経過把握と実施可能な対策、喫緊の事項への対応
  - (2) 関係機関と連携した生協施設の防災対策のモニタリングと強化
  - (3) 平日・平常時間以外の発災に関わる学内連絡体制の確認および周知
  - (4) 駒ヶ根市との包括的連携に基づいた防災・減災対策、発災時の初動システム、避難所対応
- 2) 「防災マニュアル」および「防災ハンドブック」の配布および周知、防災訓練での運用・評価
- 3) シナリオとアクション・カードを用いた防災訓練の実施・評価
  - (1) 情報伝達訓練：
    - ・実習期間を想定した安否確認のシミュレーション
    - ・住民避難参集を想定した住民対応のシミュレーション
  - (2) 消防避難訓練
    - ・可能な限りの全学的参加と学生の適切な防災・減災行動の徹底
    - ・安否確認の報告および確認の徹底
    - ・防災備品、防災装備等の運用理解の周知（無線機、防災保管庫）
  - (3) 防災・減災の企画・実施・評価（普通救命講習Ⅱ、三角巾法、固定法、搬送法の講習会）
- 4) ワーキング・チームと活動内容  
所掌事項に沿って、昨年度から引き続き次のとおりワーキング・チームを編成し、活動した。

No.	項目	活動内容
1	組織・情報伝達	1) 各防災組織・緊急連絡体制図の更新、見直し 2) 自衛消防隊班員の更新と班長顔合わせ 3) 初動体制の確認と周知徹底
2	防災マニュアル、アクション・カード	1) 「防災マニュアル」の点検・修正 2) アクション・カードとマニュアルの整備・徹底 3) 防災ハンドブックの検討・作成
3	防災訓練	防災訓練の企画・周知・実施・評価
4	防災備品の点検整備・文書管理	1) 防災備品庫の点検リストの作成、点検の定期化、欠品の補充 2) 自衛消防隊委員配布品の整備 3) 無線機の使い方の講習・訓練時の導入 4) 委員会で扱う資料の整理・文書管理 5) 非常時持ち出し袋の新設・点検の定期化 6) 全課程学生及び学内関係者全ての名簿整備と見直し、更新
5	地域との連携	1) 駒ヶ根市との包括連携協定内容の確認と周知 2) 発災時の初動、備蓄等、必要な対応の確認とシステム整備 3) 地域防災訓練の企画及び実施後の評価 ・上穂地区 5 町内防災訓練（平成 30 年 8 月 26 日（日）） 4) 大学近隣地区町内会との避難所活用に関する検討
6	防災・減災教育	1) 全学生・新任教職員への防災ガイダンス実施 2) 「学生便覧」の見直しと修正

		3) 「防災ハンドブック」の配付と見直し 4) 教職員への防災訓練関連企画（救急蘇生法、3T's、日赤救急法、搬送法等）の周知及び勧誘 5) 関係機関との連携及び研修機会等への参加 ・駒ヶ根日本赤十字奉仕団の定例会議、定期訓練への参加
--	--	--

5) 今年度の委員会の開催状況と内容

回数	期日	主な審議事項
第1回	4月17日(火)	1) 平成30年度委員会活動案・任務分担表の検討 2) 平成30年度自衛消防隊組織・任務分担表の検討 3) 防災ガイダンス実施後の振り返り 4) 学内防災訓練および地域防災訓練への協力体制の検討
第2回	6月6日(火)	1) 第1回安否確認テスト結果の共有と対策の検討 2) 安否確認名簿案及び防災備品等点検表案の検討 3) 平成30年度版防災マニュアルの配付・配信、運用方法の検討 4) 防災訓練の内容検討
第3回	7月25日(水)	1) 7月6日(金)「駒ヶ根市土砂災害警戒警報発令」に伴う【休講】対応の振り返り 2) 防災訓練の内容検討 3) 「町4区第4町内及び上穂町区第5町内合同防災訓練」実施案の検討
第4回	9月20日(木)	1) 「町4区第4町内及び上穂町区第5町内合同防災訓練」の振り返り 2) 「情報伝達訓練」振り返り 3) 「消防避難訓練」ガイダンス及び訓練内容の検討
第5回	11月6日(木)	1) 「消防避難訓練」ガイダンスの実施状況と準備検討 2) 防災/減災展示企画の検討 3) 平成31年度防災訓練時間割配置の検討
第6回	12月12日(水)	1) 平成30年度防災訓練の振り返りおよび訓練後の喫緊の対処事項 2) 平成30年度予算執行状況および平成31年度委員会予算案
第7回	2月13日(水)	1) 平成31年度防災ガイダンス実施案の検討 2) 平成30年度「自己点検・評価報告書」防災委員会報告案の検討 3) 平成31年度「本学自衛消防隊組織構成表」(案)の検討 4) エア・ストレッチャーの運用及びビブス類の定位置に関する検討 5) 平成31年度防災委員会 次年度準備(案)の検討 6) 平成31年度「学生便覧」防災関連ページの修正案の検討

6) 防災訓練の実施・評価

【情報伝達訓練】9月6日(木) 10:30~12:10 参加者:53名

【消防避難訓練】11月16日(金) 13:30~14:30 参加者:252名

【安否確認訓練】

第1回:5月18日(金) 確認割合 74.8%

第2回:9月6日(木) 確認割合 67.5% \*夏季休暇期間につき、学生は任意とした

第3回:11月21日(水) 確認割合 63%

\*関連企画「防災・減災企画展示」11月13日(火)~15日(木)3日間 於:演習室3

内容:防災/減災の啓発資料、発電機、簡易トイレ、携帯トイレ、ダンボールベッド、日赤安眠セット、弾性ストッキング試着、非常時持ち出し袋、エア・ストレッチャー 等

#### (1) 情報伝達訓練（地震想定）の振り返り

例年並みの参加者数であったが、臨時班員を満たすにはより参加率の向上が必要である。7月豪雨の経験に基づき、休講の周知と内容の検討は模擬体験できた。本部における情報整理一覧表4種類を試用し、情報の集約や可視化も試みることができた。実習先との連絡では壁面の記録媒体で各実習の具体的な状況の把握、実習先教員との積極的な模擬連絡ができた。今後は実習期間の訓練を行い実際の実習先の教員との情報伝達訓練ができるとよい。また今後は本部の設置からの訓練開始、設置箇所を変更するなどの訓練内容の変更も必要である。参集した地域住民や余震などの突発的な事例に対応する余裕もより確保できたので今後は学長、学部長、委員長等の本部員欠員を代行する訓練も必要である。

#### (2) 消防避難訓練（火災想定）の振り返り

新年度の班員交代者が多かった班を中心に、演習や打ち合わせなどの事前準備を支援した。一方、訓練が学生の目で行う教育の意味を兼ね備える上では、各班員が各用務により習熟できるための支援が必要である。今年度重点化した「安否確認」とその報告の受け渡し場面や本部運営のフォローにおいても、支援の人員がより多く必要であった。限られた時間内で自衛消防隊の訓練と学生への教育機会をどのように充実させるか、目的と内容、時間配分等の見直しが必要になる。2年目となった学生のShakeOut訓練は、「お・は・し・も」の原則を事前説明することで、昨年より静然と実施でき、各自がより安全な経路を考えて避難する設定に問題はなかった。自衛消防隊をも含めて、実際の発災時にどの程度有効な活動や安全確保行動できるかは、今後検証が必要な課題である。

### 7) 委員会活動の成果

- (1) 7月豪雨の際の休講判断と実習対応に関する一連の経過を記録し、それを元に「非常召集、警戒宣言発令伝達の緊急連絡体制」を見直し、時間外の連絡体制がより綿密に図れる連絡網に改善した。
- (2) 災害時の情報集約媒体として、施設被害・ライフライン状況・人員被害状況・職員配置等の一覧表合計4表の様式を決定、防災訓練で試行し運用方法と様式を一部改善した。
- (3) 情報伝達訓練を振り返り、事務局内「非常持出袋」の内容の刷新、全学的周知を図った。また安否確認名簿を見直し3回分の点呼欄、受け渡し者の自署名欄を新設、確認の徹底を図れるようにした。
- (4) 防災訓練時にエア・ストレッチャーの導入を試み、有用性の確認後、学内定位置に設置した。
- (5) 自衛消防隊用ビブスおよびヘルメットを定位置に保管・明示し緊急時に取り出せるようにした。
- (6) 地域防災連携会議（委員会が協力）を通して、昨年度の町4区第4町内による体育館視察に引き続き、今年度は避難所を共同利用する上穂町区第5町内を加え2町内合同防災訓練（8月26日（日））を実施した（参加者97名）。本学看護実践国際研究センター「災害看護支援プロジェクト」と共催で、避難所開設時の初動に不可欠な生活資材の取り扱いや深部静脈血栓症等をはじめとした「災害関連死」の予防対策についての演習、実施中の意見交換とアンケートを実施した。市や本学、各町内の防災備品を持ち寄り体験型にしたことで「自分たちが使えるようにならなければ」という当事者意識の喚起に繋がった。今年度、上穂町町内の自主防災会議に第4町内会が参加、共同して防災備品の申請につなげるなどの2町内の歩み寄りが始まっている。

### 3. 今後の課題

喫緊の課題：

- (1) 安否確認の訓練回数を増やしたが、常に一定数の未確認者が生じている。教職員・学生に事前に告知せず実施した第3回の結果は現状に一番近い割合と分析され、これを有事の際の参考とし、毎回未確認となる「3割強」にどう対応するか、より実地的な対策を考える上での参考とする。
- (2) 温暖化の傾向および自治体のより早い減災対策に伴い、土砂災害警戒警報等の発令機会が増多傾向にある。豪雨等による休講が予測される都度、改善した「非常召集、警戒宣言発令伝達の緊急連絡体制」の検証を行い、引き続き学生および教職員のより安全な連絡体制の充実に努める必要がある。
- (3) 大災害の発生時の学生・教職員の安否確認方法について、従来のメールシステムおよび災害用伝言ダイヤルの利用以外に、情報通信網の断絶を想定したより確実な代替案を引き続き検討する。

将来的な課題：

- (1) 本学の体育館の避難所等としての活用・運用に関する検討が始まったところであり、今後は平日・平常時間以外の発災に関わる学内連絡体制、住民対応の初動について具体的に検討する。要検討事項としては、次の点があげられる。
  - ①発災直後の体育館開放の基準・開錠方法（鍵の管理含む）
  - ②大学教職員の動き方、配置
  - ③市役所等との連絡体制の構築
  - ④グラウンドから体育館への動線（未舗装、階段など）
  - ⑤グラウンドでの車輛の駐車位置
  - ⑥受付、名簿作成、チェック体制、各種トリアージ体制
  - ⑦即座に必要なトイレ対策（収容人数に対する絶対的不足、未洋式化、備蓄なし）
  - ⑧実際の収容可能人数の算定と各人の必要スペース、配置図の策定
  - ⑨収容想定人数に対する備品、物資の検討、公助として提供される物と自主的な備えの想定
- (2) 学生の防災・減災に関する企画をサークルや行事に組み入れ、実施には地域との連携も試みる。
- (3) 定例化した防災訓練をより実際に運用でき、教育機会としても意義のある内容に刷新する。

## 第18節 安全衛生委員会

### 1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関すること
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関すること
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

年月日	内容
30.6	ストレスチェック実施
30.7	労働安全衛生月間を周知
30.8	ストレスチェック結果を配付
30.10	結果説明会に参加

30. 11	全教職員に「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック表」を配信、心身のセルフケアについて啓発
30. 11. 15	職員安全衛生管理規程に基づく第1回安全衛生委員会を開催。学内のストレスチェック結果について委員会内で共有し、職場環境改善策を検討。その他、安全衛生管理体制や教職員の健康管理状況、ACEプロジェクト、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討。 産業医による職場巡視を実施。職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施。
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発
随時	定期健康診断や人間ドック、各種検診、ACEプロジェクト・ストレッチについて周知、啓発、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施。

## (2) 成果

3回目となるストレスチェックが実施され、その結果を踏まえて委員会を開催し、学内の状況を確認、問題点を共有し、今後の対策等を検討する事ができた。

会議には、2年目となるが、産業医に参加していただき、助言を頂く事ができた。また、産業医による職場巡視を実施できた。

## 3 今後の課題

- ・健康障害の防止や健康の保持増進に係ることについて、教職員の啓発や受診勧奨等を継続強化していく。
- ・ストレスチェックの結果、県に比べ全体的に改善が必要な為、挨拶や声掛け等意識して積極的に実施し、必要時に上司に相談や支援を求めやすい環境を整えていく。

## 第19節 研究科委員会教務部会

### 1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

1. 看護学研究科カリキュラムに関すること
  - 1) カリキュラムの検討と作成
  - 2) 非常勤講師について（依頼と決定）
2. 看護学研究科単位取得に関すること
  - 1) 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
3. 看護学研究科科目履修に関すること
  - 1) 大学院科目履修の決定
  - 2) 科目履修生の選考
4. 看護学研究科院生の休学，退学，長期履修などに関すること
  - 1) 休学・退学願，長期履修願，奨学金返済免除者の審査
  - 2) 長期履修希望者の選考
5. 看護学研究科修士論文，博士論文の審査及び学位授与に関すること
  - 1) 修士論文審査基準と審査方法の見直し
  - 2) 修士論文発表会の進行

- 3) 博士論文審査委員選出
- 4) 博士論文審査基準の見直し
- 5) 博士論文発表会進行
- 6) 博士論文審査結果公表の手続き等
6. 上記1～5に関わる学則の検討
7. 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること
  - 1) 年1回の大学院生と教務部会委員との話し合いの開催

## 2 活動と成果

### (1) 部会活動

#### 第1回教務部会（4月17日）

- ① 副部長を選任した。
- ② 休学願2名について審議した。
- ③ 博士論文副指導教員について審議した。
- ④ 博士論文研究計画（前期）審査体制（案）及び発表会（案）について審議した。
- ⑤ 平成30年度論文指導に係る学外指導教員願について審議した。
- ⑥ 教務部会の年間計画について確認した。

#### 第2回教務部会（5月11日）

- ① H30 修士論文研究テーマ(仮)・論文指導及び審査委員(案)について審議した。
- ② 大学院授業科目の履修登録状況(修士・博士)について確認した。

#### 第3回教務部会（6月15日）

- ① 論文博士について審議した。

#### 第4回教務部会（7月11日）

- ① 復学願1名について審議した。
- ② 論文博士について審議した。
- ③ 大学院生との話し合いについて確認した。

#### 第5回教務部会（9月12日）

- ① 大学院生との話し合い結果について確認した。
- ② 休学願1名について審議した。
- ③ 論文博士について審議した。

#### 第6回教務部会（9月28日）

- ① 休学願1名について審議した
- ② 平成30年度後期 博士論文研究計画審査体制（案）について審議した。

#### 第7回教務部会（10月12日）

- ① 長期履修希望状況及び長期履修の申請条件（博士前期課程2名）を確認し、承認した。
- ② 大学院シラバス・学生便覧作成スケジュールについて確認した。
- ③ 論文博士に関する規程の今後の日程について確認した。

#### 第8回教務部会（11月20日）

- ① 論文博士の規程について審議した。

#### 第9回教務部会（12月4日）

- ① 休学願2名について審議した。
- ② 平成30年度修士論文審査体制（案）を審議した。
- ③ 平成31年度（2019年度）大学院学年歴について審議した。

#### 第10回教務部会（1月23日）

- ① 長期履修希望状況及び長期履修の申請条件（博士前期課程 3 名・博士後期課程 3 名）を確認し、承認した。
- ② 看護理論について実施方法を審議した。
- ③ 2019 年度科目履修生募集要項（案）を審議した。
- ④ 2019 年度研究生募集要項（案）を審議した。
- ⑤ 2019 年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項（案）を審議した。
- ⑥ 論文博士について審議した。

#### 第 11 回教務部会（2 月 7 日）

- ① 休学願 2 名について審議した。
- ② 長期履修在学期間の短縮について審議した。
- ③ 修士修了予定者の単位取得状況について確認した。
- ④ 修士論文発表会について確認した。
- ⑤ 看護理論のシラバスについて審議した。
- ⑥ 2019 年度大学院非常勤講師について確認した。
- ⑦ 2019 年度大学院時間割について確認した
- ⑧ 2019 年度教務ガイダンス日程について確認した。
- ⑨ 看護海外研修について確認した。

#### 第 12 回教務部会（3 月 14 日）

- ① 退学願（博士後期課程 1 名）について審議した。
- ② 休学願 2 名について審議した。
- ③ 博士前期課程の修得単位の認定について審議した。
- ④ 博士後期課程の修得単位の認定について審議した。
- ⑤ 平成 31 年度研究生の選考について審議した。
- ⑥ 平成 31 年度科目等履修生の選考について審議した。
- ⑦ 平成 30 年度教員退職等に伴う指導教員について確認した。
- ⑧ 平成 31 年度大学院生名簿及び研究室名簿について確認した
- ⑨ ティーチングアシスタントの実施状況について確認した。
- ⑩ 平成 30 年度自己点検・評価報告書（教務部会案）について審議した。

#### (2) 成果

- ① 学位規程に規定の論文博士について、過去に検討はされたものの、未整備であったため、審議を重ね、平成 31 年度（2019 年度）から施行することとなった。

### 3 今後の課題

#### (1) 大学評価において指摘の受けた以下について対応する必要がある

- ① 看護学研究科の教育上の目的を明確にすること
  - ② 学習成果の把握及び評価のための指標・方法について十分でないため、検討し適切に把握及び評価すること
  - ③ 教育課程の編成・実施方針に教育課程の編制及び実施に関する基本的な考え方を示すこと
- (2) 論文博士規程の整備の過程で、確認した学位規程等の整備を行う必要がある。

## 第 20 節 研究科委員会入試部会

### 1 所掌事項

- (1) 入試科目及び期日の選定に関すること
- (2) 合否判定の基礎資料に関すること

- (3) 入試の追跡調査に関すること
- (4) 入試のあり方に関すること
- (5) その他 入試に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 部会活動

	日時	活動内容
第1回	H30年4月24日(火) 13:00～14:30	①入試部会の規程及び部会員の役割の確認 ②今年度の入試日程の確認(1次試験10/20、2次試験1/26) ③平成31年度学生募集要項の検討 ④今年度の活動計画・課題の確認 ⑤大学院の定員数および受験者確保対策の検討 ⑥その他、学長提案でオブザーバーとして安田研究科長の出席を承認した。
第2回	H30年5月8日(火) 13:00～14:05	①平成31年度学生募集要項の確認 ②大学院パンフレットの確認 ③大学ホームページ内の大学院指導教官の研究内容の更新報告 ④学報「大学院だより」の検討 ⑤受験者確保に関する方策について、今年度の目標は充足率50%(修士8名、博士2名)の獲得を目指し、特に入試受験志願者を現職看護職から獲得するための方策について検討した。
第3回	H30年6月12日(火) 13:30～15:00	①募集要項の配布先の確認 ②大学院パンフレットの確認 ③学報「大学院だより」の確認。来年度から前学期のみ1回作成発行に変更する。 ④今年度の入試科目について、博士後期課程の「英語」と博士前期課程の「小論文」は受験希望者の有無によって昨年同様に担当者へ依頼する。各領域の作問については、昨年同様に準備を進める。 ⑤受験者確保に関する方策について、今年度は、北信・中信・南信の3ブロック毎に「大学説明会」を実施する方向で検討した。オープンキャンパスで開催される「大学院説明会」の運営方法、担当者について検討した。大学院説明会の周知方法について検討した。
第4回	H30年9月20日(木) 13:00～14:20	①事前相談の状況確認 ②入試出題者(領域)の依頼状況の確認 ③出願資格審査判定 ④入試従事者配置表の確認 ⑤大学院入試試験業務処理要項の確認
第5回	H30年10月4日(木) 17:00～17:30	①大学院入学試験業務処理要領の確認 ① 入試作問の進捗状況の確認 ③大学院2次募集要項について、博士前期課程と博士後期課程を実施する方向で検討した。
第6回	H30年10月20日(土) 14:05～14:20	①大学院入試、入試部会判定(試験日10/20) ②大学院2次募集要項の確認

第7回	H30年11月30日(金) 10:40~12:00	①大学院の授業聴講と大学院生との交流会について報告 ②大学院二次募集受験予定者の状況確認 ③平成32年度大学院募集要項の「特別選抜」の扱いについて、英語試験廃止に伴う「特別選抜」のあり方や選抜方法について再検討した。 ④論文博士の資格審査に伴う入試業務関係への影響について、論文博士の資格審査として英語試験を大学院入試日にすることになるため入試部会が担当することで合意した。
第8回	H30年12月20日(木) 10:00~11:00	①事前相談の状況確認 ②入試出題者(領域)の依頼状況の確認 ③出願資格審査判定 ④入試従事者配置表の確認 ⑤大学院入試試験業務処理要項の確認 ⑥平成32年度大学院入学試験(修士課程)の募集要項修正案の検討
第9回	H31年1月15日(金) 17:00~18:00	①大学院2次入試出題者の確認 ②大学院2次入試作問の進捗状況の確認 ③入試従事者配置表の最終確認 ④学院入試試験業務処理要項の最終確認
第10回	H31年1月26日(土) 15:55~16:20	①平成31年度大学院2次入試、入試部会判定(試験日1/26) ②平成30年度自己点検評価報告書(入試部会報告書)は、3月にメール稟議とした。

## (2) 成果

- 1) 学報の「大学院だより」の作成とホームページ内「大学院指導教官の研究内容」の更新  
大学院の広報活動の一環として、学報の「大学院だより」に、新任教員の研究活動や院生の学修状況等に関する記事を掲載した。大学院周知のためにも今後も引き続き前学期に1回作成する方向で合意した。
- 2) 受験者確保対策
  - ①大学院説明会の実施  
8月4日(土)のオープンキャンパスで大学院説明会と個別相談を実施し、4名が参加した。また、担当領域の教員との個別相談は1次試験では3件、2次試験では7件であった。その他、個別に資料請求が2件あった。今後の大学院説明会では、実施回数、実施場所を再検討し、遠隔授業のためのサラス導入の可能性等についても説明する必要がある。
  - ②大学院の授業聴講と大学院との交流会の実施  
11月29日(木)にユニフィケーション事業との共催で実施した。参加者は授業聴講に27名、交流会には16名の看護師が参加した。大学院生は5名、ユニフィケーション事業担当教員は5名が参加した。今後は、今回の聴講と交流の機会を前期の共通科目開講時期にずらして開催することを検討していく。
- 3) 受験者および入学者の確保  
大学院1次試験は10/20に実施し、受験者は博士前期課程2名、博士後期課程0名であり、大学院2次試験は1/26に実施し、受験者は博士前期課程4名、博士後期課程

3名であった。最終的に、平成31年度大学院入学手続きを済ませた者は、博士前期課程5名、博士後期課程2名である。

4) 入試システムの検証と見直し

①募集要項、②入試業務処理要領、③試験問題作成、④合否判定基準等の検証と見直しを継続的に行う必要がある。特に、③試験問題作成については試験問題の適切性、公平性等を高めるために作問委員会を設けるなどの案が提案された。

5) その他

博士後期課程入試における外国人特別選抜については、大学院教務部会で入学後の教育体制課題を整理した後、引き続き検討することとなった。

### 3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

1) 受験者および入学者の確保（具体策の検討と実施・評価）

①大学院説明会や大学院公開授業などによる継続的な広報活動

②サラスシステムによる「遠隔授業」の拡大と広報活動

(2) 将来的な課題

1) 受験者および入学者確保の対策を継続する。

2) 大学院博士前期課程の定員について検討する。

3) 公正・公平な入学試験実施と定期的な合否判定の適切性の検証を継続する。

## 第6章 学生生活及び学生への支援

### 第1節 学生支援活動

#### 1 学生支援体制

##### 1) 目的

学生支援に係る教職員及び健康センターの役割を見直し、学生の学習・生活の両面からの支援の充実・強化を図る他、大学として迅速な対応を行うための体制を整備する。

##### 2) 個人情報の厳正な取り扱い

- ① 相談窓口となる者は、学生のプライバシーの保護に努める。
- ② 相談窓口となる者は、学生個人の権利利益を保護するため、必要な措置を講ずるよう努め適正な取り扱いを行う。

##### 3) 相談窓口及び実施方法

###### ① 学年顧問

- ・各学年に2人の学年顧問を置き、学生の生活・履修・進路・学習面の相談を受ける。
- ・休学、復学、退学、奨学金や就職推薦に係る書類作成及び、保護者との連絡・調整を行う。
- ・卒業延期生は卒業まで同じ教員が担当する。

###### ② 保健室保健師

健康管理（精神・身体）全般を扱う。

###### ③ 学生支援員・就職支援員

学生支援員は日常生活全般に係る支援を、また就職支援員は、進路・国家試験に係る支援を行う。

###### ④ 臨床心理士（教員兼務）

臨床心理士として学生からの相談に応じる。

###### ⑤ 健康センター

- ・学生のこころの健康相談に応じる。
- ・窓口は保健室保健師とし、必要に応じて精神看護 CNS や健康センター相談員（外部）の助言を得て対応する。

###### ⑥ ハラスメント相談員

ハラスメント相談マニュアルに基づきハラスメントに関する相談等に対応する。

##### 4) 学生支援の責任者と責務

- ① 責任者は、学部にあつては学部長、研究科にあつては研究科長とする。
- ② 上記3)の窓口となっている者は、学生から相談を受けた場合、自身で解決出来ないと判断した際は、責任者に相談する。
- ③ 相談を受けた責任者は、対処方法を検討して関係者に指示するものとする。なお、必要があると認めた場合には、学長に相談・報告する。
- ④ 学生支援に関わる者の意識の高揚及び資質の向上を目的として、各委員会の協力を得て教職員の自己研鑽を進める。

##### 5) 学長への報告

責任者は、生命への危険性が高い事案、ストーカー行為を受けている事案、親密な関係にある者から身体的・精神的暴力を受けている事案等の重要な事象について、学長に報告し、学長の指示を受けて対応する。

##### 6) 学生支援会議

長野県看護大学学生支援会議設置規程による。

7) ハラスメントに当たる事象

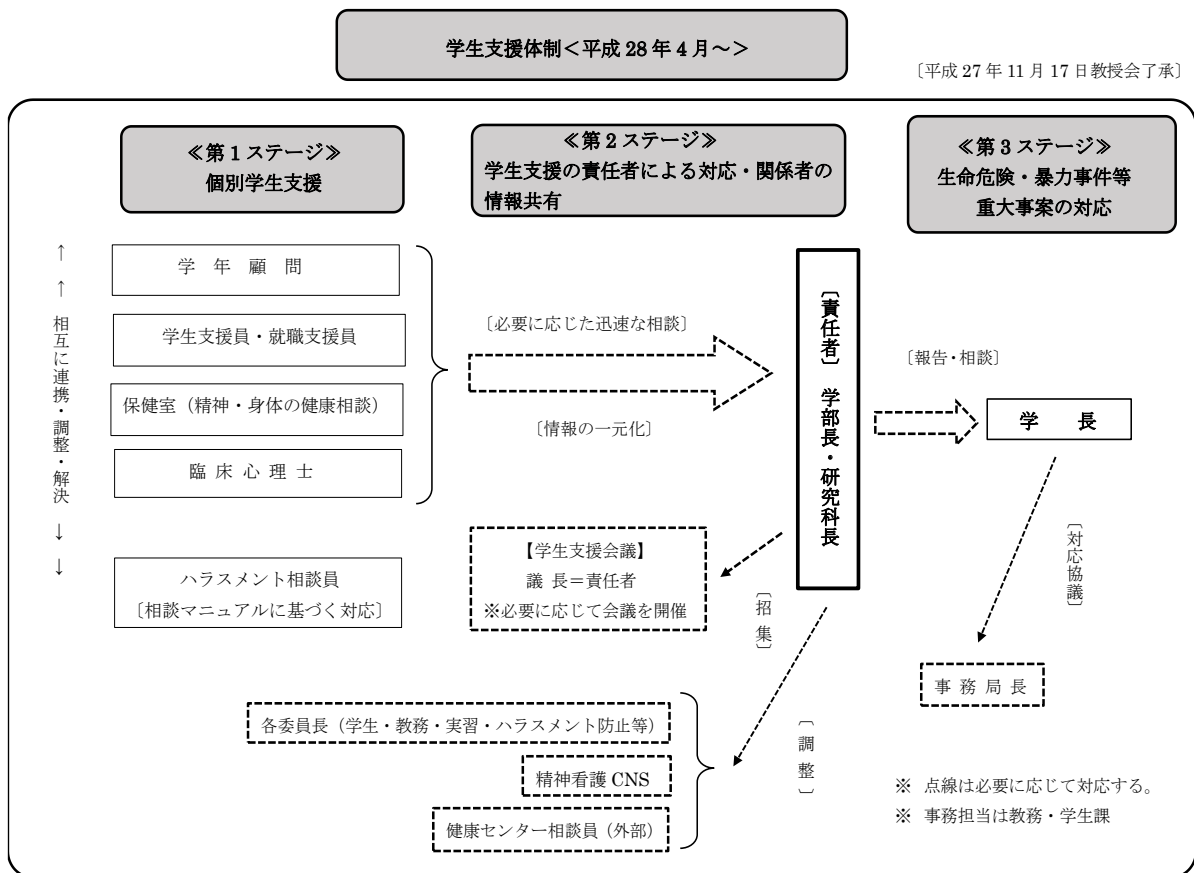
相談窓口となる者は、相談を進めるに伴って学生の抱える問題が明らかになり、ハラスメントにあたる判断できる事象が確認された場合、ハラスメント相談として対応することについて学生の了解を得たうえで、ハラスメント防止委員長に報告する。

8) 学生支援体制の見直し等

支援体制の見直し等、学生の支援に関することは、教授会の審議を経て学長が決定する。

9) 事務局

学生支援に係る事務は、教務・学生課が担当する。



2 学年顧問

1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生に身近な存在として学部長の指揮のもと学生の学習や生活に係る相談を受ける。なお、原則として入学から卒業までを同一教員が担当する。

2) 学年顧問の主な仕事

- ① 学生の生活面の困りごとの相談
- ② 学生の学習面の相談（履修単位の修得、実習に関する事、休学・退学等）
- ③ 学生の健康面に関する相談
- ④ 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- ⑤ その他 奨学金の推薦状の作成等
- ⑥ 学生支援会議に出席する

⑦ クラス委員との連絡・調整

3) 学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署／担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、教務・学生課等の関係者と連携して対応する。

また、必要に応じて学部長に相談・報告をする。

4) 保護者との連絡

学生の保護者への連絡が必要な場合は、学部長に相談のうえ、適任者が対応することとする。

また、その結果について学部長に報告する。

平成 30 年度学年顧問

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
顧問の氏名	井村准教授	座馬准教授	高橋講師	有賀准教授
	浦野講師	御子柴講師	小野塚講師	島袋助教

※ 卒業延期生の学年顧問は、卒業まで同じ教員が担当

5) 学年顧問の活動報告

<相談状況>

人数等 相談内容	相談内容別実人数 (人) (1人の学生が、複数の相談をした場合は、相談内容毎に1人とカウント)						
	履修・学習	アルバイト	進路・就職	対人関係	健康	家庭環境	その他
1 年	2			1			
2 年	2				1		
3 年	5		3	3	5	3	
4 年※	10		6		4		

※卒業延期生を除く

<総括>

① 1 学年

大半の学生は、順調に学生生活を送ることができた。当初、心身に不安を抱える学生が若干名いることを、保健室の先生などからの報告もあり把握していたが、とくに大きな支障を訴える者はいなかった。ただ、数名の学生が、授業面でペースをつかむことができずに、単位を落としてしまった。当人たちとは面談を行い、今後の学生生活等についてのアドバイスを行った。今後、授業態度や単位の取得について引き続き支援を続けながら、健康面も含めて、他の学生についても、問題が大きくなる前に把握できるよう注視していく必要がある。

② 2 学年

学生の多くは、授業や実習などの学習面について安定して取り組んでいたが、単位を落とす学生や、実習に強い不安や戸惑いをみせる学生もみられた。履修に問題を抱えている学生については、次年度以降に向けての履修計画の立案について支援を行った。また学習面の不安から、休学を選択する学生や、生活面・体調面に不安をもつ学生もみられ、保健室保健師、教務・学生課職員、学生支援員と連携して支援や対応を行った。今後も連携を維持しながら、継続して見守っていく必要がある。

### ③ 3 学年

履修・学習においては、過年度卒業となる学生を中心に対応した。学生と履修科目の確認を行い、無理のない履修計画となるよう調整した。

後学期より看護専門領域実習が始まることに備え、実習前に学生全体に不安や心配事の相談をするよう投げかけ見守った。相談に来た学生が数名おり、保健室保健師や実習委員と情報共有して対応した。実習に入り、もともと抱えていた進路の迷いから、実習継続が困難になった学生があった。学生が今後について落ち着いて考えられるよう、保健室保健師が中心となり対応した。

健康相談では、心身の健康不安に対し、休学と修学の調整について対応したケースがあった。今後も、復学後の学修支援を継続して行っていく必要がある。

### ④ 4 学年

多くの学生は順調に実習を終え、国家試験に向けて準備を進めることができたが、看護専門領域実習の後半や看護統合実習において、出席できなくなる学生が数名みられた。いずれのケースもこれまで大きな問題がみられなかった学生であり、実習担当分野や保健室および教務・学生課と連携を取りつつ対応を行った。助産選択コースでは6名中1名が辞退し、5名のみ履修となった。

就職に関しては、ほとんどの学生が希望する職種で内定を得られた。国家試験の合格率は看護師 98.7%、助産師 100%、保健師 87.0%であった。

卒業延期生については、それぞれの履修計画を確認するとともに継続的な指導を行った。奨学金の交付が継続できず、アルバイトを増やさなければならぬ状況となってしまった学生が複数名みられるため、学習面や生活面への影響が出ないように引き続きサポートしていく必要がある。

## 3 新学期の学生生活ガイダンスの実施等

### 1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

### 2) 防犯講習会の開催等

新学期開始直後に、すずらん寮に入居する1年生とアパート暮らしを始める2年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施した。また、10月の全国地域安全運動に合わせ、駒ヶ根警察署と伊南防犯女性部に協力し、学生に対しトーカー被害や個人情報の取り扱い、戸締りの徹底等防犯に関する啓発を行った。

### 3) ワーキングセミナー

アルバイトに関するトラブルを未然に防止するため、県労政事務所によるワーキングセミナーを開催した。

## 第2節 キャリア形成支援

### 1 在学時における進路支援

#### 1) 就職・進学に関する支援

##### (1) キャリアガイダンスの実施

##### (2) 進路希望調査の実施

4月：求職票の提出（4学年）      12月：進路希望調査票の提出（3学年）

##### (3) 個別面談の実施      4月：卒業予定者全員を対象

- (4) 求人票・募集要項等の整備
- (5) 「進路の手引き」(キャリア支援ハンドブック)の作成：全学年および全教員に配布
- (6) 求人等に関する来訪への対応
- (7) 職場体験(インターンシップ)・職場見学等の紹介や斡旋
- (8) 各種進路関係情報の提供(合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など)
- (9) 大学院等の募集要項の整備
- (10) 大学等からの教員募集要項等の整理
- (11) 応募及び採用試験への支援  
希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書の整備など
- (12) 公務員・養護教諭等の受験対策  
公務員対策講座への参加斡旋、参考図書等の整備、希望者への個別受験指導など
- (13) 新社会人ワーキングセミナーの開催
- (14) 県内市町村保健師採用合同説明会の開催

2) その他

- (1) 進路資料室の整備・充実
- (2) キャリア支援のあり方についての見直し・検討

2) 支援の実施状況・結果

<一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月15日(火)13:00~14:30

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。</li> <li>○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。</li> <li>○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。</li> <li>○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。</li> <li>○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。</li> <li>○リクルートキャリア講師によるキャリア形成についての講義を行う。</li> </ul>

<二年次>

キャリアガイダンスⅡ(卒業生シンポジウム) 7月20日(金)14:40~16:10

ねらい	○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関してのシンポジウムに参加し、進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">シンポジスト：中原 景 (静岡県立総合病院 看護師) 重盛 由里子 (長野市保健所 戸隠保健センター 保健師) 松田 舞 (伊那中央病院 助産師)</p>

<三年次>

キャリアガイダンスⅢ ①12月17日(月)10:40～12:10

②1月21日(月)13:00～14:30

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内容	①医療現場や自治体の採用状況、及び公務員試験・教員採用試験など、具体的な就職活動について、講義をしていただく。また、3年生にとっての2回目の進路希望調査を行う。 講師：松澤 里奈 (㈱マイナビ キャリアサポート担当) 担当：米窪 伸一郎 (就職支援員) ②職場での管理的業務を担当している講師(看護師・保健師)の方々が、職場の現状や看護大生への期待などについて講義を行っていただく。 講師：代田 とみ子 (飯田市立病院看護部長) 白鳥 啓子 (信州母子保健推進センター)

<四年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月6日(金)9:00～9:20

ねらい	○卒業学年として、就職活動・採用試験に必要な知識や手続きを確認する。
内容	○採用試験までの具体的な手順や履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。

2) 卒業生の就職・進路状況

- (1) 長野県内への就職者は46名(60.5%)で、昨年度の県内就職率(63.2%)を下回った。県内出身者の県内就職率は78.2%で、昨年度(88.5%)に比べ10ポイントほど下がった。県外出身者の長野県内への就職者が2名あった。
- (2) 看護師は63名(昨年度66名)で、全就職者の82.9%(昨年度86.8%)を占めている。助産師は5名で、昨年度(4名)に比べ増加した。三病院(信州大学医学部附属病院・長野市民病院・伊那中央病院)への就職者は16名で、全病院就職者の23.2%を占めている。
- (3) 行政保健師は県内4名、県外1名の5名で、昨年度(6名)と比較すると減少したが、ほかに産業保健師が2名、健診センターの保健師が1名であった。
- (4) 養護教諭一種免許状の取得を目指し、特別別科への進学が1名あった。



- (2) 国家試験受験手続説明会の開催  
10月 願書の作成について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)  
2月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明
- (3) 国家試験受験関係業務  
受験に必要な書類(願書、修業見込証明書等)の整備・点検および提出
- (4) 免許申請手続説明会の開催  
2月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明
- (5) 合格発表後の進路指導  
合格状況の確認 不合格者に対する支援
- (6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援
- (7) 国家試験対策補講の実施(1月に実施)
- (8) 国家試験受験対策ガイダンス(4月と10月に実施)
- (9) 受験参考書籍等の整備

## 2) 国家試験に関する実績

平成31年2月実施の国家試験では、助産師については全員が合格することができた。看護師で1名、保健師で10名の不合格者があり、ともに1名ずつが不採用となったが、残りの卒業生は、全員が希望職種に就職することができた。

<平成30年度国家試験の合格状況>

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第105回保健師	86	86	72	83.7%	79	79	69	87.3%	7	7	3	42.9%
第102回助産師	5	5	5	100%	5	5	5	100%	-	-	-	-
第108回看護師	79	79	78	98.7%	79	79	78	98.7%	-	-	-	-

## 3) 課題及び方策

受験者全員の合格を目指して、国家試験受験ガイダンスの充実や公開模擬試験および特別補講など今までの取り組みを更に発展・充実するよう努めていく。助産師資格受験者に対して、十分な受験準備が出来るよう支援していく。既卒の受験者に対しては、受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続していく。

## 第3節 保健厚生

### 1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子1台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師1名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、学生支援員(看護師)、学年顧問らと協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ①傷病者の応急処置に関すること
- ②健康診断、健康管理に関すること
- ③保健指導及び健康相談に関すること
- ④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること

- ⑤感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥学校行事等の救護
- ⑦その他保健に関すること

## 2 実績

### (1) 保健室利用状況

平成 26 年度から 30 年度の保健室利用状況を表 1 に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、実習、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、平成 30 年度にはインフルエンザ（疑いを含む）等感染症のため 17 名の学生が出席停止となった。発症した学生等に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表 1 保健室利用状況

区 分	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
健康相談（身体）	273	261	295	338	270
健康相談（精神）	61	61	40	90	177
相談（その他）	76	88	98	82	105
合 計	410	410	433	510	552

### (2) 定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②血圧測定、③胸部 X 線検査（間接撮影）、④血液検査（貧血）、⑤尿検査、⑥内科診察の 8 項目である。平成 26 年度から 30 年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表 2 に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、受診勧奨などを行っている。

入学年度の定期健康診断では B 型肝炎抗原・抗体検査を実施している。抗原・抗体いずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。また、小児ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査に関しては、入学年度の定期健康診断で実施してきたが、29 年度からは、大学入学までに各自で抗体検査を済ませてくることを決定し、該当者には周知している。そして、この検査で抗体陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。

表 2 定期健康診断受診状況（学部生）

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
健診対象者	342	341	337	337	343
受診者数（全項目を受診した者）	338	338	325	326	334
受診率（%）	98.8	99.1	96.4	96.7	97.4

## 3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、学生支援員、学生顧問など複数整備され、学生は相

談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験や課題提出が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

## 第4節 修学資金等

### 1 資金の種類

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

#### (1) 日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は34.0%、学部生では36.8%で3分の1を超える学生が利用している。大学院生の貸与者はいない。

#### (2) 長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は2.9%と低い。これは、本資金の貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。

<学部生>

・病床数200床未満の病院 ・精神病床を80%以上有する病院 ・過疎地域にある病院（県立木曽病院、飯山赤十字病院） ・診療所 ・介護老人施設 ・指定発達支援医療機関 ・重症心身障害児施設 ・母子健康センター（助産師に限る） ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る） ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設 ・母子健康センター ・地域保健法に規定する特定町村 ・訪問看護ステーション（医療施設で3年以上の実務経験が必要）

#### (3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成23年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は低い。

なお、平成29年度から、養成施設等の最終学年在学学生への一回貸与支援へと制度改正がなされ、貸与者はいない。

### 2 実績

各修学資金の貸与実績については、次のとおり。

日本学生支援機構奨学金貸与状況（平成30年度実績）

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
給付				2	2			2
第一種	16	21	23	20	80	0	0	80
第二種	12	13	15	21	61	0	0	61
延べ計(A)	28	34	38	43	143	0	0	143
併用(B)	3	2	4	7	16	0	0	16
計(C=A-B)	25	32	34	36	127	0	0	127
学生数(D)	91	84	85	85	345	16	12	373
貸与率(C/D)	27.5%	38.1%	40.0%	42.4%	36.8%	0.0%	0.0%	34.0%

長野県看護職員修学資金貸与状況（平成30年度実績）

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	3	3	3	1	10	0	0	10
学生数(B)	91	84	85	85	345	16	12	373
貸与率(A/B)	3.3%	3.6%	3.5%	1.2%	2.9%	0.0%	0.0%	2.7%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況（平成30年度実績）

平成28年度までの制度

新制度

種別	学部生					大学院生		合計	学部生 4学年
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程		
貸与者数(A)	2	1			3	0	0	3	0
学生数(B)	91	84	85	85	345	16	12	373	91
貸与率(A/B)	2.2%	1.2%			0.9%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%

## 2 授業料の減免

### 1) 概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年4回（4月、7月、9月、1月）に分納して授業料を納付することができることとしている。

### 2) 経済的理由による減免の実績

	28年度	29年度	30年度
対象者数	19人	17人	21人
減免額	10,180,200円	9,108,600円	11,073,200円

## 第5節 サークル活動及び大学祭

### 1 サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成30年度は26団体であった。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教職員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

平成 30 年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	代表責任者	副代表責任者	顧問	人数
軽音楽サークル	保坂 恵里奈	渡邊 海佑	御子柴 裕子	53
茶道サークル	平出 有咲	道法 蒼	有賀 美恵子	9
ほがらかふれあい農園サークル	道法 蒼	山上 奈々	太田 克矢	50
わらわらサークル	中井 海里	平出 有咲	島袋 梢	40
美術・文芸サークル	依田 みちる	渡辺 知映里	御子柴 裕子	9
アカペラサークル	山上 奈々	岩田 真奈	千葉 真弓	14
よさこいサークル鼓魂	臼田 馨	竹森 裕一	栗岡 真理子	30
弓道サークル	田口 綾菜	青木 未来	座馬 耕一郎	5
硬式テニスサークル	本間 みの瀬	岡沢 和花	太田 克矢	25
バスケットボールサークル	壬生 浩幸	山本 梨香子	曾根 千賀子	56
バドミントンサークル	田中 柚生	赤羽 愛葵	森野 貴輝	78
バレーボールサークル	青木 千夏	横坂 光希	酒井 久美子	67
スノーボードサークル	大島 武留	白鳥 魁人	有賀 智也	43
室内楽サークル	新井 美帆	土屋 朋花	千葉 真弓	24
卓球サークル	末福 誉博	依田 みちる	喬 炎	30
剣道サークル	倉持 楓	佐伯 桃香	三浦 大志	5
フットサルサークル	大島 武留	坂田 智美	三浦 大志	45
写真サークル	海谷 美帆	矢崎 仁悠	森野 貴輝	17
子どもとあそぼう！ちちんぷい	神谷 善之	林 真言	熊谷 理恵	40
ヘルシー&ダイエット ジョギング&ウォーキング倶楽部	神谷 善之	林 真言	熊谷 理恵	49
二輪車サークル	竹村 公亮	白鳥 魁人	太田 克矢	6
Skip	田中 麻莉子	小西 愛実	屋良 朝彦	25
ボルダリングサークル	福澤 拓真	金子 夢翔	有賀 智也	50
アンサンブルサークル	中川 航	山崎 冴織	上條 こずえ	17
いなん 100 km徒歩の旅サークル	佐伯 桃香	平出 有咲	座馬 耕一郎	9
ゴルフサークル	末福 誉博	竹森 裕一	太田 克矢	7

(2) 長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）

毎年9月上旬～中旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、鈴風祭実行委員会を組織し、準備・運営にあたる。平成30年度は9月8日(土)、9日(日)に開催した。看護大学ならではの特色ある企画として、好評のハンドマッサージコーナーや、子どもたちにも喜んでもらえるような企画を実施し、多くの方々に賑わった。

また、会場の一角には「大学説明コーナー」を設け、広報交流委員会のメンバーが、本学への進学を検討している高校生に対し、進学相談を行った。

○事前の周知活動

- ・PRのための学校訪問 : 小学校6校、中学校3校
- ・パンフレット広告スポンサー : 約100社

○当日の主な催し物

- ・ハンドマッサージ ・市町村保健師採用・合同説明会
- ・おしゃべりカフェ ・進学相談会
- ・サークル発表 (よさこい、アカペラ、室内楽、軽音楽、茶道)
- ・ビンゴ大会等の開催 ・ものづくりコーナー
- ・ゲストによるパフォーマンスショー ・各種模擬店

## 第6節 関係団体の活動

### 1. 大学生協

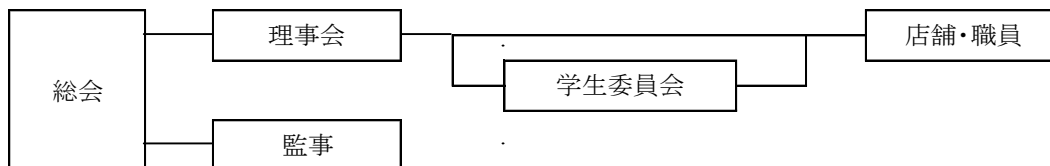
#### 1 概要

##### (1) 組織

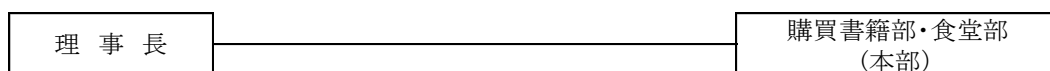
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生生活協同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

##### ①運営組織図



##### ②経営組織図



##### (2) 業務

看護大学生生活協同組合は、平成10年1月21日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

### 2 活動実績

#### (1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部 : 昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部 : 書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

#### (2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事:13名、監事:4名)による理事会等を以下のとおり開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	30年5月22日	理事長、専務理事の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	30年7月12日	3～6月経営状況及び活動報告 夏期営業日程について
第三回理事会	30年9月18日	3～8月経営状況及び活動報告 個人情報保護方針・個人情報保護規則の改正 長野県最低賃金の改定
第四回理事会	30年11月19日	3～10月経営状況及び活動報告 年末年始及び年度末の営業日程
第五回理事会	31年2月12日	3～1月経営状況 2019年度予算確認、生協総会の承認 (日程・選挙管理委員指名・開催公示と期間・役員立候補受付及び締切日の提案ほか) 職種級制度
第六回理事会	31年4月18日	2018年度決算及び活動報告 第21回総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は3月から翌年2月まで、役員の年度は5月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

(3) 学生委員会による取組

看護大学の学生により、生協の活動をPRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

月	主な活動内容
5月	生協総会(5/22)
6月	七夕企画計画、「Nsの☆」制作
7月	食堂装飾(笹)、七夕企画実行、「Nsの☆」完成・発行、ケーキバイキング
8月	鈴風祭模擬店計画・準備
9月	鈴風祭模擬店出店(9/8, 9)
12月	食堂装飾
2019/3月	お友達企画計画、卒業式生協食堂手伝い(3/9実施)、引っ越しお助け隊
4月	入学式生協食堂手伝い(4/2)、お友達企画実行(in生協食堂)(4/1)

(4) その他の成果

労働生産性の向上、ロス率の低い商品管理など業務の効率化により、前年度に引き続き供給高は増加した。

また、店舗・食堂の利用者数も引き続き増加傾向となっている。

### 3 課題及び方策

(1) 喫緊の課題

組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされ、利用者の増加につながっているが、この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみ依存している。そこで、職能給制度を導入するなど、パート職員のモチベーションの向上を図り、働きやすい職場(体制)づくりが最も急がれる課題である。

(2) 長期的な課題

- ・正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員(店長)の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中で

も、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の1つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、組合員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

- ・ 学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。
- ・ 自治会と協力しての企画も求め、その活動を周知する必要がある。

## 2. 後援会

### 1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業等を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会並びに会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・ 学生の課外活動に対する援助。
- ・ 学生の生活指導・厚生等に対する援助。
- ・ 大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

### 2 活動実績

#### (1) 主な業務

##### ① 新入生オリエンテーション、学生自治会への補助

自治会活動（鈴風祭、サークル）へ補助

##### ② 進路指導や福利厚生のために必要な事業等への補助

B型肝炎ワクチン予防接種（1年生：3回）、B型肝炎抗体検査（全学年）、国家試験対策ガイダンス経費・進路指導書等購入への補助

##### ③ 卒業式及び卒業生を送る会等、地域との交流等に対しての補助・協力

送る会経費の補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金

##### ④ 後援会だよりの発行

第21号（430部）の発行

#### (2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第1回役員会	30年4月2日	総会議題等について
総会	30年4月3日	・平成29年度事業報告・収支報告書について ・平成30年度事業計画・収支予算、役員選任について
第2回役員会	30年9月8日	・平成30年度中間報告、実習補助費、卒業式、就職求人状況等について ・平成31年度役員体制案について

第3回役員会	31年3月9日	・平成31年度事業・決算見込みについて ・平成31年度新役員体制の確認等について
--------	---------	---

### 3 課題及び方策

平成28年度まで、後援会事業として実習交通費等に対する補助を実施していたが、実習施設の増加及び遠隔地化に伴って年々経費が増加し、他の事業の実施に支障をきたす恐れが生じてきたことから、平成29年度に大学管理の「実習交通費会計」を新たに設置し、後援会から切り離れた。

これに伴って、見直し後の予算規模に見合った会費を設定し直したことから、今後は、新たな枠組みのもとで安定的な組織運営が行われるよう留意するとともに、大学の運営或いは学生への援助（学生自治会補助・サークル補助等）のあり方について、有効性の観点から、随時見直しを行っていく必要がある。

## 3. 同窓会

### 1 概要

同窓会「鈴風会」は平成15年、長野県看護大学創立10周年を機に設立された。会の名称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は、母校と会員（卒業生・修了生）とをつなぐ架け橋となることである。主な事業は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

会員は、会員（卒業生・修了生等）、準会員（在学中の学生）に分けられる。最高議決機関として総会があり、ここで鈴風会の活動に関する決定がなされる。実務機関として執行部会があり、会長・副会長・会計・庶務の各役員で運営されている。

### 2 活動実績

- (1) 平成30年度基本方針
  - ・会員同士のネットワーク強化
  - ・同窓会活動の充実

#### 【活動内容】

<会員同士のネットワーク強化に関すること>

○ホームページの活用及び会員の参加しやすい活動方法の検討

ホームページには同窓会の活動報告を掲載し、配布物にURLを明記してホームページの周知を図っている。また、行事の案内について郵送に加えてホームページに掲載すること、会員宛の郵送物にQRコードを掲載し登録情報変更手続き方法へのアクセスの簡便化を図ることにより、連絡先不明者対策を行っている。

<同窓会活動の充実に関すること>

○今後の活動方法の検討

入学手続き時の入会案内方法を執行部会にて検討し、通知内容や会則の明示につい

て見直しを図った。

○会員サービスの検討及び実施

隔年開催の計画となっている同窓会パーティーを開催した。幅広い世代の参加があり、会員の親睦を深める場となった。

○母校との連携

大学の広報・交流委員会からの依頼に応じ、長野県看護大学学報に同窓会パーティーが開催されたことを寄稿した。

(2) 平成 30 年度活動日程

活動	開催日	主 な 議 題 等
第 1 回 執行部会	平成 30 年 5 月 11 日	・同窓会パーティーの企画について ・涼風祭パンフレットへの広告掲載について ・会費の徴収や会則の改正について
第 2 回 執行部会	平成 30 年 8 月 7 日	・同窓会パーティーの企画について ・9 月卒業生の対応について
同窓会 パーティー	平成 30 年 9 月 8 日	・アイパルにて同窓会パーティー開催
第 3 回 執行部会	平成 30 年 11 月 20 日	・同窓会、涼風会会則の改正について ・定例総会について
第 4 回 執行部会	平成 31 年 1 月 21 日	・第 17 回定例総会について ・会則の改正について ・役員を選出について ・卒業生・修了生への卒業記念品の進呈について ・退職する教員への記念品進呈について ・2019 年度入学生への入会案内について
第 17 回 定例総会	平成 31 年 3 月 8 日	定例総会開催
第 5 回 執行部会	平成 31 年 3 月 8 日	・新旧役員引き継ぎ ・令和元年度の活動について

### 3 課題及び方策

鈴風会設立以来、新入会員の会費徴収は大学にご協力いただいていたが、平成 28 年度より徴収方法が変更となったことから、入会者及び会費収入が以前と比べ、約 4 割以上低下と大幅に減少している。そのため、活動の拡大は困難であるが、入会促進を図るとともに、会員・準会員にとって有意義な活動となるよう検討を進める必要がある。令和元年度の活動方針は以下のとおりである。

(1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページによる情報発信を継続し、同窓会活動に参加する会員の増加を図る。

(2) 同窓会活動の充実

- ・同窓会の活動継続に向け入会者の増加を図るため、新入生や在学生への入会案内方法や会費徴収方法についてさらに検討を進める。
- ・大学祭に合わせ卒業生からのメッセージ展示など、会員が参加できるとともに、在学生への同窓会の PR となる活動を検討し、実施する。
- ・多くの会員の参加が得られるよう、同窓会パーティーを企画・開催する。
- ・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。

## 第7節 学生生活アンケート

### 1 アンケート調査の概要

#### 1) 目的

学生（学部学生）の生活状況を把握して、教育活動ならびに学生生活指導を検討する資料とする。

#### 2) 実施時期

平成30年11月

### 2 結果の概要

#### 1) 回答者数283（学部在籍者総数344に対する割合：82.3%）

#### 2) 平成30年度の学年比較の特徴

- ・ 授業理解及び学習時間については「とてもよく理解できている」「よく理解できている」が47.7%と前回調査（H28年度，41.5%）よりも改善の傾向が見られた。
- ・ 卒業後に保健師を目指す学生は、17.4%と前回調査（H28年度，21.3%）から減少している。
- ・ 実家からの仕送りを受けていない学生は全体の34.8%を占めており、特に1年生は43.2%と高い傾向にある。
- ・ アルバイトに従事している学生数は1年生（80%）、2年生（90.1%）と多いが、3・4年生では減少している。しかし、4年生の59.1%はまだ2～20時間のアルバイトに従事している。
- ・ アルバイト収入は各学年共に3～5万円が多く、5万円以上の収入のある学生の比率は2年生が最も多い（34.6%）。
- ・ 悩み事の内容では、「自分のこと」が各学年で約17%と一定の割合を占める一方、「卒業後の進路」が各学年で20～40%を占めている。悩み事の多くは友人や親に相談して解決していた。

### 3 集計結果について

- ・ 学生の生活経済の実態を正確に把握するために、今後も高い回収率を目指す。
- ・ アンケートを通じて得られた結果を、学生生活の向上に役立てる。

学生生活アンケート集計結果（平成30年度と平成28年度の比較）

年度	平成30年度			平成28年度		
	在籍数	回答数	回答率(%)	在籍数	回答数	回答率(%)
1年生	85	75	88.2	85	83	87.6
2年生	85	81	95.3	80	76	95.0
3年生	83	66	79.5	82	5	91.5
4年生	91	61	67	94	72	76.6
合計	344	283	82.3	341	236	89.7

#### 4 平成30年度 学生生活に関する調査 集計結果 (抜粋)

(3) あなたは大学の授業内容を全体的にどの程度理解できていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
とてもよく理解できている	0	0.0%	0	0.0%	2	3.0%	1	1.6%
よく理解できている	27	36.0%	45	55.6%	34	51.5%	26	42.6%
どちらともいえない	37	49.3%	33	40.7%	28	42.4%	25	41.0%
あまり理解できていない	10	13.3%	3	3.7%	2	3.0%	8	13.1%
ほとんど理解できていない	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
合計	75		81		66		61	

(4) あなたは普段、予習や復習を1週間にどの程度行っていますか(課題を行う時間や試験前は除く)。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
予習や復習は行わない	9	12.0%	32	39.5%	24	36.4%	27	44.3%
30分未満	13	17.3%	20	24.7%	17	25.8%	11	18.0%
30分以上1時間未満	8	10.7%	10	12.3%	13	19.7%	8	13.1%
1時間以上2時間未満	15	20.0%	5	6.2%	3	4.5%	9	14.8%
2時間以上4時間未満	12	16.0%	8	9.9%	5	7.6%	5	8.2%
4時間以上7時間未満	9	12.0%	4	4.9%	1	1.5%	0	0.0%
7時間以上14時間未満	7	9.3%	1	1.2%	3	4.5%	0	0.0%
14時間以上21時間未満	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
21時間以上28時間未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
28時間以上	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	75		81		66		61	

(7) あなたは卒業後どのような進路を考えていますか。最も希望しているものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
看護師	43	57.3%	45	56.3%	49	74.2%	50	83.3%
保健師	18	24.0%	13	16.3%	10	15.2%	8	13.3%
助産師	8	10.7%	15	18.8%	7	10.6%	2	3.3%
養護教諭	3	4.0%	2	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
進学	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	2	2.7%	5	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
合計	75		80		66		60	

(19) あなたは現在実家などから仕送りを1ヶ月にどの程度受けていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
仕送りは受けていない	32	43.2%	26	32.1%	20	30.3%	20	32.8%
3万円未満	14	18.9%	14	17.3%	7	10.6%	8	13.1%
3万円以上5万円未満	19	25.7%	28	34.6%	24	36.4%	19	31.1%
5万円以上10万円未満	8	10.8%	11	13.6%	12	18.2%	13	21.3%
10万円以上15万円未満	0	0.0%	2	2.5%	3	4.5%	1	1.6%
15万円以上	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	74		81		66		61	

(20) あなたは現在アルバイトを1週間にどの程度行っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
アルバイトは行っていない	15	20.0%	8	9.9%	4	6.2%	25	41.0%
2時間未満	2	2.7%	0	0.0%	7	10.8%	3	4.9%
2時間以上5時間未満	8	10.7%	5	6.2%	4	6.2%	3	4.9%
5時間以上10時間未満	16	21.3%	23	28.4%	19	29.2%	14	23.0%
10時間以上20時間未満	28	37.3%	28	34.6%	23	35.4%	13	21.3%
20時間以上	6	8.0%	17	21.0%	8	12.3%	3	4.9%
合計	75		81		65		61	

(21)あなたは現在アルバイトによって1ヶ月にどの程度収入がありますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
アルバイトは行っていない	14	18.7%	8	9.9%	3	4.5%	23	39.0%
3万円未満	17	22.7%	20	24.7%	24	36.4%	10	16.9%
3万円以上5万円未満	26	34.7%	25	30.9%	22	33.3%	15	25.4%
5万円以上10万円未満	16	21.3%	26	32.1%	16	24.2%	11	18.6%
10万円以上	2	2.7%	2	2.5%	1	1.5%	0	0.0%
合計	75		81		66		59	

(25)あなたは現在悩んでいることがありますか。悩んでいる内容について、当てはまるものをすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
自分のこと	33	20.5%	32	17.3%	20	16.4%	17	17.5%
友達のこと	11	6.8%	16	8.6%	3	2.5%	4	4.1%
異性のこと	11	6.8%	12	6.5%	5	4.1%	5	5.2%
家族・家庭のこと	5	3.1%	10	5.4%	6	4.9%	9	9.3%
アルバイト	19	11.8%	15	8.1%	7	5.7%	3	3.1%
サークルなどの活動	3	1.9%	6	3.2%	2	1.6%	2	2.1%
大学での勉強(実習を除く)・研究	42	26.1%	25	13.5%	19	15.6%	39	40.2%
実習	8	5.0%	15	8.1%	12	9.8%	0	0.0%
卒業後の進路	14	8.7%	40	21.6%	40	32.8%	8	8.2%
経済状態	11	6.8%	8	4.3%	4	3.3%	5	5.2%
ハラスメント	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	1.0%
性自認、性的指向	2	1.2%	1	0.5%	2	1.6%	0	0.0%
その他	2	1.2%	4	2.2%	2	1.6%	4	4.1%
合計	161		185		122		97	

(26)あなたは、困った時や悩んだ時には誰に相談しますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
友人	58	39.2%	63	38.7%	57	40.1%	51	39.2%
親	53	35.8%	53	32.5%	45	31.7%	34	26.2%
兄弟姉妹	14	9.5%	16	9.8%	14	9.9%	12	9.2%
学年顧問	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.8%
保健室保健師	1	0.7%	0	0.0%	3	2.1%	4	3.1%
学生支援員・就職支援員	1	0.7%	3	1.8%	3	2.1%	2	1.5%
大学の教職員(学年顧問、保健室保健師、学生支援員・就職支援員を除く)	1	0.7%	3	1.8%	2	1.4%	4	3.1%
大学やアルバイト先の先輩	5	3.4%	12	7.4%	7	4.9%	6	4.6%
過去にお世話になった先生(小中高の教員、塾の講師など)	2	1.4%	3	1.8%	1	0.7%	2	1.5%
相談する人がいない	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
誰にも相談しない・したくない	7	4.7%	4	2.5%	6	4.2%	5	3.8%
その他	6	4.1%	4	2.5%	3	2.1%	9	6.9%
合計	148		163		142		130	

## 第7章 施設の管理運営等

### 第1節 施設の状況

#### 1 施設の全体概要

##### (1) 校地

本学の校地面積は、75,733 m<sup>2</sup>と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m <sup>2</sup>	15,948.00 m <sup>2</sup>	5,760.00 m <sup>2</sup>	17,074.00 m <sup>2</sup>	75,733.00 m <sup>2</sup>

##### (2) 施設・設備

###### 1) 管理棟 (2,242.13 m<sup>2</sup>)

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

###### 2) 教育研究棟 (9,079.39 m<sup>2</sup>)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器50台)、研究室(講師以上は個室、助教・助手は複数人で1室)、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに6室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が4室ある。なお、中講義室のうちの1室には、県内8大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

###### 3) 講堂 (962.43 m<sup>2</sup>)

511席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

###### 4) 図書館 (1,200.62 m<sup>2</sup>)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVルームを設置している。

開館時間は平日、9時～19時。実習期間中は、平日は21時まで、土曜日は10時～16時まで利用可能としている。

###### 5) 体育館 (893.68 m<sup>2</sup>)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれる。

学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

###### 6) 学生棟 (802.21 m<sup>2</sup>)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1, 131. 64 m<sup>2</sup>)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障がい者福祉センターの南信地域における拠点である障がい者スポーツ支援センター駒ヶ根として障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15, 948. 00 m<sup>2</sup>)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12, 505. 00 m<sup>2</sup> [隣接の「語らいの並木」を含む])

コース延長 600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2, 504. 44 m<sup>2</sup>)

2棟80室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常講師勤宿舍 (328. 00 m<sup>2</sup>)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。

また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9, 079. 39 m <sup>2</sup>	2, 242. 13 m <sup>2</sup>	802, 21 m <sup>2</sup>	1, 200. 62 m <sup>2</sup>	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤講師宿舍	合計
893. 68 m <sup>2</sup>	962. 43 m <sup>2</sup>	2, 504. 44 m <sup>2</sup>	328. 00 m <sup>2</sup>	18, 012. 90 m <sup>2</sup>

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
	認定看護師教育課程講義室	2室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学・生理学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老人看護実習室	1室
	在宅看護実習室	1室
助産実習室	1室	
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	LL教室	1室

### (3) 設備機器

#### ○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舎、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 50 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

### (4) 課題及び方策

開学から 24 年が経過し、空調設備、温水プールの諸設備など修繕を必要とする箇所が増えてきており、今後更に修繕箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

## 2 図書館

### (1) 概要

#### 図書館の利用状況

付属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

#### 1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、4 人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、グループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。

データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は順番待ちで利用することも多い。データベースのバージョンアップに機器のバージョンが対応できない状況も発生している。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 76,293 冊である。

表 館内面積および設備

総面積 1,200 m <sup>2</sup>							
閲覧スペース	688 m <sup>2</sup>	書庫	131 m <sup>2</sup>	事務室	57 m <sup>2</sup>	その他	325 m <sup>2</sup>
閲覧席 80 席(内個人閲覧席 12 席)/教員学習室 3 室/グループ学習室/AVルーム(個人ブース 10 席)/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

### 2) 図書館資料

#### ① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したもの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2014 年度末	64,725	7,051	71,776
2015 年度末	65,717	7,402	73,119
2016 年度末	66,627	7,418	74,045
2017 年度末	67,750	7,439	75,189
2018 年度末	68,802	7,491	76,293

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計 冊数
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	
2018 年度末	18,401	24.1%	22,146	29.0%	35,746	46.9%	76,293

## ②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、円安や雑誌高騰から洋雑誌については無料ダウンロードや記事複写依頼で対応することで大幅に減らした。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌 (種類)		洋雑誌 (種類)		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	
2014 年度	96	278	29	8	411
2015 年度	84	271	18	0	373
2016 年度	81	302	8	3	394
2017 年度	80	183	8	0	271
2018 年度	77	194	7	2	280

2018 年度契約電子ジャーナル 和雑誌: メディカルオンライン 洋雑誌: CINAHL With Full text  
現在購読している新聞は、全国紙 4 紙地方紙 3 紙である。過去 3 年分を保存している。

## ③視聴覚資料

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合計
2014 年度	395	1,844	108	82	2,429
2015 年度	432	1,844	125	85	2,486
2016 年度	460	1,839	125	84	2,508
2017 年度	488	1,839	125	66	2,518
2018 年度	487	1,842	125	66	2,520

## ④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「NACSIS-Cinii」エブスコ社「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵がすぐ確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。これらは学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

## 3) 利用状況

## ①開館時間・日数

平日の開館時間は、9 時から 19 時まで、長期休業中は 17 時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である 5 月から 12 月については、平日は 9 時から 21 時、土曜日は 10 時から 16 時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2018年度は、前年度より減少している。また、貸出数も減少している。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1日平均
2014年度	232	25	257	40,295	156.8
2015年度	234	23	257	35,910	139.7
2016年度	234	23	259	36,425	139.5
2017年度	235	23	258	37,532	145.5
2018年度	232	20	252	35,181	139.6

表 貸出条件

	学 生	院 生	認定看護師	教 員	学外者
貸出期間	2週間				
貸出冊数	5	15	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2014年度	9,601	1,769	11,370
2015年度	8,612	1,826	10,438
2016年度	10,165	2,220	12,385
2017年度	13,748	2,585	16,333
2018年度	11,602	2,104	13,706

#### 4) 外部開放

##### ①概要

平成16年度より、18歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、9時から授業日は19時まで、休業日は17時までとなっており、貸出冊数は5冊、貸出期限は2週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

##### ②利用状況

入館者数は、微増となった。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

区 分 年 度	学外入館者数（概数）				貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	合計	
2014年度	1,027	110	434	1,571	2,275
2015年度	816	75	352	1,243	2,126
2016年度	840	118	223	1,181	2,264
2017年度	802	132	167	1,101	2,232
2018年度	698	145	130	973	1,956

##### (2) 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員から

の購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていく。

雑誌については、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努める。

入館者数、貸出数は増加に転じている。課題、実習との連携（コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努める。

開学して20年以上経過し資料的価値が低くなった図書が増加したこと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていく。

### 3 施設の利用開放状況

#### (1) 概要

大学のほとんどの施設は、学内利用との調整を図りながら、「長野県看護大学行政財産の目的外使用に関する規程」に基づいて学外者に開放しており、テニスコート、グラウンド、屋内プールなどスポーツ施設の学外者利用度が高くなっている。

屋内プールについては、大学の使用しない時間帯は、長野県障がい者福祉センターの南信地域における拠点である障がい者スポーツ支援センター駒ヶ根として障害者に開放している他、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

グラウンド及び体育館は、災害発生時における地域住民の避難場所となっている。

年に2回程度開催の公開講座では、講堂を会場に行い、多くの市民が参加している。

大学南側に道路を隔てて設置されている有酸素運動コースは、ふれあい花壇に隣接していることもあり、近隣の市民の憩いの場ともなっており、随時ウォーキングなどに利用されている。

#### (2) 利用実績

学外者に対する施設の開放については、学内利用との調整を図りながら行っているところであるが、利用日数、利用者数とも一定の利用がある。

学外者の利用状況

年度	施設名	テニス コート	グラウンド	屋内 プール	講堂	講義室	体育館
	平成30年度	利用日数	53	45	261	1	1
利用者数		609	1,538	9,544	120	44	68

#### (3) 課題及び方策

市民の交流によって地域に開かれた大学となっており、一定の利用もあるこの状況を今後とも継続していく。しかしながら、施設開放にあたり、保安上の問題など構造的に不便な箇所があることや、経年劣化等による施設の修繕や設備改修等が懸念され、予算上の制約などにより万全な状況での開放が困難となることが予想されることから、できる限り必要な予算等の確保に努め、大学運営に支障のない限り、大学施設を障害者のスポーツ活動や地域住民などへ開放していくこととしたい。

## 第2節 財政の状況

### 1 概要

#### (1) 予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況にはなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

#### (2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

### 2 実績

#### (1) 予算、決算の状況（平成30年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約3割、県の一般財源が約7割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約7割、大学の管理運営に必要な物件費が約2割、教育研究に必要な物件費が約1割を占めている。

（歳入）

財源、歳入科目等			予算額（円）	決算額（円）	構成比
特定財源	自主財源	使用料	214,024,000	195,635,638	22.1%
		授業料			
		寄宿料	5,451,000	5,321,800	0.6%
		行政財産使用料	36,000	58,853	0.0%
	手数料	入学料	24,939,000	25,944,000	2.9%
		入学審査料	7,259,000	7,395,400	0.8%
		証明事務手数料	38,000	55,600	0.0%
		財産収入	296,000	296,703	0.0%
		諸収入	39,129,000	39,628,570	4.5%
		計	291,172,000	274,336,564	30.9%
	基金繰入金	2,940,000	2,450,000	0.3%	
	計	294,112,000	276,786,564	31.2%	
県債			102,000,000	102,000,000	11.5%
一般財源			531,699,000	507,828,234	57.3%
合計			927,811,000	886,614,798	100.0%

(歳出)

歳出科目等	予算額 (円)	決算額 (円)	構成比
報酬	12,583,211	11,491,534	1.2%
給料	349,859,000	349,176,108	34.5%
職員手当	184,424,000	184,049,045	18.2%
退職金	11,480,493	11,480,493	1.1%
共済費	109,489,484	109,232,212	10.8%
賃金	10,099,912	8,486,501	0.8%
報償費	17,192,000	9,124,142	0.9%
旅費	18,732,230	13,892,467	1.4%
交際費	43,000	0	0.0%
需用費	71,914,308	60,417,951	6.0%
役務費	12,454,000	9,862,952	1.0%
委託料	166,182,000	160,290,234	15.9%
使用料及び賃貸料	22,051,000	19,444,252	1.9%
工事請負費	45,761,000	44,733,600	4.4%
備品購入費	17,991,000	16,533,720	1.6%
負担金・補助金及び交付金	3,385,249	3,370,391	0.3%
公課費	193,800	193,800	0.0%
合計	1,053,186,349	1,011,779,402	100.0%

### 3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生、大学院生及び認定看護師養成課程受講生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かすことができないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

## 第8章 自己点検・評価総括

平成30年度の自己点検・評価を実施した。平成30年度は、前回平成23年度の大学基準協会による認証評価(受審)から7年目を迎え、3回目の評価の年度にあたる。今回の認証評価はPDCAサイクルにおける、特にP(実施計画)とC(自己点検・評価)を結び付ける「内部質保証」の評価視点が特長である。そうした点を踏まえながら、教職員が当該報告書の作成に協働して取り組むことを通して、本学の特長、現状と課題等を改めて認識し「社会は本学に何を求めているか？」という問いに、教職員一人一人が真摯に向き合うための貴重な機会となったことと思う。

そこで、今年度は受審を踏まえて、重点課題の達成度の観点から認証評価(受審)の他4項目、委員会・部会活動の活性化の観点から8項目を中心に総括する。

### <重点課題>

#### 1. 認証評価(受審)について

平成30年10月29,30日(公財)大学基準協会の現地調査を経て、「2018(平成30)年度大学評価の結果、長野県看護大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は、2019(平成31)年4月1日から2026(平成38)年3月31日までとする。」との判定を得て、無事に受審を終えた。その過程で、①教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備が不十分なこと、②内部質保証システムの整備が不十分なこと、が改善課題として指摘されたことから、PDCAサイクルを効果的に機能させ内部質保証システム改善の取り組みを継続する必要がある。今後の大学運営にあたり、昨年度策定した「第3次中期構想指針」を内部質保証システムにどのように連動させていくか等課題が山積しているが、「地域に学び、未来を拓く」の行動理念のもと、「グローバル(Global)」と「チャレンジ(Challenge)」と「ケア力(Caring)」と「英知(Wisdom)」の4つを行動目標とした本学独自の内実の伴う内部質保証システムを構築していきたい。

#### 2. 大学の法人化について

平成30年度の公立大学法人「長野県立大学」の開学や公立大学の法人化の潮流等に伴い、本学も独立行政法人への移行について検討することが求められるものと考えられる。法人化の形態として、①一法人一大学、②一法人二大学、③二法人二大学が考えられるが、本学では③二法人二大学を基本に、今後検討していくことが大学運営委員会と教授会で確認された。その過程において、教員たちが大学の在り方や教育・研究、社会・地域貢献について改めて考えを深め自らの現在を再点検する貴重な機会となったものと思う。

#### 3. 「看護管理学・看護教育学」分野の創設

看護管理学・看護教育学の教員が確保され、平成30年度は学部・大学院での組織的な位置づけやカリキュラムへの組み込みが行われたことから、基礎看護学分野から当該分野

を独立させた。

#### 4.看護実践国際センターの部門の再編

令和2年度に「看護教員養成事業」を実施することから、看護実践国際センターに「看護教員・看護管理者教育部門」を新たに創設することおよび令和元年度に認知症看護分野を廃止することに伴う「認定看護師教育部門」の廃止を決定した。今後、県内の看護系大学との差別化を推進するために、継続教育に重点を部門の創設を視野に検討したい。

#### 5.海外看護系大学との学術交流の推進

本学の開学以来の教育目標のひとつである「国内外の教育研究機関との共同研究や看護実践活動をとおしてグローバルな視野を持った人材を育成し看護学全体の発展に寄与すること」を目途に、平成30年6月7日揚州大学看護学院、平成30年8月21日サモア国立大学とそれぞれMOU(Memorandum Of Understanding)を締結して、これまでの交流により培われた相互信頼と国際交流の重要性を改めて確認した。来年度以降も、行動理念・行動目標のもと、中国・東南アジア諸国等の看護系大学との学術交流を推進していきたい。

#### <委員会・部会活動>

##### 1.教務委員会

文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が報告され、日本看護系大学協議会からもコンピテンシーに基づいた卒業時到達内容の見直しが提示されて説明会が開かれている。加えて、日本学術会議でも看護学教育の基準が提示されている。このように、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した参照基準が新たに作成されていることを受け、これら参照基準と本学の学部教育について自己点検・評価を行う必要がある。

##### 2.入試検討委員会

高大接続システム改革会議の「最終報告書」を受け、本学においても大学入学者選抜の改革について検討してきた。この「最終報告書」により新たに導入される入学者選抜は令和2(2020)年度から実施することが求められており、平成30(2018)年の9月に具体的な選抜方法等その概要についての予告・公表を行なった。来年度はさらに具体的な実施案を取りまとめ、その実施に向けた準備を始める必要がある。特に本学において、学校推薦型選抜Aに「地域特別枠」を設けて、県内過疎地域の医療に従事しようという人材を確保することや学校推薦型選抜Bにおいて、県内外を含め卒業後に県内で医療に従事しようとする者を選抜する等の大幅な見直しを行うことから、選抜方法等の具体的な準備を進めるとともに、入学後の学修支援や評価についても検討を進める必要がある。

その他、本学では編入学試験を平成 26(2014)年度まで行ってきたが、現在はその試験区分による学生の募集を停止している。今回新たに導入される入学者選抜を契機に、各選抜試験区分にかかる募集定員数の配分見直し等の検討を行ない、早期に編入学試験の廃止に向けた準備と手続きを開始する予定である。

### 3. 学生委員会

学生委員会が推進している「市町村保健師採用合同説明会」は、特に近年中山間地域の市町村に入職を希望する者が減少しており、行政保健師確保に困難な市町村が増加している現状を踏まえながら、保健師確保支援の場を継続して提供していくため、自治体のニーズを検討しつつ、当該事業を継続する必要がある。

### 4. ネットワーク推進委員会

近年、教育機関への標的型の攻撃等インターネット関連の脅威が増大しており、管理・運用にセキュリティ対策の充実が求められている。平成 30 年度を受審でも保守に精通した実務的処理担当者または委託先の選任が改善課題として挙げられた。まずは現状把握から進める必要があると考えている。機器によってはソフト面、ハード面での旧式化が懸念されるため、バージョンアップの必要性等についても検討する必要がある。

### 5. FD・SD委員会

本学の第 3 次中期構想指針においても、若手教員への研究支援の必要性を挙げていることから、次世代を担う若手教員への研究支援・環境作りが求められている。

### 6. 防災委員会

防災・減災への取り組みは本学の最重要課題のひとつである。防災訓練については、毎年市内消防署の協力を得て【消防避難訓練】を実施している他、【情報伝達訓練】、【安否確認訓練】を行ってきたが、昨年度から地域防災連携会議(委員会が協力)を通して、本学周辺の町内会と合同防災訓練を実施している。本年度は、市や本学、各町内の防災備品を持ち寄り体験型による防災訓練によって「自分たちが使えるようにならなければ」という当事者意識の喚起(意識変革・向上)に繋がった。今後も町内の自主防災会の参加等を通して、防災・減災への取り組みを強化していきたい。

### 7. 研究科委員会教務部会

学位規程に規定の論文博士について、平成 31 年度(2019 年度)から施行することとなった。このことによって、国内外から本学の研究生や大学院生を目指す者が増えることや、特に本学の博士後期課程の単位取得済の者の博士取得が可能になるものと期待している。

## 8. 研究科委員会入試部会

博士前期課程における一般選抜の「修士論文コース」の「英語科目」を廃止した。英語については、入学後に全学生を対象に専門領域において英語文献を活用する能力を育成するために、英語教員による「英語の教育プログラム」を実施していることや各分野のゼミ等で英語論文の読解力の向上に努めている。加えて、博士後期課程入試における外国人特別選抜については、大学院教務部会で入学後の教育体制課題を整理した後、引き続き検討する。

以上の総括評価の他に、開学 25 周年目に入り中長期的な視点から施設や備品の老朽化に伴う修繕・更新等について、本庁と協議を進める必要がある。

長野県看護大学長 北山秋雄

自己点検・評価報告書（平成 30 年度分）

2019 年 7 月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX0265-81-1256

印刷 榊宮澤印刷



長野県看護大学